

始



森博士述 (非賣品)

保險學 完

大正十三年度東大講義

14-711



森
博士
述
(非賣品)

險

學

大正十三年
東大講義



保險學 目次

第一編 總論

第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章
第九章
第十章
第十一章
第十二章

大數、方別
保險、性質
保險、他、近似、行為、差異
保險、可能範圍
危險分散主義
保險、淵源
保險者、種類
保險事業、經營方法
保險事業、種類
保險料
選狀
保險、效果

一
一
八
七
七
二
三
五
三
八
二
四
五
五
八
六
七
七
五

第十三章 保險之弊害
第十四章 私營保險業之監督

第二部 各論

第一編 生命保險
第一章 生命保險之沿革
第二章 生命表
第三章 保險料之計算
第四章 保險料積立金
第五章 生命保險會社之會計
第六章 生命保險會社之財政
第七章 身體檢查
第八章 特別危險
第二編 社會保險
第一章 序論

八二
八六
九一
九一
九五
一〇五
一二二
一三九
一三六
一三九
一四一
一四五
一四七
一四七

第二章 業務上之災害保險
第三章 健康保險
第四章 老廢及遺族保險
第五章 共業保險
第三編 火災保險
第一章 沿革

第二章 保險料
第三章 危險之測定
第四章 保險之分配
第五章 火災保險約款
第六章 火災保險之財政
第四編 海上保險
第一章 海上保險之沿革

一五四
一六四
一七二
一八二
一八九
一八九
一九七
一九九
二一〇
二一八
二三一
二三三
二三三

目次終

保
險
學

森
博
士
講
述



第
一
編
第
一
章
大
數
ノ
方
則

自然現象又ハ社会現象ヲ研究スルニ當リ個別觀察即チ唯一ノ事柄
史ヲ研究スルコト又ハ少數觀察即チ比較的少數ノ事項ヲ調ヘルコト
ニ依リテハ其真相ヲ捉ヘ得サル場合少カラス。及之大數觀察即チ
比較的多數ノ事柄ヲ調ヘテ其結果ヲ適當ニ整理スル時ハ復雜ナル出
來事ノ中ニモ一定ノ方則ノ存在スルコトヲ希見シ得ルコト多シ如此
ニシテ見出サレタル方則ヲ大數ノ方則ト云フ。

大数ノ方則トハ即チ社会現象又ハ自然現象ニ付キ大数ノ觀察ヲ行ヒタル結果ヲ適當ニ整頓スルコトニヨリテ察見セラレタル方則ヲ云フ。

大数觀察ノ結果ヲ整頓スルニ當リ通例用ヒラルル方法ハ分類、比較、平均ノ三ナリ、又之ヲ記述スルニ當リテハ数学又ハ図解ヲ用フ之等ノ詳細ハ統計学ニ譲リ茲ニハ只簡單ナル例ヲ示スニ止ム、例ハバ敵兵検査ヲ行ヒタル時ニ其身長ヲ一寸毎ニ差異ニ基ツキテ分類シタルニ下ノ如キ結果ヲ得タリトセヨ。

身長	人員	比例
四尺八寸未満	七、五七〇	一、五〇
四八——四九	一四、二五二	二、八三
四九——五〇	三三、四三七	六、六三
五〇——五一	六六、四八一	一三、一八
五一——五二	九五、八七七	一九、〇一
五二——五三	一〇六、五一一	二一、一一

五三——五四	八六、八四〇	一七、二二
五四——五五	五四、三三一	一〇、七八
五五——五六	二五、九三五	五、一五
五六六寸以上	一三、〇二三	二、五八
計	五〇四、二五七	一〇〇、〇〇

依之吾々ハ吾國壯丁身長ニ于テ明ナル大数ヲ有スルヲ得、此ノ如ク分類スルコトニヨリテ得タル大数ノ方則ヲ依リニ分類ノ方則ト稱セリト欲ス。

吾國ノ産業組合ノ發達ノ状況ヲ見ルニ	有限責任組合	無限責任組合	保証責任組合	計
明治四年	五、二三五	三、一八六	一九三	八、六一四
大正六年	八、三九三	三、三七六	二五六	一一、〇二五
明治三九年	四二、〇	五六、四	一、六	一〇〇、〇〇
明治四四年	六〇、八	三七、〇	二、二	一〇〇、〇〇
百分比例				

大正六年

六九八

二八一

二、一

一〇〇、〇〇

此ノ統計ニヨリテ産業組合ニ対スル世人ノ意嚮ヲ知ルヲ得、即チ有
 限責任組合ハ次第ニ好評ヲ博シ無限責任組合ハ發達ノ速度遅キノミ
 ナラス近年ニ至ツテハ其絶対数が却テ減少シツ、アリ、保証責任組
 合ハ殆レト世人カ省ミサルコトガ此ノ統計ニヨリ明ナリ、之ノ状況
 ハ右述スル相互保險会社ニ付テモ同様ニシテ吾國ニハ只有限責任、
 モノカ存在スルノミナリ、之相互会社ナルモノハ所謂 *Cooperative*
Movement 地合組合運動ノ一種トシテ各種ノ産業組合トシテ精神ヲ
 以テ現ハレタルモノナレトモ吾國ニ於テハ沿革上別種ノ *Part* ヲ以
 テ支配セラル、ガ故ニ往々世人カ其精神ヲ誤ルコトアレ共之ヲ單一
 産業組合ト云フ名ノ下ニ研究スルハ不穩當、嫌アレ共協合運動トシ
 テ研究スル場合ニハ之ノ兩者ヲ併セテ研究スルヲ要ス
 尚近年多クノ工場、鑛山等ニ設ケラル、共済組合ハ法律上ハ相互保
 險会社トシテ取扱ハザレ共其実質ハ殆レト合一テアリ、今ノ協合運動
 ノ一ノ現レナリ)

如此時又ハ所ヲ異ニスル多クノ場合ヲ比較研究スルコトニヨリ得
 ラル、大數ノ方則ヲ依リニ比較ノ法則ト稱セトス、
 大數觀察ノ結果ヲ分類シ又ハ比較スルニ當リ絶体數ノ外ニ百分比
 例其他ノ比例ノ方法ヲ用フル時ハ事物相互ノ干係シ一層明ニ知ルヲ
 得、其状況ハ前ニ表ニヨリ明ナリ、

凡ソ單純ニ絶計數ヲ比較シテ之ヲ研究スル時ハ色々ノ事件ニ就キ
 夫等ノ事件ノ絶對的重要ノ程度ヲ知ルコトヲ得、反之比例ノ方法ニ
 ヨル時ハ各ノ事件相互ノ間ノ相對的重要程度ヲ知ルコトヲ得ルカ故
 ニ一種異レル方面ヨリ其干係ヲ調フルコトヲ得、此比例ノ方法ヲ用
 フルコトハ多クノ場合ニ其実益多シ、此点ニ干シテ注意スヘキコト
 ハ比例數ノ増減ト絶計數ノ増減トハ必スシモ干係スルモノニ非スト
 ヲコトナリ、例ハ前ニ表ニ於テ無限責任組合ノ比例ハ次第ニ
 減少シツ、アレ共之ヲ以テ其組合ノ數ガ減少シツ、アルモノト誤解
 ス可カラス、比例數ハ唯若干ノ數字ノ間ニ於ケル相互ノ干係即チ其
 相對的ナル重要ヲ示スニ過キズ

又例ハハ小学校ノ児童(男児)ノ身長ヲ測定シタル時ニ其結果ヲ平均レテ左ノ統計ヲ得リトセヨ

年齢	人員	身長ノ平均
七	一七二、二九二	三、五三
八	一七七、四三四	三、六八
九	一七六、八一三	三、八三
一〇	一六九、四七六	三、九九
一一	一四三、四二六	四、一二
一二	一四〇、五一三	四、二七
一三	一一一、〇六五	四、四二

依之吾々ハ小供ノ生長ニ一定ノ法則ノ存在スルコトヲ知り得ベク
 同時ニ其尤モ代表的ナル即チ標準的ノ身長ヲ知ルヲ得、此ノ如ク平
 均数ヲ求ムルコトニヨリテ察見セラレタル大数ノ方則ヲ依リテ平均
 ノ法則ト称セントス。

平均数ヲ求ムルニ當リテハ右ノ如ク單純平均数ヲ取ルコトモアリ

共時トシテハ加重平均数ヲトルコトヲ適當トスルコトモアリ、例ハ
 ハ生計費問題ヲ研究スルニ當リ米價一割ノ騰貴ト堪、價一割ノ騰貴
 トテ公視スルハ不適當ナレバ、價一ニ對シ米ノ價ヲ例ハ八十ノ割
 合ニテ加重スルカ如シ、此事ハ研究ノ場合ニ應シテ考量スルコトヲ
 要スル重要ナル要件ナリ尚又平均数ノ價値、大小ハ其材料トナレル
 多数ノ数字ガ其平均数ヲハナル、程度即チ *deviations* 偏差ノ大小
 ニ比例スルモノナリ、可及的近似セル多数ノ *Fig.* ニツキ平均ヲ求メ
 タル場合ニ其平均数ノ價値ガ最も大ナリ、此ノ事ハ右ニ保險事業ニ
 付キ危険ノ公配(細分)ヲ述ルニ當リ注意ヲ呼起ス必要アリ、大数
 ノ法則ハ大数觀察ニヨリ見出サル、モノナレハ可及的多数ノ場合ヲ
 可及的正確ニ觀察スレハ之ニヨリ得タル結果ハソレ文ケ真理ニ近
 シ從テ各類平均比較ヲスルニ當リテハ之ノ注意ヲ忘ル可カラス、
 保險ト稱スル經濟上ノ一制度ハ大数ノ法則特ニ平均ノ法則、一ノ
 應用ナリ、例ハ生命保險ニ於テ死亡率ヲ計算スルカ如キ火災保險
 ニ於テ火災率ヲ計算スルカ如キ何レモ多年ノ經驗又ハ多数ノ事物ノ

観察ニヨリ得タル結果ヲ平均シテ初メテ之ヲ為シ得ルナリ、又海上
 保険ノ如ク危険率ヲ数学的ニ計算シ進キモノト虽經濟上ノ技術ヲ用
 ヒテ巧ミニ平均ノ法則ヲ勵カセテ其事業ヲ堅実ニ營ミ得ルナリ、從
 テ保險學ノ研究者ハ之ノ法則ノ意味ヲ了解スルト共ニ之ノ章ノ中ニ
 掲ゲタル二三ノ注意事項ヲ忘ル可ラス
 大數ノ法則中最モ廣ク用ヒラル、モノハ平均ノ法則ナリ、學者ハ
 依ツテ之ノニノミヨリテ法則ノ意味ニ用ヒ大數法則即チ平均法則ト云
 ラ人モアリ、サレ共大數ノ法則ハ平均ノ方法ニミナラス比較及ヒ分
 類ニヨリテモ之ヲ發見シ得ルモノナリ、之ノニツノ *second* ヲ同意ニ
 用フル事ハ多クノ場合ニハ妨ケナケレ共必スレモ正確ナルモノトハ
 余ハ考ヘス。

第二章 保險ノ性質

保險ハ偶然ナル事故ノ發生ニヨリ損害ヲ有償的ニ他人ニ轉嫁シテ
 以テ經濟生活ヲ確實ナラシムル制度ナリ、如何ナル場合ニ之カ行ハ
 レルカ即チ何ヲ保險事故トスルカト言ハハ偶然ナル事故發生ニヨリ
 テ損害ノ生スル恐ナル場合ナリ、
 又之ガ如何ナル方法テ行ハレルカト言ハバ有償的ナル損害轉嫁換言
 スレハ相互主義ニヨリテ行ハレルモノナリ、又保險ニヨリテ違セン

トスル目的ハ經濟生活ノ安定ヲ得ル事ニアリ、
 凡ソ吾々ノ經濟生活ニハ色々ノ事故カ發生シテ之ヲ不安定ナラシ
 メルモノナリ、例ハ病氣ノ為ニ所得ガ減少シ火災ノ為ニ財產ヲ失
 フガ如シ、吾々ハ之等ノ事故ノ發生ヲ豫防シ又一度之ガ發生シタル
 時ニハ之ヲ鎮圧スルコトニ力ヲ盡サレ共未メ全ク之ヲ未嘗ニ防グ
 コトガ出来ヌ、吾々ハ何等カノ方法ヲ以テ其損害發生ノ結果ニ具ヘ
 レルコトヲ要スル、之ガ為ニ吾々ノ第一ニ採ル手段ハ貯蓄ナリ、貯蓄
 トハ收支ノ平均ヲ保メシメル為ニ現在ノ剩餘ヲサイテ將來ノ需要ニ
 備ヘルモノナルガ之ノ方法ニヨリテハ凡テノ場合ニ其需要ヲ確實ニ

此ノ法則ニヨリテ

工部局

充タレ得ルモノト言フヲ得ス、即チ事故ノ中ニハ發生ノ確定シテ
モノアリ、例ハ十年右ニ金一萬圓ノ返濟ヲ必要トスルカ如シ、之
ノ場合ニハ貯蓄ニヨリテ適當ニ具ハルコトヲ得、サレ共事故ノ發生
カ偶然ナルモノアリ、例ハ火災ノ如クニ發生スルヤ否ヤ全ク不明
ナコトモアル、又人ノ死七ノ如ク其起ルコトハ確定ナレ共其時期ノ
不定ナモノモアリ、カ、ル場合ニハ貯蓄ニヨリテ満足セシメラレ
需要ノ程度ハ各人カ貯ヘタ金額ヲ限度トスルカ故ニ必スシモ恒ニ確
實ニ其需要ヲ充タレ得ス、從ツテ吾々ノ經濟生活ハ尚不安定ナルコ
トヲ免カレズ
凡ソ偶然ニ發生スル事故ハ之ヲ一ツ一ツニツキテ見ル時ハ何等ノ
方則モ秩序モナキ様ナレ共大數觀察ヲ行ハハ大數ノ方則ノ為ニ事故
ノ發生スル確率 (probability 蓋然率) ヲ測定シ得ルコトカ多イモ
ノナリ、之ノ場合ニハ其事故ハ偶然性ヲ失フテ確実性ヲ帶フルニ到
リ之ニ對スル豫備ノ方法ヲ最モ經濟的ニ講スルコトヲ得、之即チ保
險制度ノ存在スル所以ナリ、

保險事業

保險ハ多年ノ經驗又ハ大數觀察ノ結果ヲ基礎トシテ多數ノ被保險
者又ハ被保險物ノ間ニ損害ノ平均ヲ求メ之ニヨリテ偶然ナル事故ヲ
レテ偶然性ヲ失ハシメ恰モ其發生ノ確実ナル事故ニ於ケルト公シシ
之ニヨリ經濟上ノ需要ヲ必ス恒ニ確實ニ充タスコトヲ得シメルモノ
ナリ、
保險事業ニハ保險者ト被保險者トアリ、而シテ保險ナルモノハ社
會經濟ノ立場カラ見ル時ハ(社會經濟トハ地方經濟、國民經濟世界
經濟等ノ如ク主体ナキ經濟ヲ指ス意味テ茲ニ用フルナリ) 保險者ハ
大數觀察ニ基キテ計算シテ一定ノ保險料ヲ多數ノ被保險者カラ徵
收シテ一種ノ共同基金ヲ作り而シテ偶然ナル事故ノ發生ニヨリア金
錢ヲ必要トスル人ニ之ノ基金ヲ分配スルモノト見ルヲ得、換言スレ
バ保險者ハ少數者ニ發生シタル損害ヲ多數ノ人ニ分配スルモノナリ
依テ、方面ヨリ見テ保險ハ損害分配ノ制度ナリト云フヲ得、今之ノ
狀態ヲ多數ノ被保險者相互ノ干係ニ就テ見ル時ハ彼等ハ共同ニ出資
スルコトニヨリテ損害ヲ分担スルモノ、即チ少數者ノ家ニ損傷ヲ多

救ノ人カ分担スルモノト考ヘルコトカ出来ル、之ノ方面ヨリ見ルト
保險ハ損害分担ノ制度ナリト云フヲ得、換言スレハ保險ハ相互主義
又ハ相互扶助ノ制度ニシテ一人カ凡テノ人ノ為ニ而レテ凡テノ人カ
一人ノ為ニ助ケ合フモノナリ、又保險ト云フモノヲ個人經濟ノ立場
ヨリ見ル時ハ個人經濟トハ實業經濟、家庭經濟等、如シ主体ノア
ル經濟ヲ指ス意味ヲ用フル、被保險者ハ一定ノ保險料ヲ支拂フ事ニ
ヨリテ事故ノ發生ニヨル結果ヨリ免カレテ恰モ損害ノ發生セザリシ
ト同様ノ經濟狀態ヲ回復レ得ルモノナリ、換言スレハ被保險者ハ其
損害ヲ他人ニ轉嫁スルコトニヨリテ經濟生活ノ不安カラ脱スルコト
カ出来ルモノナリ

保險ヲ定義シテ損害轉嫁ノ制度ナリト云ヘルハ之ノ方面ヨリ見
タルモノナリ、之ノ狀態ヨリ保險者ノ方面ヨリ見ル時ハ保險者ハ一定
ノ保險料ヲ受取リテ他人カヲ損害ヲ引受ケ而シテ多數ノ被保險者ノ
間ニ存在テ平均セレメルモノナリ、コノ点ヨリ見レハ保險ハ損害引
受ケノ制度又ハ損害平均ノ制度ナリト云フヲ得

如斯色々ノ方面カラ見テ定義ヲ立テルコトハ自由ナレ共他ノ類似
ノモノト比較シテ保險ノ特色ヲ明ニスル為ニ便宜テアレ様ニ余ハ損
害轉嫁ノ方面ニ主トシテ着眼セルナリ、(之ノ講義ニ於テ例ハ被保
險物ト云フカ如キ場合トイフ言葉)ハ必スシモ有体物ニ限ラスレ
テ無体物ヲモ包含スルモノトシテ取扱フコトヲ注意スヘシ

保險ハ有償的ニ行ハレルモノナリ、即チ被保險者ハ一定ノ保險料
ヲ支出スルコトヲ要ス、保險ニ似タル制度ト雖無償ノモノ、即チ相互
主義ニ基カサルモノハ保險ニアラス、保險カ有償的ニ行ハレル結果
トシテ被保險者ハ権利トシテ保險金ヲウケルコトカ出来ルモノナリ
彼ノ慈善又ハ救恤ハ無償的ナルコトニ於テ保險ト區別セラル、ノミ
ナラス、請求権ヲ有セサル点ヨリ見テモ保險ト區別スルヲ得、保險ハ
他人ノ恩惠又ハ厚意ニ依頼スルモノニ非スシテ自主独立ノ精神ヲ行
ハレルモノナリ、尚法律上ノ請求権ヲ受給者カ有スル場合ニ於テモ
無償的ノモノハ保險ニ非ス、例ハ英國ノ養老年金制度ノ如シ、保
險ハ有償的ニ行ハレルモノナルカ其被保險者ハ保險料金全部ヲ負担

スルヲ要スルヤ否ヤ、換言スレハ各ノ被保險者ハ其危險率ニ應スル
丈ノ負担ヲ必要トスルヤ否ヤニテハ議論アリ、通常ノ保險ニアリ
テハ各被保險者ハ其危險率ニ應シテ保險料全部ヲ負担スルカ社会保
險即労働保險中ノ或モノニ付テハ被保險者以外ノモノ例ハ八國家、
雇主其他ノモノカ保險料ノ一部ヲ負担スルカ普通ナリ、例ハハ

獨ニニ疾病保險アリ 勞 (2/3) 雇主 (1/3) 政 0
英國ノ健康保險 勞 4/9 雇主 3/9 政 2/9
日本ノ健康保險 勞 45/100 雇主 45/100 政 10/100

斯ノ如キハ純粹ノ意義ニ於ケル保險ト称スルハ困難ナリ、然レ共保
險制度カ次第ニ進化發展シ来リ斯ノ如キモノモ今日テハ保險ト称ス
ルコトニ就テ何人モ疑ヒテ抱カナイカ故ニ苟モ相互主義ニ基イテ種
害轉嫁ト云フ事ヲ偶然ニ生スル事故ニ對シテ行フモノナレハ凡テ之
ノ保險ノ範圍ニ入レルヲカ今日ノ思想ニ適スルモノト考ヘル、
保險學ニ於テハ *risks* 即チ危險トイフ文字ヲ色々ノ意味ニ用フ、
其主ナルモノヲ挙ナルト

(A) 偶然ナル事故、例ハハ火災、病氣、死亡等ヲサシテ *risks* ト
云フコトアリ、

(B) 偶然ナル事故發生ノ程度即チ危險率ノ意味テ *risks* ト云フコ
トアリ、

例ハハ危險ノ増加又ハ減少ト言フ事ハ危險率ノ増減ノ意ナリ、
(C) 保險ノ客体(被保險物) 即チ商法ニ云フ保險ノ目的ヲサシテ
risks トイフコトアリ、

例ハハ家屋、船舶、健康、生命等ヲサシテ *risks* ナル文字ヲ以テ
表ス、而シテ之等ニ就テ危險率ノ大小ヲ論スルニ當リ其小ナルモノ
ヲ *good risks* 其大ナルモノヲ *bad risks* 等ト称スルコト往々ア
リ、但シ之等ノ場合ノ *risks* 良否ハ絶対的ノ意味ニアラス、只保
險者ノ立場カシ見テ保險者ノ為ニ有利ナルモノヲ *good risks* ト云
ヒ然ラサルモノヲ *bad risks* ト云フ、
例ハハ石造ノ *house* ハ木造 *house* ニ比ハテ火災ニ對シテハ *good*
risks ナルコトハ恒ニ疑ナケレ共例ハハ弱者ハ死亡保險ニ就テハ

bad risk + 生存保險 = 於テハ、*good risk* + 云フ
ヲ防ケス、

(D)、偶然ナル事故ノ發生ニヨル損害ヲ指シテハ、*risks*ト云フコトアリ、

從テ保險ヲ定義シテ危險分配又ハ危險轉嫁ノ制度ナ
リト云フコトモアリ、即チ何程ノ損害ヲ生シタリト云フ場合ニ何程
ノ危險ヲ生シタリト云フ事往々アリ、(火災保險、海上保險等ニ就
テ損害ナル文字ヲ用フルコトハ適當ナレ共生存保險等ニ就テハ例ヘ
ハ人ノ死亡ノ為ニ何程ノ損害ヲ生シタリト云フ事ハ不適當ナル嫌ア
ルカ故ニ學者中ニハ損害ナル文字ヲサケテ金錢上ノ必要、財産上ノ
需要ト云フ人アリ、乍併余ハ保險學上ノ用語トシテハ損害ナル文
字カ一種特別ナル意義ヲ有スルモノト考ヘテ之ヲ用フルコト及ツ
テ簡單明瞭ナリト考ヘル、若レモ損害ナル文字カ通俗ノ用語トシテ
不適當ノ場合アリト考ヘルナラハ寧ロ抽象的ナル *risks* ナル文字ヲ
用フルコト及ツテ適當ナルヤモ知レス、乍併反對。アル一部、論

者、如クニ損害ヲ簡單明瞭ナル *words* ヲサケル為ニ金錢上ノ必
要ト云フカ如キ余リニ迂遠ナル *words* ヲ用フルコトハ及ツテ其意
味ヲ了解セシメル上ニ不適當ナリト考フ。

参考書

小島昌太郎 保險ト經濟 (京都法学会發行)
(保險ノ性質ニツイテ)

第三章 保險ト他ノ近似ノ行為トノ差異

一、保險ト賭事

保險ハ偶然ナル事故ノ發生ニヨル損害ニ補ヘルモノニシテ倫理的
ノ意思ヲ以テ行ハレル、賭事ハ單純ナル射倖心カラ巨利ヲ得ルカ
為ニ冒險的ニ行ハレ倫理的要素ヲ含マス、二者共ニ小額ノ支出ニヨ
リテ或ハ多額ノ給付ヲウケ或ハ全ノ其提供シタ金額ヲ得ル点ニ於テ

共通ノ点アレ共倫理的 *wild*、有無ニヨリテ之ヲ別ケルコトカ出来
ル。又モシ賭事ニシテ射倖ノ程度余リニ甚シキ時ハ法律ハ之ヲ禁止
ス、尤モ世上ニハ多少ノ程度ニ於テ射倖的 *element* ヲ含ム行為ハ
少ナカラサレ共法律カ之ニ干渉スルコトハ只程度ノ問題ナリ。

斯ノ如キ *wild*、有無ヲ判断スル客観的ノ標準ハ何ソ、凡ソ事故
發生ニヨリテ害セラルル事アル可キ經濟上ノ利害干係ヲ有スルモノ
ハ之ニ備ヘルカ為ニ保險ヲ利用スルナリ、例ハ、房屋所有者カ火災
保險ヲ契約スル如シ、又此ノ如キ被保險利益ノアル場合、保險契約
ハ正当ナモノナリ、(商法三八五條)然ルニ賭事ニ於テハ此ノ如キ
經濟上ノ利益干係カ全ク存在セス、又若シ此ノ如キ利害干係ナキモ
、カ保險契約ヲナス時ノ全ク賭事トナル、例ハ、此ノ教室カ焼ケタ
ナラ余カ金十萬圓ヲウケルテフ契約ヲスルナラハ全ク賭事トナル、
(民法九〇條)其結果トシテ若シ家屋所有者カ其家屋ノ實價一萬圓
ナル時ニ一萬五千圓ノ保險金ヲウケル約束スレハ其價ヲ越ヘ、
ル部分五千圓ニ付テハ保險契約ハ無効トサレルナリ、(商三八六條)

然ルニ生命保險契約ノ如キモノニアリテハ一定ノ場合ニ一定額ヲ
授受スルモノニシテ被保險利益トイフ *idea* ヲ嚴格ニ認め得ス、モ
トヨリ生命保險等ニ於テモ一定ノ費用ニ當テル為ニ保險契約ヲ為シ
テオクモノナルカ故ニ被保險利益ノ *idea* カ全クナイ譯テハナイカ
モシ然ラサル場合ニ行ハレシムル契約ト云合法的ノモノトヒラレルナ
リ、從テ之ノ種ノ契約ハ契約者カ之ヲ濫用スルカ又ハ其眞精神ヲ理
解セサル場合ニハ賭事ニ陥ル怖アリ、之レヲシテ賭事ナラザラ、
シメル為ニハ契約ノ金額其他ノ條件カ周圍ノ事情ニ照シテ相當ノ程
度ヲ越エナイ事ニ注意スルヲ要ス

賭事ハ時トシテハ何等教學上ノ基礎ニ基カスレテ行ハレルコトア
リ、サレ共富籤、割増金付キ債券等ニアリテハ教學上ノ計算ニ基ツ
ケルモノナリ、例ハ、割増金付キ、債券ニアリテハ一十萬圓ヲ募集
シ之ニ六分ノ利子ヲ附ケルカワリニ先ツ五分ノ利子ヲ全体ニ支拂ヒ
一分ノ利子ニ相当スル金額十萬圓ヲ抽籤テ少數ノ者ニ分配スル、
富籤ニアリテモ例ハ、五四、富札一萬枚ヲ發行シ其中四千五百圓ヲ

当選者ニ分配シ残リ、五千円ヲ舉行者ノ利益トスルカ如キ方法ヲ行ハレルナリ、又数学的基礎、有無ニヨリテ保険ト賭事トヲ區別スルコトハ誤リニハアラネト凡テノ場合ニ之ヲ為シ得ルモノニアラス、保険ハ数学的基礎ニ基クモノテハアルカ真ニ確實ナル計算ノ立テ得ラレルモノハ生命保険ヲ始メ比較的ニ少数ノモノニ過キス、火災、海上保険其他多クノモノニアリテハ未タ十分ニ科学的ニ其危険率ヲ計算レ得ルモノニアラス、只多数ノ契約ニ就キテ自ラ損益ノ平均ヲ求メルコトニヨリテ行ハレテオルニ止マル、又数学的基礎ヲ以テ保険ト賭事トヲ區別スルハ不穩当ナリ、

二、保険ト保証
債務ノ保証、使用人ノ身元保証等ノ行為カ無償テ行ハレル時ニハ之ノ点ニ於テ保険ト區別セラル、之カ有償的ニ行ハレル時ニハ時トレテ保険トナルコトアリ、例ヘハ吾國ニ行ハレテキル信用保険(Fidelity Insurance)ノ使用人ノ不正行為ノ為ニ雇主カ蒙ル怖レノアル損害ヲ、保険会社カ引受ケルモノナリ、

又外國テ行ハレテレ債権保険(Credit Insurance)ハ実業家カ信用取引キヲナスニ當リ得意先キカ支拂ヒ不能トナリ貸シ倒レトナルコトヲ怖レテ之ニ備ヘル為、保険ナリ、其他之ニ似タ保險少ナカラズ、
之ノ点ヨリ考ヘル時ハ之等、契約カ单独ノ行為トシテ個々ニ行ハレル時ハ保険トシテハ取扱ハレ又カ組織的ニ多数人ニ對シテ行ハレル時ハ保険トシテ取扱ハレ保險契約法(商法)及ヒ保險事業監督法(保險業法)ノ支配ヲ受ケルモノト云ハサル可カラス、之ノ事ハ例ヘハ民法六八九条、終身定期金契約ト生命保険トノ干係ニ於テモ見ルコトノ出来ルコトナリ、
然ラハ保險テフ經濟行為ハ保險者カ常ニ多数人トシテ、行為ヲ繰返シテ組織的ニ行フ事ヲ条件トシテ初メテ成立スルモノト云ハサル可カラス、然ルニ他方ヨリ見ルト二人若シクハ少数者ノ間ニ保險行為ノ成立ヲ想像シ得サルニ非ス、現ニ一九〇六年ノ英國海上保險法八五条ニハ「二人以上相互ニ保險ノ契約ヲナス時ハ之ヲ相互保險ト

称スレト規定シテアル、之ノ問題ハ然ラハ如何ニ解決スヘキカ思フ
ニ保險制度ノ淵源ハ右述ノ如クニアリ、(1)ハ全一ノ危険ヲ感スル多
數人ヲ共同計算ヲナシテ損害ヲ分担スルモノナリ、(2)ハ危険ノ引受
手又ハ轉嫁シ恰モ物品ノ賣買ト全様ニ取扱フモノナリ、二者共ニ多
數ノ經濟主体又ハ多數ノ被保險物ノ間ニ危険ノ平均ヲ求メルコトヲ
主眼トスルモノナリ、又第二ノ源カラ察セル保險契約ハ其性質上ヨ
リシテ大數的ニ取扱ハレルコトヲ条件トスルモノナリ、第一ノ源カ
ラ出ツルモノ即チ相互保險ハタトヘ二人又ハ少數者間ニ於テモ共同
計算ニヨリ損害分担ノ行ハレル以上ハ茲ニ保險的ノ性質ヲ生スルモ
ノト考ハルコトハ思想上当然ナルカ然レナカラ、ソレガ真ニ保險的
ル特色ヲ示輝スルカ為ニハ相當ニ多數ノ人カ存在シ大數ノ法則カ活
動レ得ル基礎ノアルコトヲ必要トスル、又上述ノ英國海上保險法ノ
如キハ只此ノ如キ事實ノ存在シタル場合ニ如何ニ取扱フカト云フ法
律上ノ取扱ヒ方ヲ定メ、之ニ過キスシテ之ヲ以テ相互保險カ十分ニ
行ハレテアルモノト解スルコトハ出来ヌト思フ、

三、保險ト貯蓄

將來發生スルコトアルヘキ金銭ノ必要ニ備ヘル為ニ現在ノ剩餘金
ヲ積ミテ、之ヲ貯蓄スルニ於テ之ノ二者相似メリ、サレ共貯蓄ハ一人ノ
計算ヲ行ハル、カ故ニ之ニヨリテ充テシ得ル必要ハ自分丈カ積立テ
タ所ノ金額ヲ限度トスルモノナリ、然ルニ保險ハ大數觀察ヲ基礎ト
ナレ多數ノ經濟主体ニツキテ共同計算ヲナスモノナルカ故ニ偶然ナ
ル事故ノ發生ニ對シテモ其需要ヲ確定ニ充テシ得ルモノナリ、換言
スレハ、保險者ハ多數ノ被保險者カラ集メテ保險料ヲ以テ一ツノ共同
基金ヲ作り之ニヨリテ被保險者ノ需要ヲ充サセルモノナレハ保險ハ
団体的準備又ハ社会的準備ト見ルヲ得、即チ個人的又ハ單独的準備
タル貯蓄ト其性質異ニスルモノナリ、
保險ハ損害ヲ他人ニ轉嫁スルモノナリ、之ノ点カラ見テモ貯蓄ト
ハ異ナル、右者ハ將來ニ生スル金銭ノ必要ヲ自分一人テ負担スルモ
ノニシテ他人ニ之ヲ負担セシメ得ルモノニ非ス、
保險カ共同的準備ヲアル結果トシテ貯蓄ニ比ベテ大イニ經濟的ナ

リ、若シ各人個々ニ將來ノ需要ニ對シテ備ヘントスルナラハ各人ノ積
立テル可キ金額ハ將來發生スルコトアレ可キ積蓄額即チ需要額ノ最
大限度ヲ目標トシテ蓄積スルコトヲ要ス、然ルニ保險ハ共同計算ノ
結果トシテ少数者ノ蒙ル可キ損害ヲ多數ノ人ニ分配スルヲ以テ各人
ノ出資ハ少額ヲ以テ足り且ツ之ヲ以テ完全ニ其需要ヲ充タシ得ルナ
リ、此ノ如ク保險ハ甚ク経済的ナル且科學的ナル貯蓄法ナリ、
貯蓄ハ將來ノ一般的需求ニ對シテ漠然ト行ハレルコトアリ、或ハ
一定ノ用途ヲ指定シテ行ハレルコトアリ、右ノ場合ニハ保險ト甚ク
似レル外觀ヲ呈スル、尚又貯蓄ヲナスニハ其名称ノ如キモ積立金、
準備金其他種々ノ名前ヲツケルコトアリ、併シ何レノ場合ニ於テモ
自己一人ノ計算ヲ行ハレルコトカ其特色デアリ之ヲ保險トシ違ヒナ
リ、
大ナル汽船会社、大貿易商等カ一定ノ危険率ヲ測定シ之ニ應スル
積立金ヲナシ大數ノ法則ヲ利用シテ恰モ保險ヲツケタノトシ結果ヲ
オサメルコトアリ、之ヲ自己保險 (Self insurance) 稱スルコ

トアリ、之ノ方法ニヨル時ハ保險ノ實費ヲ行ヒ得ル利益アリ而シテ
其被保險物カ多數ニ存在スル時ハ大數ノ法則ガ働イテヨク其目的ヲ
達スルコトヲ得、サレ共自己一人ノ計算ヲ行ヒ危険ヲ他ニ轉嫁シナ
イカラ之ハ名称ノ如何ニ拘ラス貯蓄ニシテ保險ニ非ス、但シ此ノ如
ク方法カ保險ノ思想ニ基ツケルハ疑ナシ (Self insurance) ナル
文字ヲ獨乙國保險法「強制保險」ニハ「強制保險」ニ對シテ任意ニ加入スル
意味ヲ用ヒテキル、即チ任意保險ト云フカワリニ自己保險ノ文字ヲ
用フ、例ハ「同法五五〇條」如ク此ノ如キハ用語例ニ及スル、
四、保險ト慈善

保險ハ常ニ有償的ニ行ハル、自分ノカテ他日ノ必要、ニ備ヘル
モノナリ、從テ保險金ヲ得ルコトハ被保險者ノ權利ニ屬スル慈善
ハ無償的ニ行ハル、他人ノ恩惠ニ依賴スルモノニシテ受益者ハ之ヲ
權利トシテ請求スルヲ得ス、之ニ若シ違ヒナリ、
保險カ自助ノ精神ヲ養フモノニシテ人格ノ尊嚴ヲ維持シ道德的ニ人
ヲ高上セシムルモノナルコトハ其特色ナリ、

近頃。至リ社会連帯ノ思想カ希達シタルト云時ニ人格ヲ尊重スル
 ideaカラ從來慈善トシテ行ハレテ来タモノヲ其性質ヲ改メテ國民
 ノ生存権即國民ハ國家ニ對シテ生活資料ヲ請求スル権利アリト法律
 ヲ以テ定ハルニ至レル例アリ、英國ノ *Obligatory Pension* 佛蘭西ノ
Obligatory Assistance、如キハ其例ナリ、斯ノ如ク受益者カ
 請求権ヲ有スル場合ニ於テモ無償的ノ制度ハ保險ニアラス、寧ろ慈
 善又ハ貧民救助カ思想上變化シタルニ過スト考ヘラル、
 社会保險中ニハ國家又ハ雇主カ保險料ノ一部ヲ負担スルコトカア
 リテ幾合カ慈善的ノ色彩ヲ帯ヒテ純粹ノ保險トイフ事ヲ稍々困難ナ
 ル例アリ、サレ共今日ノ如ク保險制度カ廣キ範圍ニワタリテ希達シ
 タル時代ニ於テハ苟モ相互主義ニ基ツキテ共同計算ヲ行ヒ而シテ偶
 然ノ事故ニヨリ障害ニ備ヘルモノハ皆保險中ニ合マシメラルコトカ、
 適當ナリト考フ。

第四章 保險ノ可能範圍

如何ナル範圍内ニ於テ保險カ行ハレ得ルカ、之ノ問題ニ付テハ理
 論上ノ可能範圍ト事業經營上ヨリ見タル可能範圍トニ分ケテ研究
 スルヲ要ス、右者ハ或種ノ保險事業ヲ實地ニ行ハル場合ニソレカ健
 實ニ行ハレ得ルヤ否ヤノ問題ニシテ即チ保險実行ノ難易ノ問題ナリ
 前者ハ此ノ如キ實地ノ事業經營カラハナレテ單ニ理論トシテ保險カ
 如何ナル範圍内ニ行ハレ得ルヤヲ研究スルモノナリ、
 理論上ノ可能範圍ヲ定メル為ニハ先ツ保險ノ性質ヲ調べルコトヲ
 要ス、保險ハ偶然ナル事故ノ發生ニヨリ損害ニ備ヘル經濟上ノ制度
 ナルガ故ニ之ニヨリテ其可能範圍ガ自ラ定マル、即チ第一ニハ事故
 ノ性質ニヨリ制限ナリ、保險事故ハ偶然ニ發生スルモノテアルコト
 ヲ特色トスル、之ノ事ハ已ニ述ベタ所テ明ナ事ニシテ此処ニ繰返ス
 必要ハナイ、確定的ナル事故ニ對シテハ保險ノ方法ニヨリ必要ヲ認
 シ

メス、モレ之ニ対シテ保險ノ名称ヲ用ヒテモ實質ニ於テソレハ保險ニアラズ、第二ハ經濟上ノ制限ナリ、保險ハ金錢上ノ損害ニ付テ行ヒ得ルタケテアツテ精神上ノ損害例ハ名誉、苦痛、愛情等ニ付テ行フコトヲ得ス、例ハ火災保險ハ火災ニヨル財産的損害即チ經濟的損害ノミヲ填補スルケレ共其財産カ親ノ遺物テアルトイフカ如キ場合ニ付之ニ対スル愛情又ハ其損害ニ対スル苦痛ヲ如何トモスルヲ得ス、商法三八五条ニハ金錢ニ見積リ得、キ利益ニ限リテ保險ヲ行ヒ得ルト定メテアルカ之ハ云フヲ保タサルコトナリ、ツイデニ述ヘテ置キメテ事ハ生命保險ノ如キ場合ニハ生死ニヨリテ財産上ノ損害ヲ受ケタルカ如クニ考ヘルコトハ不適當ナルカ故ニ損害テフ文字ヲサケテ金錢ノ必要又ハ財産上ノ需要ニ備ヘルト云フ方が適當ナリト論スル人アリ、併シ之ハ只文字ノ争ヒニ過キズシテ精神ニ於テハ同シ事ナリ、即チ人ノ生存又ハ死亡ニ當リテ金錢ヲ必要トスル事ヲ豫期シテ之ニ備ヘル為ニ保險カ存在スルナリ、決シテ金錢ヲ以テ長生レシ喜ビ又ハ死セセル悲シニニ換ヘル又ハ金ヲ以テ其程度ヲ評價

スルカ如キ意味ニハアラス、併シ保險カ副作用トシテ精神上ノ效果ヲ生スルコトモ疑ナキ事實ナリ、例ハ家屋ニ火災保險ヲツケテカラ安心シテ生活ガ出来ルトカ又ハ親ノ片身ハ燒ケタガ保險金ヲ受取ルコトニヨリテ幾分カ心ヲ慰メルニ足ルト云フカ如キ場合アリ、併シ之ハ從タル作用トシテ生スルモノニシテ決シテ之ヲ主タル目的トシテ保險カ行ハレルニハ非ス、第三ニハ技術上ノ制限、保險ハ有償的ノモノナルカ故ニ保險料ノ計算ヲ必要トスル、又保險料カ經驗又ハ実験ニヨリテ相当ノ程度ニ計算サレルコトガ必要ナリ、但シ此ノ危險ノ程度及ヒ之ニヨル損害額ノ程度ニ関シテ必スシモ正確ナル確率カ已ニ計算サレテコトヲ要セス、大体ノ見込ミカ立テバソレテ足リル、多少ノ欠点ハ后述スル危險分散主義ノ應用ニヨリテ補フ事カ出来ルナリ、海上保險ヤ火災保險カ危險率ノ計算ノ不十分ナルニ拘ラス今日盛ニ行ハレテ所以ハ危險分散ノ經濟的技術ヲ巧ニ利用シテアル結果テアルコトハ后ニ各論ニ於テ説明セシ、第四ニハ法律上ノ制限アリ、前述ノ如ク保險ノ理論上ノ可能範圍ヲフ問題ハ保險

性價カラ自然ニ定マルモノナルコト上ノ三ツノ制限ニ于テ説明
ニヨリテ明ナルガ併シ今日ノ人類ハ國家的生活ヲナシ法律ノ支配ノ
下ニ活動スルモノナルカ故ニ保險ノ可能範圍ヲ見ル場合ニモ國法ヲ
無視スルコトハ出来ヌ、今此処ニ法律上ノ制限ヲ掲ケルナリ、凡ソ
公ノ秩序善良ノ風俗ニ及ヌル事柄ヲ目的トスル法律行為ヲ無効トス
ルコトハ一般ノ原則ナリ(民法九〇条)、例ハ脱税、竊盜、賭博
等ニヨリテ得ラル可キ希望利益ヲ保險スルコトハ許サレヌ、又吾商
法ニ於テ被保險利益ノナイ損害保險、契約ヲ無効トシ(三八五条)
超過保險ノ超過シタル部分ヲ無効トシ(三八六条)他人ノ死ニヨ
リテ保險金ヲ支拂フ可キ生命保險ノ契約ニハ其人ノ同意ヲ要ス、(四
二八条)ト定メテオル等ハ何レモ公衆ノ精神カラ出テ法律上ノ制限
ナリ、之ノ外ニ吾保險業法ヲ見ルニ保險者ノ資格、政府ノ免許ヲ要
スル等ニ于テ色々ノ制限カ定メラレテオル、從ツテ保險ハ之等ノ
法律上ノ制限内ニアラサレバ行ハレルコトヲ得ヌ、
此ノ如ク保險ノ可能範圍ハ四方面ヨリ制限サレテオルカ之ノ制限

内ニ於テ保險事業ヲ実行スルニ當リテモ其難易ハ色々ノ條件ヲ支配
サレル、之ヲ一言ニ盡セハ危險率及ヒ損害高ノ計算ノ難易ナリ、換
言セハ統計ノ難易ナリ、統計的ノ基礎不十分ナレハ其事業ハ投機的
ニナリ、科学的デナイメケニ堅實ニ行ハレ難イ、凡ソ保險ハ平均ノ法
則ノ應用テアルト考ヘテ妨ケナキカ故ニ茲ニ平均ノ法則ノ意味及ヒ
之ニ于テ注意スヘキ事柄ヲ思ヒオコヌ必要アリ、即チ
第一ニ平均ノ法則ハ多數ノ場合ヲ觀察シテ初メテ行ハレル法則ナ
リ
第二ニ其材料カ多ケレハ多イ程平均數ノ價值、カ大ナルコト
第三ニ各材料カ平均數カラハナレバ適差カ少ナケレバ少ナイ程平
均數ノ價值、カ大ナルコト
第四ニ觀察カ正確アレハアル程其平均數ノ價值、カ大ナルコ
ト等ヲ特ニ記憶シオクヲ要ス、
サテ如何ナル場合ニ統計ガ困難ナリカト云フニ例ハハ事故ノ發生
ノ度數ノ少ナイモノ、事故ノ發生カ一地方ニ、ミ限ラレテオルモノ、
三一

被保險物ノ少ナイモノ、等ニツイテハ第二ノ理由ニヨリテ保險ノ実行困難ナリ、次ニ事故發生ノ度数ノ不規則ナモノ、事故發生ニヨル損害ノ大小ノ差甚ダレキモノ等ニ就キテハ第三ノ理由ニヨリテ保險ノ実行困難ナリ、次ニ事故發生ノ事實ノ確認シ難キモノ、損害額ノ決定シ難キモノ、事故發生カ人ノ *wild* ニヨリテ左右サレ易キモノ、或ハ又及對選擇(逆選取)ノ行ハレ易キモノ、保險犯罪ノ行ハレ易キモノ等ニツイテハ第四ノ理由ニヨリテ保險ノ実行困難ナリ、今上述ノ如キ抽象的ノ理論ヲ具體的ノ事實ニ當ハメテ見ルト生命保險ノ如キハ之等ノ凡テノ条件ニ照シテモ実行ノ容易ナルモノナリ、只及對選擇ト保險犯罪ニ注意スレハ是レ、海上保險ノ如キハ色々ノ条件ニ於テ欠ケテアルカラ之ヲ補フ為ニ色々ノ經濟上ノ技術ヲ要ス、例ハ再保險、共同保險、委付等ハ保險ノ作用ヲ十分ニスル為ノ技術ナリ、失業保險又ハ疾病保險ハ事故發生ノ事實ノ確認シ難キモノナリ、ソレ故ニ職業組合所又ハ病院ノ如キ補助機關ヲ要ス。

可能範圍問題ニ関連シテ如何ナル場合ニ保險ノ必要、カ最も痛

切ニ一個人又ハ國民經濟上カラ感セラレルカテス問題ヲツイテニ研究セシ。

第一ニ損害額小ナル事故ニ對シテハ保險ノ必要ハ少ナイカ、ル場合ニハ保險制度ニヨラス其人々ハ之カ為ニ受ケル經濟上ノ打撃カ少ナイカラ貯蓄又ハ積立金ノ如ク一人ノ計算ヲ行フノ方法ニヨリテモ十分ニ之ニ備ヘルコトヲ得、及之一ツノ事故ノ發生ニヨル損害額カ大ナル時ハ一人ノカテハ堪ヘ難イカラ損害ノ分担又ハ轉嫁ヲ精神ニスル保險制度ニヨルシ *Need* トスル、而レテ其損害ノ怖レカ大ナルハ大ナル程保險ハ益痛切ニ *demand* サレルナリ、之海上保險又ハ火災保險カ殆ント勧誘ヲ俟タスシテ盛ニ行ハレル所以ナリ、但シ損害ノ大ナル人々ノ財産等ノ負担ノ能力ノ大小ニヨルモノナルカ故ニ少額ノ保險ハ富者ニハ必要少ナケレ共貧者ハ尚之カ為ニ感スル苦痛大ナルカ故ニ其保險ヲ必要トスル中流以下ノモノニ社會保險カ必要ナルハ之ノ理由ニヨル。

第二ニ事故發生ノ度数カ不規則ナアレハアル程保險ノ必要ノ程度

大ナリ、凡ソ、保險ハ偶然ニ生スル事故ニヨル損害ニ對シテ行ハレル
 モノナルカ故ニ確定的ノ事故ニ對シテハ保險ハ存在ノ理由ナキナリ
 又偶発的ノ事故ノ中テモ確定ニ近イモノハ確定的事故ト殆ト全一
 ニ取扱ヒ得ルカラ保險ノ必要ハ幾分少ナキナリ、及之甚々不規則ニ
 發生スル事故ニ對スル保險ハ実行ハ困難ナレ共之ニ對スル保險ハ世
 人カ其必要ヲ痛切ニ感スルナリ、海上保險、火災保險ノ如キハ之ニ
 屬スル結果トシテ事故ノ發生ハ不規則ニシテ且之ニヨル損害高、大
 ナルモ、程保險ニ必要トスルモノナリ、然ルニ前述ノ如ク此ノ如キ
 モノハ保險ノ敷モ実行困難ナモノナリ、之ノ矛盾ニ對シテハ私的企
 業ヲ以テハ解決ハ困難ナルカ故ニ政府ハ産業獎勵又ハ國民生活ノ安
 定ノ為ニ或ハ之ノ種ノ保險ヲ官管トナシ或ハ私的企業ニ對シテ特別
 ノ保護獎勵ヲ与ヘルコトヲ適當ナラント思フ、他ノ戰時海上再保險
 ヲ吾政府ハ損益ノ打算シハナレテ行ヒタルカ如キハ産業獎勵ノ為ナ
 リ、又家畜保險、森林保險、收穫保險ノ如キモ公理由ニヨリテ特ニ
 政府カ之ヲ干保スルコトカ必要ナラント思フ、又各國ニ於テ社会保

險官管又ハ政府ノ特別ナル保護及ヒ監督ノ下ニ置テ例ノ多キハ一
 種ハ之ノ理由ニヨルモノト思フ、

第五章 危險分散（又ハ細分）主義

例ハハ此処ニ一桶ノ水アリ、モシ之ヲ此ノ机上大ニコホスナラハ
 机上ハ甚々害ヲ受ケルナラン、サレ共モシ之ノ水ヲ運動場全体ニ散
 布スルナラハ水ノ存在カ殆ト認メラレ又程ニ細分セラレ何等ノ害
 ヲ生スルコトナレ、彼ノ避雷針ハ之ト公理ニ基キテ落雷ニ對シテ家
 ニ保護スルモノナリ、サレハ危險分散ノ方法ヲ適當ニ利用スレハ色
 々危險ニ對シテ其害ヲサケルコトヲ得、例ハハ家主カ一ヶ所ニ數十
 家ヲ持ツ時ハ一ツノ大火ノ為ニ全部焼天スル怖ヲ共之、市中ノ教
 ケ所ニ分ケテオクナラハ之ノ怖レハナキナラン、吾々ノ經濟生活ニ
 對シテモ之ノ危險分散主義ハ公一ノ效果ヲ以テ之ヲ利用シ得ヘシ之

ニヨリテ経済生活ノ安定ヲ計ルコトヲ得、例ハハ一ツノ銀行カ其資産ノ大部分ヲ一ツノ事業ニシテ投資スル時ハ其事業ノ成績ニ從ツテ其銀行ノ成績モ打撃ヲ受ケルカラ銀行ノ基礎ハ強固ナラス、然ルニ其資産ノ色々ノ方面ニ投資スルナラハタト、一ツノ損害カ生シテモ之カ為ニ受ケル打撃ノ程度ハ少ナキナリ、而シテ又一方ニ特別ナル損害アレハ他方ニ特別ナル利益ヲ見ルコトモアリテ互ニ平均セラレ相殺サレルカラ特ニ大利益ヲ得ラレナイカ特ニ大損害ヲ蒙ルコトモナク常ニ確実ナル基礎トシテ其事業ヲ営ミ得ルナリ吾々ノ家庭經濟ニ就テモ之ノ事ハ全一ナルカ故ニ財産ヲ利殖スルニ当リテハ公債、株券、銀行預金、土地其他可及的多クノ方面ニ於ケテ投資シ又其株券トカ社債トカスフモノ、中ニアリテモ色々ノ種類ノ事業及ヒ公債ノ事業中ニテハ色々ノ異ナレル会社ノ株券ニ分ケテ投資スルコトカ合理的ナリ、即チ之ノ主義ニヨレハ損害ノ生スル度数ハ増加スルカモ知レヌ其程度カ常ニ微弱ナルカ故ニ生活ノ安定カ破壊サレナイテスムナリ、此ノ主義ハ平均ノ法則ノ一ツノ應用ナルカ故ニ之ノ法

則ツレテ十分ニ活動セシメル為ニハ可及的危険ヲ多数ニ細分シ且各ノ部分ヲシテ可及的公程度ノモノヲラシメル時ハ即チ平均數ニ計スル偏差ヲ少ナカラシメル時ハ尤モヨク其效果ヲ發揮シ得ルコトハ当然ナリ、

保險制度ハ平均ノ法則ノ一ツノ應用ニシテ危険分散主義ヲ巧ミニ利用スル事ニヨリテ其事業ヲ堅実ニ行ヒ得ルモノナリ、今茲ニ保險者ノ立場カラ一ニノ場合ヲ挙ゲルト

- 一、火災保險ニ付テ云ハ、被保險物ヲ可及的全国各地ニ廣ク求メテ一地方ニ危険密集スルコトヲサケルコトヲ要スル
- 二、火災又ハ海上保險ニ就テハ保險者ハ一ツノ被保險物ニ付イテ其引受アル可キ保險金額ノ限度ヲ定メ一契約ニ就テ特ニ多額ノ契約ヲシテハナラヌ、モシ被保險物ノ保險カ大ナレハ其一部分大シ引受ク可シ、モシ止ムヲ得ヌ多額ノ契約ヲナレタル時ハ其一部ヲ他ノ保險者ニ再保險ヲナシ自己ノ責任額ヲ少額ニ止メオク可シ
- 三、保險会社ノ資産ノ運用ニ付テハ可及的各方面ニ其投資ノ細分

スハキコト前ニ銀行ニ付テ述メルカ如シ
危険細分ノ必要ナルコトハ被保險者カラ見テモ公様ナリ、即チ被
保險物ノ價大ナル時ハ一ツノ保險会社ト多額ノ契約ヲナサス多クノ
会社ヲシテ少シツツ危険ヲ分担セシム可シ、此ノ如クスレハシトハ
一会社カ支拂不能トナリテモ他ノ多クノ会社カラ大部分ノ損害堪
マウケルカラ損害ガ發生シテ支拂ヒマウケルコトカ確實ナリ、此ノ
共同保險ノ一例ヲ示セハ或人カ建物四十万円、動産十万円ニ對シテ
一ニノ会社ニ少シツ、契約ヲシテ例モアル、

第六章 保險ノ淵源

保險ノ淵源ハニアリ、(一)ハ相互救済ノ精神ニ基キテ多數ノ人カ共
同計算ヲナレテ損害ヲ分担スル考カラ起レルモノナリ、之ノ精神
ハ人間ニ自然ニ具ハツテアルモノナレハ極メテ古イ時代カラ之ノ精

神ニ基ツク經濟上ノ制度カ歴史上ニ現ハレテレ、古代ノ東方諸國例ハ
ハ、バビロニア等ニ於ケル記録ニモステニ或種ノ相互扶助ノ制度ガ見
エテルカ然レ此ノ如キ古代ハサテキ歴史カ相当ナル確カサヲ以テ
保存セラレテヨリ以テ尤モ古ク現ハレテアルノハ、*Rome* 時代ノ
Collegia (*College*) ナリ、之ハ僧侶又ハ職人又ハ商人ノ團結ニシ
テ宗教的ノ色彩ヲオビテオリ、団体員ノ賦金ニヨリテ互ニ困難ヲ救ヒ
合ヒシモノナリ、中世ニ於テハ全思想カ *guild* ナリテ現ハレテレ
之ハ營業上ノ利益保護ヲ主シル目的トスルモノカ多カリシ中ニハ單
純ナル社交的ノモノアリ、何レノ場合ニ於テモ宗教的ノ色彩ヲ帶ビ組合
員ハ病氣、死亡、火災等ノ不幸ノ場合ニハ互ニ助ケ合ワナリキ、之
ハ既ニ第八卷ニ述ビニヤリレコトカ、記サレテルカ、最モ發達セルハ一三
又ハ一四世紀、ノ頃ナリ、近世ニナルト自由思想カ世ノ中ヲ支配シ
都會ニハ營業ノ自由ガ認めラレ、農村ノ住民ニハ農奴タル地位カ次第
ニ消ヘラレテ居住移轉ノ自由モ認めラレ、遊ニ圧政的ナ *guild* ハ滅
亡スルニ至レリ、其代リニ産業革命以來労働者 *Trade Union* ノ生活カ不安

定ニナリシカハ遂ニ今日見ル如キ共済組合カ生レテ相互扶助ノ精神
ニ基ツキ一種ノ保險ヲ行フ事ニナレリ、

此外ニモ尚実業家ガ其実業ノ安定ヲ計ル上カラ合シ思想ニ基ツキ
テ團結シテモノアリ例ハ家畜業者ノ相互主義ニヨリテ出来テオ
ル家畜保險ノ組合、森林業者ノ組織セル森林火災保險組合ノ如キモ
ノ之ナリ、之等ハ実業經濟又ハ生産經濟ノ方面ニ利用セラレテアル
モノナリ、而シテ前述ノ *Friendly society* 等ハ *cons* 經濟又ハ家庭
經濟ノ方面ニ之ヲ利用セラレテアルモノナリ、二者共ニ相互主義
Mutualism (or mutual aid, or mutual aid) ノ思想カラ生レタ
モノナリ、

保險ノ第一ノ淵源ハ損害ノ轉嫁又ハ引受ヲ官業的ニ行ヘルモノナ
リ、之ハ主トシテ海上保險ニ源ヲ發シテアル、古ハ造船術及ヒ航海
術ノ幼稚ナル為ニ海上貿易ハ甚ク冒險的ナモノナリシカハ地中海沿
岸諸國ヲ貿易カ盛ニ行ヘル、ニ當リ一定ノ對價ヲ授受シテ危險ヲ
引受ケルコトカ盛ニ行ハレタルナリ、此ノ方法ニヨル保險事業ハ

久レキ問海上保險丈ニ限ラレタメカラ一ハ在紀、未ニ至ル迄ハ保
險ト云ハハ海上保險ノミシ意味、スルモノナリキ、(今日單ニ保
險ト云ハハムレハ生命保險ヲ意味スルコト多キモノ、如シ)然
ルニ近世ノ初メ又ハ中世ノ終リニ於テ之ノ方法ヲ火災保險及ヒ生命
保險等ニ應用スルモノカ出来テ之ヲ營利事業トシテ營ムモノカ次第ニ
多クナリタレハ保險事業ノ種類及ヒ範圍ガ甚ク廣クナリ而シテ今日
尤モ普通ニ行ハレテモノハ之ノ方法ニ依ツテナルナリ、即チ保險ヲ
一ツノ商品トシテ賣買シテナルナリ、

此ノ如ク保險ノ源カニアルコトハ甚ク注意スヘキ事ナリ、今日デ
ハ保險事業ノ經營ノ方法ニ治ントシ一視シ得難キ程異ナレルニ方法
アリ、又保險ノ性質ヲ述ヘルニ當リテモ第一ノ源カラ出テレ經營ノ
方法ニヨルモノヲ損害分担ノ制度ト考ヘ、第二ノ源カラ出テモノ
シ危險ノ賣買ト考ヘ之ノ二ツヲ合時ニ認メルコトニヨリテ保險ノ性
質ハ一層明ニ了解セラレ得ルト思フ、兩者共ニ損害ヲ他人ニ轉嫁ス
ル点ニ於テハ共通ナルカ其轉嫁スル方法カ大イニ違ツテアルナリ、

右述スル如ク、保險事業ノ經營方法ニ相互主義ト受員主義トノ二ツカ
アルカ之ノ事ハ保險ノ淵源ニ干スルニ元論ニヨリテヨク理解サレ得
ルナリ、

第七章 保險者ノ種類

歐洲ニ於ケル保險事業ノ沿革シタマヌルト海上保險ハ初メ個人ノ
營利事業トシテ行ハレ右ニ会社組織ノモノカ起リ又時トシテハ小規
模ニガテ相互組織ノモノカ生スルニ至レリ、生命保險ハ初メハ *guild*
其他ノ共済組合ニヨリテ行ハレ右ニ海上保險ノ影響ヲ受ケテ個
人企業者ヲ生レタケレ共今日ニ至リテハ会社組織ヲ以テ之ヲ營ムモ
ソカ尤モ普通ナリ、尚之ノ外ニ保險ノ種類ニヨリテハ産業ノ獎勵、
公益、増進又ハ公安維持等ノ目的ヲ以テ國家其他ノ公法人カ保險事
業ヲ營ムルモノモアル、凡ソ保險事業ハ大規模ノ組織ニヨリ成ラ多

數ノ人ヲ相手トシテ行フモノナレハ其事業ノ確實ニ行ハル、ト否ト
ハ大イニ公益ニ干保ス、其事業ノ主体ニハ確實ナル財政上ノ基礎ト
永續シ得ヘキ事業ノ組織トヲ必要トス、又吾保險業法第二條ハ保險
事業ハ株式会社又ハ相互会社ニ非レハ之ヲ營ムヲ得スト定メテアル
從ツテ一個人ハ勿論合名会社ノ如キ組織ヲ以テ之ヲ行ヒ得サルナ
リ、但シ之ノ外ニ吾國ニ於テ保險事業ノ經營者タルモノニアリ、一
ハ國家デアリ他ハ共済組合ナリ、國家其他ノ公法人カ其職務ノ一ツ
トシテ保險事業ヲ行フ事ハ保險事業ノ公共的ノ性質ニ及スルモノニ
非サルハ勿論却テ如何ニ保險事業カ公ノ性質ヲ有スルモノテアルカ
ヲ裏書スルモノト云フ事カ出来ル、吾國ニテハ逋信省テ大正五年以
來簡易生命保險ヲ行ヒ大正六年ヨリ數年間々々農商務省テ戰時海上
保險ヲ行ハルハ之ノ例ナリ、而シテ末年度カフハ健康保險ヲ工場及
鑛山ノ從業者ノ為ニ内務省ヲ行フ可キ事トナツテ千ル、次ニ共済組
合カ保險事業ヲ行ハル例ハ各種ノ工場商店等ニ多ク其例ヲ見ルカ之
カ保險業法第二條ニ違反スルコトナキヤ否ヤニ付テハ論争アリ、現

今吾政府ノ解法ニヨレハ之等ハ一定ノ限ラレタル範圍内ノモノカ相互ノ利益ノ爲ニ団体ヲ形造ツテモテアルカラ一般公衆ヲ相手トスルモノニ非ルカ故ニ事業ヲ営ムト云フ可キニ非ス、從テ法律違反ニ非ストシテ放任セラレテアルカ之ハ甚ク不適当ノ事ト思フ、現在ノ例ハ多クハ三越等ノ範圍ヲ限ラレテアルケレ共其性質上廣ク一般ノ人ヲ相手トシテ行ヒ得サルモノニ非ス、カノ英國式ノ共済組合ノ如キハ決シテ區域ヲ限ラスシテ一般ニ組合員ヲ募集シテルノテアツテ之ノ種ノモノカ將來吾國ニ行ハラスト予言スルコトハ出来ス、宜シク政府ハ共済組合法ヲ制定シテ之等ノ有益ナル団体ヲ法律上一ツノ人格トシテ認メルト今時ニ其事業ニ十分ナル監督ヲ加ヘ確實ナル基礎ノ上ニ立シメルコトカ必キナリト思フ、其中テ官業ニ附屬シテ設ケラレルモノ例ハハ鐵道省共済組合ノ如キハ勅令ニ基キテ作ラレテルモノテハアルカ之ノ場合ニ於テモ勅令ヲ以テ保險業法即チ法律ノ例外ヲ定メルコトハ今日ノ法學上ノ原則ニ及スルモノナルカ故ニ等ニ對シテモ共済組合法ヲ設ケルコトカ理論上必要ナリト思フ、

兎ニ角吾國ニ於テハ一般ノ人ヲ相手トスル保險事業ノ主体ハ株式會社又ハ相互會社ノ組織ニヨルコトヲ原則トスル、其他ノモノカ之ヲ營ム時ハ之ヲ類似保險事業ト稱シ事業ノ禁止ヲ命セラル、尚之ノ外ニ注意スヘキハ外國保險業者ニ對スル一ツノ特別ナリ、外國テハ各其國ノ法律ニ從ヒテ個人企業又ハ合名會社等ノ組織ヲ以テ之ノ事業ヲ營ムルモノアリ之等ノモノカ吾國ニ支店又ハ代理店等ヲ設ケテ事業ヲ營ムニ當リテハ特ニ之ヲ許可スルコトヲ明治三十三年勅令三八〇号外國保險會社ニ干スル件ノ第一条ニ定メラレテキル、他ノ英國Longwellニ屬セル保險業者ハ個人企業者ノ最モ替シキモノテアリ之カ吾國ニモ深入リ干保ヲ有スルコト等ノ理由カラシテ之ノ勅令カ特ニ設ケラレタモノナリ、株式會社カ保險事業ヲ營ム事ハ他ノ種ノ事業ヲ營ム場合ト始メト異ルコトナシ、其詳細ハ商法ニ定メラレテアル、只保險業法十四條以下ニ多少ノ特別規定カアルカ特ニ説明スル必要ヲ認メス、及之相互會社ハ保險事業ニ特有ナモノニシテ保險業法ニ詳シク規定アリ、之

ハ大体ニ於テ産業組合トシテ精神ニ基ツイテ起レル協働運動(Co-operative movement)ノ現ハレニシテ社員カ共金ノ利益ヲ増進スル為ニ相互保險ヲ行フ事ヲ目的トスル社団法人ナリ、其事業ハ管利事業ニ非ルカ故ニ營業稅ヲ課セラル、事ナシ又登録稅ニ就テモ特別ナル保護ヲ受ケテ、(業法九〇条及九一条)從テ其計算ニ付テモ利益金又ハ損失金トハ云ハスレテ剰余金又ハ不足金ト云フ文字ヲ用フ、合併其会社ノ經營ニ干シテハ普通ノ株式会社ト甚シキ違ヒハナイカラ業法三五条ハ便宜上ヨリ商人及ヒ会社ニ干スル商法ノ規定ヲ之ニ準用シテアル、之ノ相互保險会社、特色ヲ示ス為ニハ之ヲ株式会社ト比較スルカ便利ナリ、第一ニ株式会社ニアリテハ株主ト被保險者トハ全ク異ルモノナレ共相互会社ニアリテハ社員ト被保險者トハ恒ニ公シ人問ナリ、即チ其被保險者ハ悉ク社員トシテ会社ノ議決機關、タル社員總會ニ出席シテ会社ノ事務參與スル權利ヲ有スルコト株式会社ノ株主ト同様ナリ、之ト公時ニ其社員ハ皆被保險者ニシテ保險契約ニ基ツテ權利及ヒ義務、ヲ有スルコト株式会社ノ被

四六

保險者トシテ事ナリ、第二ニ株式会社ノ資本金ハ株主カ出資スルモノナルカ相互会社ノ基金ハ(資本金)ハ社員ノ出資スルモノナラス基金疎出者ハ相互会社ニ對シテハ大体ニ於テ株式会社ノ社債ノ所有者トシテ單純ナル債權者ノ地位ニ立ツモノナリ、從テ一定ノ利子ヲ受ケルメケニシテ会社ノ營業ニ基ツテ利益配當ヲ受ケナイコトヲ原則トシ又社員ノ如ク会社ノ事務ニ參與スル權利ヲ有スルモノニアラス、合併之ノ基金疎出者ノ債權ハ單純ナル金銀貸借上ノ債權ニハアラス其基金ハ每事業年度ノ剰余金ヲ以テスルニ非レハ償却セラレ又ハ利息ヲ支拂ハル、ゾ得ス(業法五条)又清算ノ場合ニハ最后ノ順位ヲ支拂ヒゾ受ケルニ止マル、又社員ハ基金ノ償却ニ付テハ責任ヲ負フ事ナシ、(業法七九条)又基金疎出者ハ保險事業ノ經營ニ干シテ恰モ株主ト同様ニ利害干保ヲ有レ企業ノ危險ヲ負擔スルモノト云ハサル可カラス、彼等ハ往々相互会社ノ剰余金ノ分配(即チ利益配當)ヲ受ケルコトアリ、ソノ場合ニハ株主ト殆ント異ルコトナシ相互会社ト株式会社トノ間ニ殆ント其差ヲ見出し得サルニ至ル。

四七

吾國等ノ實情ヲ見ルト相互会社ハ甚シク株式会社ニ接近シ治レト一
ツノ管理事業ニ近キモノトナリ、ソレト同時ニ其社員即チ被保險者
相互間ニハ共金ノ利害干係ト云フカ如キ道德的連鎖ヲ殆ト消テ
恰ニ株式会社ト契約ヲ締結スルト全ク考ヘテ之ニ對シテアル状態ナ
リ、之ニ依テ見レバ今日ノ相互会社ナルモノハ資本的企業タル株式
会社ト相互救済機關、タル相互組合ト、中間物ト云ハサル可ク
ス、相互会社ニ基金ヲ必要トシ之ニヨリテ保險契約上ノ義務、ヲ
確定ニ保証スル制度ハ恐ラシク、法律ヲ參照シテモト思フ、
英國テハ必レモ之ノ基金ヲ必要トシテオラヌ、其状態ハ恰モ吾國ノ
共済組合カ基金ナクシテ其事業ヲ營メルト全ク、サテ之ノ基金ハ每
年度ノ剰余金ヲ以テ次第ニ償却セラレモナリ、(業法五六条)
而シテ其償却セラル、ニ從ヒ金額ノ積立金ヲナシテ会社ノ担保資金
ヲ減少セシメサルコト、定メラル、即チ会社ノ支拂ヒ能力ニ變更ヲ
来サヌ様ニシタル、(業法六〇条)而シテ基金カ全ク償却セラレタ
ル時ニハ其会社ニハ最早基金取出者ナルモノモナイ從テ会社ノ利益

配當ニ相当スルモノヲ取去ルモノカナクナル、純粹ニ社員全体ノ共
有物ニナリ純然タル相互保險ノ實ヲ挙げ得ルコトニナル、第三ニ相
互会社ノ債務ニ付テハ社員ノ責任ニ付テハ三種ノ區別ヲ認メルコト
産業組合トシ、(業法三七条)

- 甲、無限責任即チ社員全体カ絶体的ニ責任ヲ負フモノ、
- 乙、有限責任即チ社員全体カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ、
- 丙、保証責任即チ社員全体カ保險料ノ他ニ一定ノ金額ヲ限度トシ
テ(例ハ、金何円迄又ハ保險料ノ何倍迄)責任ヲ負フモノ之
ナリ、

前ニ産業組合ニ付テ述ヘタルカ如ク相互会社ナルモノハ無限責任
タルコトカ其理論ニ尤モ適スルモノナレ共此ノ如キハ狭イ範圍内テ
互ニ熟知セル人々ノ間ニ非レバ實行不能ナリ、廣ク一般ノ人ヲ相手
トシテ行フ為ニハ株式会社ニ似タ方法ヲトリテ責任ヲ輕クスル必要
アリ、吾國ニ現存スル相互会社ハ有限責任ノモノ許リナリ、

第八章 保險事業ノ經營方法

五。

保險事業ハ色々ノ方法ヲ經營サレテルカ茲ニ述ヘント欲スルモノ

第一ハ營利ト非營利

第二ハ任意ト強制

第三ハ請負式ト相互式

ノ三方法ナリ

一、保險事業ノ經營ニヨル損益

負担ノ狀況ヲ標準トスル時ハ請負式ノ經營方法ト相互式ノ經營方法トニ區別セラル、相互式ノ保險事業トハ共通ノ *Principle* ヲ感スル多數ノ人が團結シテ互ニ其費用ヲ分担スルモノヲ云フ、被保險者ハ相合シテ団体トシテハ保險者ノ地位ニ立テ個人トシテハ相合シテハ被保險者ノ地位ニ立ツモノナリ、所謂相互主義ニ基クモノニシテ

相互組合(例ハ共済組合)及ヒ相互保險会社ニ於テ行ヘル方法ナリ(但シ相互保險会社ハ往々ニシテ之ノ理論ヨリ脱線シテルモノノ少ナカラサルコトハ前述ノ如シ)請負式經營方法ハ國家又ハ株式會社ニテ行ヘル場合ノ如ク企業家ノ地位ニ立ツモノアリテ云ハバ保險テフ一種ノ商品ヲ一定ノ *Price* ヲ以テ賣買シ其事業經營ニヨル損益ヲ自ら負担スルモノナリ、被保險者ハ一定ノ保險料ヲ支拂フ事ニヨリテ *Member* ヲシ全ク他人ニ轉嫁スルモノナリ、

相互式ノ經營方法ヲヨル時ハ各人ノ負担スル保險料ハ一定額ナルヲ得ス、其保險料ノ支拂ヒ方ニ色々ナルカ通例ハ先ツ一定額ヲ前納シ決算期ニ至リテ剰余金カアレハ拂戻スル又ハ積立金トナシオキ不足金アレハ通徴スルナリ、時トシテハ後納法ニヨルコトモアリ、即チ損害ノ發生後ニ其支出スル金額ヲ団体員ニ割當テ、徴収スル方法ナリ、相互式ノ方法ニヨルトキハ損害ノ轉嫁ヲ嚴格ニ行ハレルニ非ス、団体員全体ノ中ニ生スル損害ヲ全員テ負担スルモノニシテ自分モ亦自ら自分ノ損害ノ一部ヲ負担スルモノナリ、サレ共団体員カ

多数ナル時ニハ平均ノ法則ニヨリテ人々ノ年々ノ負担額モホゞ一定
レテ其一定額ノ負担ニヨリテ各人ノ損害ハ団体員全部ニ轉嫁セラレ
ルモノト云フヲ得、請負的ノ保險ニアリテハ各人ハ一定額ノ負担ニ
ヨリテ其損害ニ完全ニ保險者ニ轉嫁シ得ルモノナルカ上述ノ如ク相
互式ノ保險ニアリテモ団体員皆被保險者ノ数ナシハ此ノ点ニ
於テハ殆ソト異ルコトナレ

近年ニ至リテ株式会社又ハ時トシテ政府ノ行フ保險ニ於テサヘモ
被保險者ニ對シテ所謂利益配当ヲナスコトカ流行シテハ、吾國テハ
損害保險会社ニハ（火災海上等）此ノ如キモノ全クナシ、サレ共生
命保險会社ハ例外ナリ之ヲ行ヘリ、此様ナ經營方法ヲ混合主義ノ保
險ト稱スル人ガアリ、之ハ相互会社ノ事業ニ對執セラレテ之ト競争
スル為ノ營業政策、トシテ之ノ方法カトラル、ニ至レリ、尤モ損
害保險会社ニ於テモ時トシテハ一定ノ期間内ニ事故カ全ク發生セサ
リシ時ハ其保險料ノ一部ヲ拂ヒ戻ス事モアリ、但シ之ハ營業政策
トシテ保險料ノ割引キヲナシメルニ過キヌモノニシテ所謂利益配當

トハ其精神ヲ異ニスルモノナリ、茲ニ言フ利益配当トハ株主ニ對ス
ル配当ニ甚ク類シタルモノニシテ營業成績カ良好ナル場合ニ利得金
ノ一部ヲ保險契約者ニ分配スルモノヲ云フナリ、此ノ方法ハ相互會
社（特ニ生命保險ノ）ニ於テ剰余金ヲ生シタル場合ニ採用スルコト
ヲ要スル方法ナリ、然ルニ株式組織ノ会社カ之ト競争シテ事業ヲ營
ムカ為ニハ之ト全ク方法ヲ採用シテ契約者ノ數心ヲ求メル必要カア
ルニヨリテ今ヤ一般ニ採用セラレ、ニ至レリ、然シ實際ヲ云フト此
ノ如キ方法ヲ行フカ為ニハ保險料ハ幾分カ高價ニナツテハ、其実績
ヲ越ユル部分ニ利息ヲ附シタルモノカ利益配當トシテ分配セラレ
ルナラハ何等ノ損得ナキモノナリ、併シ實際ニ於テ其配當額ハ会社
ノ成績次第ヲ之以上ノ事モアリ之以下ノ事モナキニシモアラス、而
シテ又相互会社ト虽不足金ヲ追徴スルコトハ事實困難ヲアリ且会社
ノ信用ニカ、ワルヲ以テ初メヨリ實價以上ヲ徴收シ其剰余部分ヲ返
ス事トシタルカラ結局ハ公レ事ヲ行ツテモノナリ、
此ノ如クシテ請負式ト相互式トハ區別ノ標準カ實際ハ不明瞭ニナツ

テルナリ、

二、営利主義ト非営利主義

営利事業トシテノ保險業ハ株式会社（及ヒ一般ニ資本主義的組織ノモトニ）ヲ行フ所ノモノナリ、但シ國家カ収入ヲ得ル目的ヲ以テ財政的独占事業トシテ之ヲ管メル例アリ、*Italy*ノ生命保險ノ如キ之ナリ、非営利事業トシテノ保險業ハ共済組合又ハ政府等ニ於テ行ハルコト多シ殊ニ國民生活ノ安定（労働保險ノ如シ）又ハ産業ノ發達（森林、農 保險）等ヲ目的トシテ國家自ラ、又ハ地方自治体々自ラ之ヲ行フ事近來ニ至リテ益増加ノ傾向アリ、吾國ノ相互保險会社ハ非営利事業タルコトヲ本質トスルケレ共實際ニハ官利的ノ色彩ヲ帯ヒルモノモアルコトハ前述ノ如シ、

抑、保險事業ヲ営利事業トスルコトノ可否ハ近年ニ至リテ國民ノ經濟生活ニ對スル國家ノ任務、國家ノトル可キ態度カ次第ニ深ク論及セララル、ニ至リテヨリ色々ノ意見ヲ述ブルモノアリ、若シ純然タル社會主義ノ立場ニ立テハ最早議論ヲ俟タスシテ結論ハ明ナリ、併

シ、資本主義經濟組織ノ下ニ營業ノ畧、ノ原則カ認めラレテ今日於テ之ヲ論スルナラハ第一ニ生産經濟ニ伴フテ行ハレル保險ハ例ハハ海上保險、運送保險、火災保險ノ一部（工場等ノ生産事業ノ火災保險）ノ如キモノハ官利主義ニヨルコトヲ妨スル考ヘラレ、併レ第二ニ消費經濟ニ伴フテ行ハレル保險例ハ生命保險、社會保險、住宅ノ火災保險ノ如キ種類ノモノハ非官利的ニ行フ様ニ勉メタイモノト思ハレ、第三ニハ前ニ保險ノ可能範圍ニ付テ述ヘタルカ如ク保險ノ必要ノ程度カ大ナルニモ拘ハラズ実行ノ困難ナモノ例ハハ戦時保險、救災保險、森林保險ノ如キモノハ官營且非官利的ニ行フ事ヲ適當トスルナラン、

官利事業ハ企業家ノ利潤ヲ目的トシテ行ハレルモノナルカ故ニ理論上ハ被保險者ニ不利益ナリ、殊ニ之カ官營ナル場合ニハ一種ノ間接稅ヲ課セラレタルト企結果ニナル、伴件株式会社等ノ如クニ私的企業家ノ利益ノ為ニ行ハレル時ニハ企業家ハ其個人的利害干渉ニ刺戟セラレテ最モ救済ニ行動スルカヲ實際ニハ却テ良成績ヲアゲ非官

利事業ニ比ヘテ却テ被保險者ノ為ニ利益トナルコトナキニアラス、
 (附記) 從來多クノ學者ハ保險事業ヲ分ケテ相互保險及ヒ營利保
 險トレテ、此ノ如キハ單ニ保險法ノ詳統トシテ相互会社及ヒ株式
 会社ノ性質ヲ説明スルニ便利ナルカ度ク保險學上ノ分類トナスヘキ
 ニ非ス、例ヘハ非營利事業トシテ請負式ノ方法ヲ行ハレル團營保險
 (簡易生命保險、戰時海上再保險、健康保險)ノ如キハ、二者何レモ
 モ属セサルモノナリ、即チ之ノ分類ハ分類標準ノ取り方ヲ採レルモ
 ノナリ、其正確ナル分類法トシテハ營利ニ對テ非營利、相互ニ對
 シテ請負トナスコトヲ要スト考フ、然ルニ又相互主義ヲ文字ヲ非營
 利主義トイフ文字トシテ意味ニ用フル學者少ナカラス、實ハ上述ノ如
 ク營利保險ト相互保險ト對立セシメル處ハ悉ク此ノ意見ノ如クニ
 思ハレル、勿論定義ノ定メ方ハ人々ノ任意ナルカ余ハ此ノ如キ文字
 ノ使用方ヲ不適當ト考ヘル、即チ相互保險ハ恒ニ非營利ナルカ非營
 利保險ノ中ニハ相互式ト請負式トノ經營ノ方法カアルト思フ、カ
 ンテ吾國ヲ行ヘル戰時海上再保險ノ如キハ非營利事業ナレ共被保險者

相互ノ間ニハ少シモ損益ニ付テ共通ノ利害ナク只一定ノ保險料ヲ支
 拂フノミナリ、又政府ハ之ニヨリテ其保險ヲナスコトヲ請負フシモ
 ノト私ハ考ヘル、

三、任意主義ト強制主義

從來保險ハ主トシテ其加入ヲ任意 (Free) ナラシメテキメガ近
 頃ニ至リテハ社會保險ノ如キハ之ヲ強制スルコトカ寧ロ普通ナリ、
 但シ他乙地方ノ一部ニ存スル公立ノ火災保險ノ如ク早クカ之ヲ強
 制保險トシテル例モナキニアラス、
 任意保險ノ主張者ハ自由主義ノ道德性ニ重キヲオキ自發的ニ將來
 ノ準備ヲナスコトハ高尚ナル道德ナリ、強制保險ハ之ノ道德性ヲ元
 スモノナリト非難ス、之ニ反シテ強制主義者ハ經濟上ノ必要ニ重キ
 ツオキ國民生活ノ安定ニ必要ナル保險ヲ普及セシメル為ニハ強制
 ヲ以テ最上ノ手段トス、而シテ任意論者ノ云フ如キ道德性ト至モ
 實際ニハ余リ實現セラレルコト少ク多数ノ人ハ無保險状態ニ放任
 セルコト多シ、又強制手段ニヨリテ將來ノ準備ヲナシシメルカ故ニ

及ツテ此ノ道德性ヲ發揮セシメルコトカ出未ルト云ハリ、

第九章 保險事業ノ種類

一、生命保險ト損害保險

吾商法ハ保險契約ニ付テ此ノ二ツヲ區別シテナル、商法ニコレハ損害保險契約トハ實際ニ發生シメル損害ヲ填補スル契約ナリ、商法三八四及六五三条ノ生命保險契約トハ人ノ生死ニ付テ一定ノ金額ヲ支拂フ契約ナリ(四二七条)而シテ吾保險業法、四二八条(一)ノ会社ニシテ生命保險事業ト損害保險事業トヲ兼営スルヲ得スト定メタル、之ノ二者ハ何ヲ標準ニシテ區別スルカハ註損害保險テフ文字ハ英佛等ニハ存在セス独リ独ニ語ニ *Schadenversicherung* ナル文字カナルノヲ斷決シタモノト思ハレル、但シ独ニ系統ノ諸國及ヒ吾國ニ於テモ保險事業ノ實際ニハ之ヲ用ヒス、只法律カ之ヲ用ヒテ

ル文ナリ)

凡ソ保險金ヲ支拂フ状態ニ二種アリ一ツハ一定ノ事故發生スルニ當リ必ス一定ノ金額カ支拂ハレルモノナリ、之ヲ定額支拂ヒ保險契約ト命名スルヲ得ヘシ、生命保險ノ如キハ之ナリ、第二ニ實際ニ發生シタル損害額ヲ保險金ヲ限度トシテ填補スルニ止マルモノナリ、之ヲ實害填補保險契約ト名付ケルヲ得ヘシ、火災又ハ海上保險ノ如キニナリ、今之ノ區別ニ從ハハ二者何レニモ屬セサル第三種ノ保險ヲ生スル、例ハハ傷害保險ニ於テ醫藥ノ費用、ハハ保險者カ支拂フノハ實害填補ナルカ若シ傷害ノ為ニ死亡スレハ一定ノ金額ヲ支拂フモノナリ、健康保險ニ付テモ同様ナリ、例ハハ醫藥ノ費用、ハハ實費又ハ實物ヲ支ヘルケレ共病氣ノ為休業中ハ生活費ニ當ル為ニ傷病手當金トシテ賃金ノ六割ヲ与ヘルカ如キハ上例ト同様ナリ、吾法律ニ於テ此ノ二者ヲ區別シタル所以ハ實際上ノ理由ニ出テシルモノト思フ、此ノ二種ノ契約ノ間ニハ色々ノ點ニ於テ法律干係ニ差別カアルカラ保險契約法即商法ハ此區別ヲナレタモノト思フ、而

レテ商法制定當時ニ於ケル吾國ノ保險業發達ノ狀態ニ照シテ其中カ
ヲ重キモノヲ又キ出シテ其契約ノ係ノ準則ヲ示シテモノト思ハレル
從テ決シテ第三種ノ保險ノ存在ヲ否定シテルニ非ス、只立法當時ノ
實際ノ必要ト便宜トニ出テタルモノテアル、當時ハ保險業ト云ハハ
生命、火災、海上ノ三種ニ過キサリレバ故ニ其他ノ物ニ干スル法則
ヲ定メル必要ヲ認めサリシモノト思フ。

次ニ保險事業監督法即保險業法ハ第一条ニ於テ凡テノ保險業カ政
府ノ監督ヲ受ケルコトヲ明ニシタ後第四条ニ於テ生命保險ト損害保
險トノ兼營ヲ禁セルナリ、其主意モ恐ラク商法ト全様ニ保險金交付
ノ狀況ニヨリテ分類スル精神テアルケレ共商法ニ於ケルト全ク特
ニ生命保險ト損害保險トヲ抜キ出シタルニ止マルト思フ、然ラハ何
故ニ此ノ二種ノ兼營ヲ禁スルカト云フニ之主トシテ生命保險ノ被保
險者ノ利益ヲ保護スル為ナリ、生命保險ハ長期ニ涉ル契約ニシテ保
險者ハ長期ニ涉リテ其集メテ保險料ヲ保管シ被保險者ニ又其契約ヲ
永續スル種類ノモノナリ、然ルニ火災又ハ海上ノ保險ハ其危險ノ發

× 〇

生カ甚々不規則ニシテ然モ其保險金額カ多額ナルカ故ニ其事業ハ甚
ク冒險的ナリ、及之生命保險ハ金額モ少ナク損害ノ發生モ規則正シ
キモノナレハ冒險的テハナイカワリニ長期ニ涉ル契約ヲアリテ後
ニ説明スル如ク多額ノ積立金ヲ被保險者カ保管スルモノナレハ之ヲ安
全ニ投資スル必要アリ、又ニ之ノモノヲ兼營セザル時ハ損害保險事
業ニ於ケル意外ナル出来事ノ為ニ其会社カ大損害ヲ蒙リ其債務履行
ノ為ニハ生命保險業ノ積立金ヲ犠牲ニ供スル必要ニヒマラレ多額ノ
被保險者ノ利益保護ノ為ニ二者ノ兼營ヲ禁シタルナリ、
此ノ如ク定額支拂ヒ保險及損害填補保險ノ區別ニ從フ時ハ第三種
ノ保險ヲ認めサル可カラサルニ至ル、又吾法律ノ如ク生命保險及ヒ
損害保險ノ區別ニ從フ時ハ生命保險ニ非サル定額保險ヲ第三種ノモ
ノトシテ認めナケレハナラヌコトニナル、且テ吾大審院ハ之等ノモ
ノニ對シテハ其準據法ナキカ故ニカ、ル契約ハ保險契約ニアラス、
從テ之ヲ事業トシテ保險業ヲ行ヘルモノニアラスト判決シタコトア
リ、

× 一

其判決ノ要点ハ産児保険ヲ行ハルモノニ對シテ第一ニ吾商法ハ生命
X二
保險ヲ定義シテ人ノ生死ニ干シテ定メテアル之ハ生存及ヒ死
モノ意味ニシテ出生ヲ含マス、又商法ハ人ノ生死トアルカ故ニ胎
児ハ未タ人ト云フ可カラズ、次ニ之ヲ損害保険ト見ル時ニハ其契約
ノ目的ハ金錢ニ見積リ得ヘキ利益ニ限ルト定メテアルカラハ商法三
八五條) 妊婦ハ其胎児又ハ自己ノ身体ニ付キ金錢上ノ利益ヲ有スル
モノニ非サルカ故ニ之ハ損害保険ニモ非ストイフ理由ヲ以テ此ノ如
キ産児保険ハ保險契約ニアラス、從テ其事業ハ政府ノ免許ヲ要セス
ト判決セルナリ、然レ此ノ如キ見解ハ今日一般ニ誤リナリト解セラ
レテアル、即チ此ノ如キ契約ハ保險契約テハアルカ商法ハ別ニ規定
シ被ケサリレモノト考フルカ正當ナリ、現ニ商法ニ於テモ損害保險
ニ付テハ四一九條ノ火災保險四二三條ノ運送保險六五三條ノ海上保
險之ヲ掲ケテアルカソレ以外ニ異ル種類ノ損害保險カナキニアラ
ス、現ニ政府ノ免許ヲ得テ行ツテモノカ此ノ外ニモアルナリ、又
商法ニ掲ケシレサル種類ノモノヲ行フニ當リテモ保險業法第一條ニ

ヨリテ凡テ政府ノ免許ヲ要スルモノト解テスルヲ正當トス、而シテ
之等ノモノ、詳言スレハ第三種ノ保險及ヒ商法ニ掲ケラレサル損害保
險ニ干シテハ商法及ヒ保險業法ノ規定カ類推的ニ適用アルモノト解
スルヲ正當トス、吾國ノ現狀ニ付テ云ハ、徵兵保險ヲ生命保險會
社ニ於テ傷害保險ヲ損害保險會社ニ於テ營業メル例アリ、
二、人事保險ト財産保險
今保險ノ種類ヲ事故ノ種類ニヨリテ分クル時ハ火災保險、疾病保
險等トナル、又保險ノ種類ヲ被保險物ノ種類ニヨリテ分ケル時ハ家屋
保險、生命保險、自動車保險等トナル、又事故ノ生スル場所ヲ標準
トシテ海上保險、陸上保險ニ分ケルコトモアル、サレ共此ノ如キ分
類ハ何等ノ實益ノナキモノナリ、實際ニ於テハ名ハ場合ニ適當ナル
名前ヲ採用シ從テ之等ノ色々ノ標準ヲ混用シテナル、從テ名称ハ色
々ニナツテルカ之ヲ大別シテ人事保險ト財産保險トニ分類スル事ヲ
得、
人事保險ト云フノハ人間ノ生命、身體、身分上ノ干係ニ付テ保險

スルモノヲ云フ、但シ其中カラ労働保険ヲ特ニ引ハナシ其他ノモノ
ノ普通保険ト呼フ事モアル、財産保険トハ、保險ノ客體カ財産テアル
モノヲ言フ、其中カラ特ニ海上保險(海上ニ於テ生スレバテノ事故
ニ保險スルモノ)ヲ特ニ引ハナス事カ通例ナリ、

人事保險ノ (*Personal Insurance*) 至ナルモノハ生命保險、
徵兵保險、疾病保險、傷害保險、出産保險、癩疾保險、失業保險等
ナリ其詳細ハ后述スヘシ、次ニ財産保險 (*Property Insurance*)
ノ主ナルモノハ火災保險、運送保險、各種ノ農保險、汽鐘 (*Steam
Boiler*) 保險、自動車保險等ナリ、之詳細ハ后述スベシ、

第十章 保險料

経済學ノ上テ廣ク保險料ト称モラル、モノハ *Risk* 轉嫁ノ對價
即チ *Risk* 負担ノ對價ナリ、例ハハ担保付キ貸金ノ利子カ七分ナ

ル時・無担保貸付ノ金利カ九分ナリトスレハ其差ノ二分ハ支拂ヒ不
能ノ *Risk* 對スル保險料ナリ、又例ハハ公債ノ利子カ五分ナル
ニ社債ノ利子カ八分ナル時ハ其差ノ三分ハ或ハ担保力ノ大小其他色
々ノ事情カ干係スルノテアルカ支拂ヒ不能ノ *Risk* 對スル保險料
ト見ル可キ分子カ含マレテアルコトモ疑ナキナリ、此ノ如キ事ハ色
々ノ方面ニ見ルヲ得、例ハハ傷害又ハ失業ノ *Risk*、大ナル職業ノ
賃金カ他ノモノニ比シテ幾分高キハ保險料ト見ル可キ分子ヲ幾分カ
其中ニ含有スルナリ、殊ニ所謂 *net profit* 即チ企業家カ損失ノ
Risk 又オカレテ企業ヲ行フ事ニ對スル報酬ハ全ク一種ノ保險料ニ
外ナラス、

保險額ニ於テハ之ヨリモ狭義ニ用ヒラル、被保險者カ保險契約上
又ハ保險法上ノ義務ニトシテ保險者ニ提供スル金額ヲ保險料ト云フ、
又ハ被保險者ハ自己ノ負担スヘキ *Risk* 入ヲ保險者ニ轉嫁スルモノナ
ルカ通例ノ保險ニ於テハ保險契約ニヨリ又労働保險等ノ如ク國家カ
強制スルモノニアリテハ其保險法ノ規定ニヨリ *Risk* 轉嫁ノ對價ト

レテハ、*Rate* 率ニ相当スル金額ヲ保險者ニ提供シナケレハナラヌ、
之ヲ保險者ノ方面ヨリ見ル時ハ、保險者ハ一定ノ場合ニ保險金ヲ支拂
フ義務、即チ *Rate* ハ其負担スルカ故ニ其対價トシテ相当ノ金額ヲ被
保險者カラ受取ラネハナラヌ、此ノ如キモノカ即チ保險學テ云フ所
ノ保險料ナリ、換言スレバ、保險料トハ、保險ト称スル一種ノ無形ノ財
貨ノ賣買價格ナリト考ヘルヲ得、

保險料カ被保險者ヨリ更ニ他人ニ轉嫁セララル、事ヲ豫期セララル、
ヤ否ヤヨリ直接保險料ト間接保險料トヲ區別シ得、之ハ財政學者
カ租税ヲ直接税、間接税トニ區別スルトニ思想ニ基付クモノ、テアリ
又之ヨリ生スル色々ノ利害干係モ殆ント同様ナリ、保險料ハ或意味
ニ於テハ一種ノ租税ナレバ、直接保險料トハ例ヘハ、生命保險ニ於ケル
カ如ク其納付者ガ實際ニ之ヲ負担スルコトヲ豫期セララル、モノヲ云
フ、及之間接保險料トハ納付者カ其負担ヲ一時支出スルニ止マリ結
局ハ之ヲ他人ニ轉嫁スルコトヲ豫期セララル、モノヲ云フ、例ヘハ商
品ノ海上保險ノ保險料ノ如キハ、商品ノ代價中ニ加算セララル、ガ故ニ

大々

其納付者ハ商人ナレ共其結局ノ負担者ハ一般消費者ナリ、火災保
險ニ付テ言ハバ工場、營業所等ノ保險料ハ生産費又ハ營業費中ニ加
算セラレ消費者ニ結局ハ其負担カ轉嫁セララル事トナラヌ、之ニヨ
リ見レバ大体ニ於テ保險ハ之ノ生産者即ち實業經濟ニ伴フ保險トシ
ニ消費經濟即ち家庭經濟的ノ保險トニ區別スルヲ得、而シテ前者ハ
其需要者カ主トシテ實業家ニシテ其保險料ハ營業費ノ一部トシテ他
人ニ轉嫁セラレ得ル、后者ハ其需要者ハ一般世人ニシテ其保險料ハ
家庭經濟上ノ一支出項目トナリテ其人ノ負担ニ属スルナリ、保險料
ノ結局ノ負担者カ何人ナリヤトノ問題ハ普通ノ保險ニ付テハ余リ論
セラル、事ナキカ社会保險ニ付テハ之カ社会問題研究者間ニ屢ニ論
争セララル、*Wicksbury's Social Insurance* No. 317 等ニ特ニ此
ノ問題ヲ研究セリ、思フニ勞働者ノ負担スル部分ハ賃金ノ一部トナ
リテ雇主ノ負担ニ帰セシ、又雇主ノ負担スル部分ハ生産費ノ一部ト
ナリテ消費者ニ轉嫁セラレン、又國家ノ負担スル部分ハ租税トシ
テ國民一般ノ負担ニ帰セシ、要之其全部カ國民一般ノ負担トナラヌ、

大々

乍併其負担ハ一方ニ社会保険ニヨリテ生スル能率増進ニヨリテ稱殺
 セラレ結局何人ノ負担ニモ帰スルコトナカラン、
 保険料ハ、*Life*ノ率ニ應シテ等級ヲ定メテ徴收スルカ普通ナリ、
 之ヲ等級保険料ト云フ、例ハ、石造ト木造、家テハ火災保険ノ率ヲ
 異ニスルカ如シ、及之危険率ノ大小ニ拘ハラズ同率ノ保険料ヲ取ル
 コトアリ、之ヲ均一保険料ト云フ、例ハ、健康保険ニ於テ年齢ノ高
 低ニヨリ病氣ノ率ヲ異ルニモ拘ラズ老若男女ヲ同一ニ取扱フカ如シ、
 此ノ均一方法ハ一見不合理ノ如キモ第一ニ手数ヲ省キ得ル長所アリ
 又社会保険ニ於ケルカ如ク政治上又ハ道徳上ノ理由ニヨリ主トレテ
 社会政策ノ目的ヲ以テ行ハル、場合ニハ其負担カ公平ナリヤ否ヤヲ
 深ク尋ヌルコトナク、同一ニ取扱フコトカ却テ其目的ニ適フ事アリ、
 而レテ之ノ均一方法ハ強制保険ニ付テ初メテ行ハレ得ヘトモ、ニシ
 テ若シ任意保険ニ付キ之ヲ採用スレハ前述スル及対選擇カ強ク働キ
 テ保険事業ノ実行カ非常ニ困難トナルヲ注意スルヲ要ス、
*Risk*中ニハ動的*Risk*ト不動的*Risk*トアリ、例ハ、ハニノ家屋

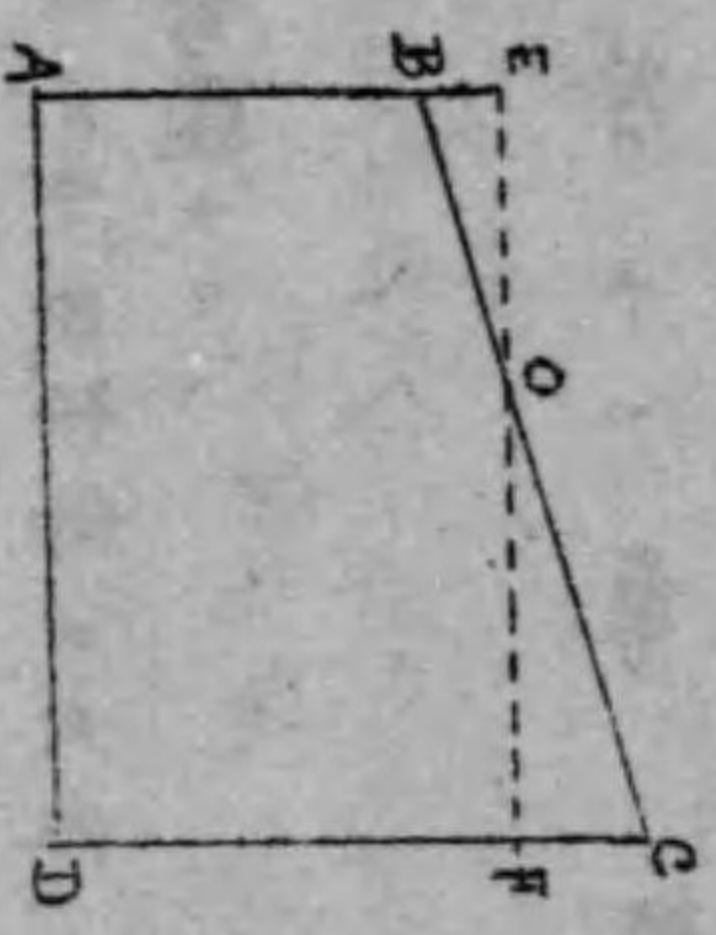
カ火災・カ、ル怖アル危険率ト毎年ソノ豫定ノ*Risk*率ニ相異ナケ
 レハ之ヲ不動的*Risk*ト称スルヲ得、及之人ノ死亡率、疾病率ノ如
 キハ年々進ムニ從ヒ豫定ノ*Risk*率ヲ變動スルカ故ニ之ヲ動的*Risk*
 ト称スルヲ得、其例ヲ示セバ、
 死亡率ノ例、(日本三会社表、男子綜合表)
 年 齡 死亡率

三〇	〇.〇〇七一八
四〇	〇.〇〇九三五
五〇	〇.〇〇二〇二八
六〇	〇.〇〇四三七三
七〇	〇.〇〇八二八三
八〇	〇.〇一九〇四四
九〇	〇.三八九八三

疾病率ノ例 (英國健康保険ノ基礎トナリシ表)
 年 齡 疾病率數

二〇	六、三〇七
二五	六、四九六
三〇	七、〇四九
三五	八、一七六
四〇	一〇、一四三
四五	一二、五五八
五〇	一六、六八八

勤的 *Life* 率ニ対スル 保険料ノ 定メ方ニ 二方法アリ、(一)ハ 自然保険料ナリ、*Life* 率ノ 増減ニ 應ジテ 毎年 其 保険料ノ 額ヲ 轉スルモノナリ、例ヘバ 三〇 才ノ 人ニ 対シテ 七四 十八 銭ヲ 取ルナレバ 其人カ 四〇 才ニ 達シタル 時ハ 九四 三十五 銭ヲ トルカ 如シ、(二)ハ 平準 保険料ト 言ヒ 長期ニ 渉ル 保険料額ノ 平均ヲ 求メテ 毎年之ヲ 徴收シテ 而シテ 毎年ノ 保険料ノ 剩餘又ハ 不足ヲ 長期ニ 渉リテ 平均セシムル 方法ナリ、今之ヲ 図解スレバ



□ ABCD ハ 自然 保険 料
 □ AEOF ハ 平 準 保 險 料
 △ BEO = △ OFC 不 足 剩 餘

之ノ 平準 保険料ニ ヨル 時ハ 初メ 数年 間ニハ 剩餘 金ヲ 生スルカ 右ニ 至ツテ 不足 金ヲ 生スルニ 當テ 前後 相殺シ 益金 ナカ ラシムルモノニシテ 而シテ 其 保険料ハ 毎年 金額ナレバ 甚タ 便利ナリ、今日ニテハ 勤的 *Life*ニ 対スル 場合ニハ 特ニ 生命 保険ニ 於テ 專ラ 此 方法 用ヒラルル 其 結果トシテ 生命 保険 事業ニハ 保険 料積立 金ナルモノヲ 生スルコトハ 尙ニ 説明セシ、
 被 保 險 者ノ 支 拂フ 保 險 料ノ 内 容ヲ 分 析 スレバ 二 部 分ニ 分ツ コトヲ 得、一 部ハ 純 保 險 料ニシテ 保 險 者カ 引 受ケ タル *Life*ニ 対シテ 保 險 金ヲ 支 拂フ 為ニ 必 要ト セラル、金 額ヲ 云フ、即チ 危 險 負 担ノ 純 粹ノ

対償ナリ、他ノ一部ハ *Loading* 附加保険料ニシテ保險事業ヲ営ム
為ニ色々ノ費用ニ充ツル為ニ純保險料以外ニ必要トセラル、金額ナ
リ、例ヘハ事務所ノ費用、代理店ノ手数料、租税、營業利益等ニ充
ツル為ニ要スル金額ニシテ純保險料ニ附加シテ徴收セラル、モノナ
リ、此ノ如ク被保險者ノ納ムルモノハ之ノ二者ニ合セタルモノナリ、
之ヲ總保險料或ハ營業保險料又ハ表定保險料ト称ス、單ニ保險料
ト云フ時ハ總保險料ヲサス、又ハ純保險料ノミヲサスモノナルカ前
向ノ干渉ニヨリ判断スルヲ要ス、生命保險ノ如クニ學術的研究ノ進
歩セルモノニアリテハ先ツ純保險料ヲ計算レ之ニ幾分ノ附加保險料
ヲ加ヘ以テ總保險料ヲ計算スルナリ、サレ共火災海上等ノ保險ニア
リテハ極メテ概括的ニ大体ノ見積リニヨリテ直々ニ總保險料ヲ決定
スルカ普通ナリ、

第十一章 選擇 (Selection)

被保險ハ自己ニトリ最モ有利ナル條件ノ保險ノ種類ヲ選擇スルコ
トハ当然ナリ、換言スレハ可及的少キ保險料ヲ支拂ヒ可及的多クノ
保險金ヲ得ントスルハ当然ナリ、例ヘハ任意保險ノ下ニ於テ均一
保險料ノ方法ヲトルナラハ *Risk* 率ノ大ナルモノ所謂 *Bad risk* 者
好シテ其保險ヲ利用スルコトナリ、反シテ好キ危險 *good risk*
ハ却テ之ヨリ遠サカルモノナリ、
其結果ハ保險事業ノ財政的基礎ヲ危クスルニ至ルコトハ明ナリ、又
等級保險料ノ方法ヲトルコトカ必要ナレ共此ノ場合ニ於テモ尚各様
ノ現象ヲ見ルコトヲ免レズ、即チ等級ヲ設クルトハ豈モ夫ハ無數ニ
アルニ非スシテ只若干ノ階級ヲ定ムルニ過キス、從テ同等級ニ屬ス
ル *Risk* 中ニモ *Risk* 率ニ差異アリ、例ヘハ三〇才ノ人ノ死亡率
カ何程ト云フ事ハ多數ノ人ノ平均ヲ見タルモノニシテ其中ニハ健康
者モアリ弱者モアリ、又 *Risk* 率ノ高キモノノミガハ同等級ノ中ニ
於テモ之ヲ利用スル怖レマレハ尚多少ノ注意ヲ要ス、

此、如シ被保險者ハ自己ニ尤モ有利ナル種類及ヒ条件ノ保險ヲ選擇ス、之ヲ自己選擇 *self selection* ト云フ、此ノ事ハ保險者ノ為ニハ不利益トナルモノナレバ、保險者ヨリ見テ之ヲ反對選擇又ハ逆選擇 (*anti-selection adverse selection*) ト云フ、

此、如キ選擇ニ對シテ保險者ノ側テハ自衛ノ為ニ *bad risk* ノ種亦レ可及的 *good risk* ヲ得ル為ニ選擇ヲ行フ、例ハ、生命保險契約ニハ身体検査ヲ行ヒ、火災保險ニ於テハ、夕トハ保險料安クトモ火災率ノ少キモノヲ好メテ契約シ夕トハ保險料高クトモ *risk* 率大ナルモノハ之ヲ拒絶スルカ普通ナリ、即チ保險者モ亦自己ノ利益ノ為ニ *risk* ノ良否ニ付キ選擇ヲ行フナリ、之ヲ單ニ選擇又ハ保險者ノ為ニ選擇トイフ、此ノ反對選擇ニ備フル為ニ保險者ハ色々ノ方法ヲトル、例ハ、被保險物ノ危険率ノ測定ヲ嚴重ニ行フ事、或ハ一定ノ不担保機關例ハ、契約后一定ノ期間内ニ生シタル損害ニ對シテハ保險金ヲ支拂ハストカ又ハ之ヲ減額スルトカ約束スルコト等アリ、

第十二章 保險ノ効果(利益)

保險ノ効果トシテ

第一ニ述フヘキ事ハ之ニヨリテ經濟生活ノ安定ヲ得ルコトナリ、已ニ保險ノ性質ニ付テ述ヘシル如ク經濟界ニハ色々ノ偶然ナル事故が發生シテ其生活ノ安定ヲ破ルモノナルカ之ニ對シテ豫メ備ヘテナレ其損害カ發生レテモ之ヲ他人ニ轉嫁スルコトニヨリテ恰モ其生シナカツタト同シ様ニ原狀回復ヲ得レノルモノカ即チ保險ナリ、

第二ニハ、貨財ノ担保力ヲ増進又ハ増加セシメテ金融ノ便ヲ得シメルコト、例ハ、火災保險ヲ附ケ又家屋又ハ海上保險ヲ附ケ又船又ハ商品ヲ担保トシテ貸付ケヲナスカ如キハ、モシ事故カ發生シタラバソレハ無担保貸付ト治メト異ルコトナキニ至ル怖レアリ、此ノ場合ニ保險金ハ担保品ニ代ハルカラ安心シテ貸付ケヲナスヲ得、荷為替ニヨリテ金融ヲ得ル場合ニ其目的物ニ保險ヲ付ケル必要アル

コトハ之ト全様ナリ、今日問題トナレルハ吾森林業者カ其立木ヲ担
保トシテ金融ヲ得ト欲シテモ森林火災保険ノ道ヲ開ケテヲナイ為
ニ金融ニ苦シテカラ其方法ヲ講スル為ニ目下政府ニ於テ研究ヲ
望ムテ、

第三ニハ保險事業カ金融市場ニ資本ヲ供給スルコトナリ、凡ソ
保險者ハ多クノ被保險者カラ小額ノ保險料ヲ集メ之ヲ保管シテオル
モノナルカ其金額ハ甚タ澤山トナル、殊ニ生命保險ニ於テハ右述ス
ル如ク多額ノ責任準備金ヲ保有スルモノナリ、此ノ他ニ資本金其
他各種ノ積立金等モアリテ之等凡テノ資産カ適當ニ投資セラレルナ
リ、即チ保險事業ハ其一面ニ於テ銀行及ヒ信託会社ト並ンテ一ツノ
金融事業ヲ営ム機關ナリ、依之經濟界ノ繁達ヲ助ケルモノナリ、各
被保險者ノ納ムル保險料ハ之ヲ一ツ一ツトシテハ甚シ小額ニシテ、
資本トシテ働キツナサカニカ保險者ノ手許ニ於テマトメラレル
事ニヨリテ上述ノ如キ働キヲ現ハスナリ、

第四ニハ保險ニヨリテ色々ノ事業カ起サレル事ナリ、上述ノ如ク

保險ハ *risks* 轉嫁ノ方法ニヨリ色々ノ事業ヲ堅實ニ行ハシメルモノ
ナリ、而シテ其被保險者ニトリテハ其負担スル保險料ハ毎年一定ノ
金額ナルカ故ニ企業家ハ之ヲ營業上ノ必要トシテ之ヲ豫算ニ計上シ
其ノ負担ハ、生費ノ一部トシテ、消費者ニ轉嫁スルモノナリ、而シ
テ之ニヨリテ偶然ニ多額ノ損害ノ生ズルコトヲ免カレ得ルカ故ニ其
事業ハ確實ナル基礎ノ上ニ立ツ事カ出来ル、之ニヨリテ各種ノ事業
ハ盛ニオコルコトカ出来ル、其尤モ著シキ例トシテハ海上保險ヲア
ケルコトヲ得、昔ハ海上貿易カ造船術及ヒ航海術ノ幼稚ナルニ加ハ
ラ海賊ノ *pirates* 等モ甚シカツタカラ海上保險ハ冒險貸借其他色々
ノ形式ヲ以テ行ハレテオリ今日ハ外國貿易及ヒ海運ノ欠ク可カラサ
ル所屬物トナツテル、工場其他ノ建物原料品、商品等ニ対スル火災
保險ハ之ト全程度ニ於テ欠ク可カラサル必要物ト考ヘラレテオルカ
此ノ事ハ即チ保險カ各種ノ事業ヲ興ヌ為ニ必要ナルモノナルコトヲ
証明スルモノナリ、今日問題トナレルハ農作物、牛馬等ノ保險ニレ
テ之ヲ政府自ラ行フ可キカ或ハ農會及ヒ畜産組合等ヲシテ相当保險

××

××

行ハレメ之ニ對シテ政府カ特別ナル保護ヲ加フ可キヤ否ナク問題トナレテルナリ、牧畜業ノ如キハ、獸疫ノ流行ノ為ニ甚ク危險ナル事業ナルカ保險ナクハ殆レト其事業ヲコシ得スト云ハレテル。

第五ニハ保險カ災害ノ予防ヲ助ケルコトナリ、ソモ、保險ハ災害ノ發生レタル後ニ於テ其損害ニ對スル準備タルコトヲ其本質トスルモノナルカ併ナカラ、保險事業ノ干係者ハ災害ヲ予防シテ從テ損害ヲ減少スルコトニ利害ヲ有スルモノナルカ故ニ其予防ノ為ニ盡カスル事が必要ナリ、例ハ海上保險ニ於テハ船舶ノ検査ヲ嚴重ニ行フ事ニヨリテ災害ヲ予防シ得ラレルカラ現ニ英國ノ Lloyd's 是於テハ保險業ト同時ニ Lloyd's Surveyor ナルモノアリテ船舶ノ検査ヲ行ツテル。

又例ハ火災保險会社ハ被保險物ノ火災率ヲ測定スルニ當リテ防火及ヒ消火ノ設備ニ付キテ適當ナル注意ヲ与ヘ之ニヨリテ損害ノ發生ヲ減少セシメ、火災ニ保險料率ヲ可及的安クスルコトヲ努メテル、尚之ノ外ニ生命保險会社カ巡回醫師又ハ健康相談所等ヲ設ケテ被保

七八

險者、健康保全ニツトメル如キ傷害保險組合ニ於テ危害予防装置ノ發明及ヒ其取付ケニカク盡スル如キ又健康保險、老衰保險等ノ備ハレル國々ニ於テハ病院反ヒ療養所ヲ設ケテ健康保全ニ努メテル等要スルニ災害ノ予防ノ為ニ施設カ保險事業ニ促サレテ盛ニ實行サレテルコトハ大ニ注意スルキ事ナリ、極端ナル場合ヲ云ハハ汽罐保險 (Steam Boiler insurance) ノ如キメハス技師ヲ派遣シテ被保險物ヲ視察セシメル、修繕其他必要ナル注意ヲ与ヘルコトヲ寧ロ主トシテルモノデ災害ノ發生ニ對シ保險金ヲ支拂フカ如キハ殆レド之ナレト稱セラレテ居ル。

第六ニハ社会問題ノ解決策トシテ保險カ頗ル有益ナモノナリ、凡ソ社会問題ハ色々ノ形ヲ現ハレテハオカ、其根本ハ經濟問題ナリ、其多クハ生活ノ安定ヲ得ルヤ否ヤニカ、レルナリ、此ノ目的ノ為ニ保險カ有効ナルコトハ保險ノ性質ヲ考ヘテ見レハ明ナリ、又、一九世紀ニ中頃以來歐洲諸國ニ於テハ社会政策ノ一端トシテ各種ノ社会保險ヲ實施スルニ努メ近年ニ至リテハ之ヲ以テ國民ノ義務ナリ

七九

考ハ之ヲ多数ノ國民ニ強制スルコトニナツラキル、此ノ事ニ付テハ后章ニ述ベシ。

保險カ此ノ如ク有益ナルモノナル以上ハ國家ハ之ニ對シテ保護獎勵ヲ努メナクシレハナラヌト思フ、現ニ吾國ニ於テモ近年ニ至リテ保險ニ于スル智識ヲ國民ニ与フルカ為ニ小学読本ニ特ニ一章ヲ設ケテ、又近年ハ逓信省簡易保險局ノ民間ノ生命保險会社トカ聯合シテ保險思想ノ宣傳ニ努メテル、又本年ノ議會ニ於テハ所得税法ヲ改正シテ生命保險ノ保險料ハ二百圓ヲ限度トシテ之ヲ課税ノ標準額カラ控除スルコト、之ヲ以テ次ノ年度カラ実施スル事トナレリ、之レ保險料ニ百圓ト云ヘハ大体ニ於テ保險金額五、六千圓ニ相當スルモノナリ、又簡易生命保險ニ于レテハ遺族ヲ保護スルカ為ニ保險金ノ差押ハヲ禁ス、但レ之ノ保護ハ民間ノモノニハ未ダ及ハス、此ノ外ニモ尚色々ノ保護獎勵ノ方法カトラレテル、例ヘハ社会保險ノ如キハ或ハ之ヲ強制トナシ或ハ任意保險ノ場合ニハ之ヲ行ヘル組合ニ對シテ補助金ヲハ政府カラシメ交付スルコトハ專ラ歐洲ニ行ハレテル。

又特ニ必要ナル保險事業ノ始メニ當リテハ特ニ政府カ損害ヲ保証スル責ニ任シタル例カ吾國ニ於テハ東京海上保險会社ニ於テ之ヲ見タルカ此ノ事ハ森林、牧畜農業等ノ保險ヲ今更ニ考カスルカ為ニ考慮スルキ点ト思フ、尚此度ノ戰爭中ニ通商航海ヲ保護シ内地ノ産業ヲ發展セシメルカ為ニ戰時ノ海上保險ヲ政府自ラ行ヘル如キハ尤モ適當ナル施設ナリト考フ。

各國ノ例ヲ見ルト國家又ハ地方自治体ニ保險事業ヲ管メルモノ少ナカラス、之ヲ行フ理由ハ種々アリ例ヘハ國庫ニ收入ヲ得ルカ為ニ財政的の事業特ニ財政的の独占事業トシテ行ハレル物ノ例トシテハ *Italy* ノ國營生命保險ヲ奉クル事ヲ得、又民間ノ保險会社 *Trust* 的勢力ヲ抑制スル目的ヲ以テ之ト競争的ニ政府事業ヲ管メル例トシテハ、*New Zealand* ノ火災保險ヲ奉クルヲ得、又産業ノ發達ヲ助長スルカ為ニ必要テハアルカ私的企業トシテハ經營ノ困難ナルモノヲ政府自ラ行ヘル例トシテハ独乙地方公立火災保險ハ各地方ノ行ヘルモノ、各國ノ戰時海上保險等ヲ奉クルヲ得、社会政策ノ目的ヲ以テ多数ノ

國民ニ可及的廉價ニ且可及的基礎ノ鞏固ナ保險ヲ供給スル目的ヲ以テ
ラ公營事業トシテ行ハルモ、例ハ各種ノ社会保險ニ付テ頗ル多シ、
此ノ他ニ近來ニ至リテハ社会主義ノ思想カラ、保險、銀行其他種々
ナル事業ヲ社会化 (socialize) 又ハ國有 (nationalize) スル
事ヲ主張スル議論カ一部ニ行ハレテルガ今尚實現セラレルニ至ラス。

第十三章 保險ノ弊害 (害惡)

保險ハ被保險者ヲシテ保險ノ目的物ニ對スル注意ヲ怠ラシメ却テ
災害ノ發生ヲ増加セシメル怖レモアル、例ハ火災保險ノ契約アル
人カ警火ノ注意ヲナオザリニシタリ或ハ火災ノ時ニ財産ヲ運ヒ出ス
事ヲ怠ルカ如キハ其例ナリ、又保險ハ色々ノ犯罪ヲ誘フ事アリ、例
ハ病人カ代人ヲ身体検査ニ利用シテ生命保險ヲ契約スルカ如キ或
ハ疾病保險ニ付テ假病ヲヨソオウガ如キ之ナリ、甚シキニ至リテハ

保險金ヲ得ルカ爲ニ放火シタリ或ハ人命ヲ傷ケルカ如キ事ナリ、モ起
ルナリ、

凡ソ保險契約ヲナスニハ危險率ヲ測定スルヲ要ス、此ノ *risk* ト
云フカニハ自然的ノ原因ニ出スルモノト人意的原因ニ出スルモノト
アリ、前者ヲ有形的又ハ自然的、客觀的又ハ實體的 *risk* ト称ス、
后者ヲ無形的、道德的、主觀的又ハ人意的 *risk* ト称ス、今此處ニ
保險ノ害惡トシテ述ヘタ事項ハ人意的 *risk*ニ屬スルモノナリ、之
ハ事故ノ發生日ニ付キ千係ヲ有スル事ナレハ契約ノ場合ハ其相手方
ノ人物品性ニ注意スルコトヲ要ス、

(註) *moral risks*ノ範圍ハ明カニ說明シテ人ナシ、カノ及テ
選擇ヲ此ノ中ニ含マシメルヤ否ヤ犯罪ニ至ラサル程度ノ怠慢丈ケテ
指スノテアルカ或ハ保險犯罪ヲモ之ノ中ニ含マシメルカ明カナラス
凡ソ事故ノ發生カ主トシテ自然力ニ依ルモノ例ハ農業保險ノ如キモ
ノニ付テハ比較的ニ二種ノ *moral risks*ヲ區別スルコトハ容易ナレ共及之
信用保險即チ使用人ノ不正行為ニヨル雇主人損害ヲ填補スル保險ノ

如キハ其 *vicar* 即チ事故ハ専ラ人意ニヨリテ生スルモノニシテ實體的 *risk* トモフモノヲ殆ト認メ得サルナリ、又例ハ海上保険ノ契約ニ於テ船長ノ技量、品性等ヲ考慮スルコトヲ必要ナルカ之ヲ *maritime risk* トシテ説明スヘキヤ否ヤニ付テハ之ヲ明カニ論シテ人ハ少ナシ、要スルニ *moral risk* ノ問題ハ保險事業ノ経営ニ注意スヘキモノナルコトハ明ナルガ其範圍ヲ決定スルコトハ困難ナルモノ、如レ。

保險者ハ人意 *vicar* = 備ヘル為ニ色々ノ注意ヲナレテ、例ハ、ハ身体検査ヲ嚴重ニ行フカ如ク又特ニ千保ノ深イ他ノ、*vicar* 機關ト聯絡ヲトルコトモアル、例ハ、失業保險ニ付テ職業紹介所ヲ利用シ疾病保險ニ付テハ超過保險ヲサケルコトニ努メルカ如ク又可及的一部保險ハ商法三九一条ノ方法ヲ用ヒテ被保險者ニモ事故ノ發生ニ付テ利害干保ヲ共同ニ有セシメルカ如キ方法トモアル、例ハ、農業保險ニ於テ保險金額ハ常ニ被保險物ノ實價即チ保險價額ハ〇%ニ限ル事トナシ、〇%大ケハ被保險者自身ノ負担トナスガ如ク、又生命

保險ニ付テハ過大ナル保險金ノ契約ヲ避ケルコトモ必要ナリ、

人意的保險ニ対シテ法律ハ之ヲ防ク為ニ色々ノ規定ヲシテ、
(一)、私法上ノ千保ニ付テ云ヘハ民法九十条ハ公序良俗ニ反スル事柄ヲ目的トスル契約ヲ無効トシ民法九六条ニ詐偽ニヨル契約ヲ取り消シ得ベキモノトシテ、此ノ外ニ商法三八五条ハ損害保險ニ付テ被保險利益ナキ契約ヲ禁止シ四二八条ニハ他人ノ死亡ニヨリテ保險金ヲ支拂フ可キ生命保險契約ニハ其者ノ同意ヲ要スルトナシ、三六六條ニハ損害保險ニ付テ超過保險ノ超過部分ヲ無効トナシ三九九条ノ二及七四二九条ニハ凡テ保險契約ヲ最善意ノ契約トナシテ被保險者ニ告知義務ヲ負ハレテ四二一条ニハ一定ノ場合ニ保險者ヲシテ解約スルコトヲ許シ四三一条ニハ一定ノ場合ニ保險金ヲ支拂ハヌモノト定ムル等色々ノ規定ヲ設ケテ *moral risk* ヲ防クニ努メテ、
英米ニ於テハ幼兒ノ生命保險ハ嬰兒殺ヲ誘フ怖レアリト考ヘテ年齢又ハ金額ニ制限ヲ加ヘテ、例ハ、何才以下ノモノカ保險ヲ禁止レ又何才以下ノモノニハ保險金額ノ限度ヲ定ムルカ如キ之ナリ、

(二)、刑法上ノ干保ヲ見ルト詐欺殺人、放火等ノ如キ犯罪行為ヲ罰スルハ勿論ナルガ特ニ刑法、中一一五條ニ於テ自分ノ所有物ト至モ保險ニ附シタルモノヲ燒キタル時ハ他人ノモノヲ燒キタル時ト同一ニ取扱フテ特ニ刑罰ヲ重クシテナル。

ハX

第十四章

私營保險業ノ監督

凡ソ四〇年前ニ保險会社カ吾國ニ初メテ設ケラレタ時ニハ何等ノ監督規定モ有セズ自由放任政策カトラレタシ、其後次第ニ明治政府ノ法政カ備ハルニツレテ經濟的活動ノ中テモ公益ト干保深キモノニ對シテハ色々ノ監督法規ヲ設ケルコトニナリ從テ保險ノ監督法規モ明治三十三年以來之ヲ設ケラレタルナリ、即チ三十三年ノ法律六九号ヲ以テ保險業法カ制定セラレ續イテ今年農商務省令一五号ヲ以テ保險業法施行規則カ定メラレ之ニヨリテ保險会社ハ實行的ニ政府ノ

監督ニ服シ從來ノ弊害ヲ一掃シテヨリ次第ニ着實ニ發達シ得ルコト、ナレリ、業法ハ四五年法律一八号ヲ以テ改正セラレ從ツテ其施行規則モ大正元年省令二九号ヲ以テ改正セラレタルナリ、(現行法)其大要ヲ述ブレハ、凡テノ保險事業ハ政府ノ免許ヲ受ケネハ營ミ得サルコトニナツテル而レテ会社ノ發起人カ免許ヲ申請スルニハ一定ノ書類ヲ提出スルヲ要ス監督官廳ハ其目録見書ノ内容ヲ調べ且經濟界ノ實情ニ照シテ營業ヲ許可スヘキヤ否ヤヲ決定スルナリ、免許ナクシテ營業スルモノハ罰金ニ処セラレル、次ニ保險事業ノ主体ハ株式會社ト相互會社トニ限ルコトハ前述ノ如シ、次ニ株式會社ノ資本金ハ十萬圓以上相互會社ノ基金モ同レク十萬圓以上ナルヲ要ス、但農商務省テハ別ニ内規ヲ設ケテ其制限ヲ遙カニ高メ以テ会社ノ基礎ヲ鞏固ニスルニ努メテル、次ニ保險会社ハ他ノ事業ヲ兼ネルヲ得スト定メテル、之ハ怖ラク他ノ事業ヲ營メル会社カ保險事業ヲ兼ネルコトヲモ得サルモノト考フ、此ノ點ニ于レテハ色々ノ問題ヲ研究スルヲ要ス、先ヅ、

ハX

(7) 保険会社ハ其資産ヲ適當ニ投資スルカ必要ナリ、其投資ノ方
 法ハ株券・公債・社債・土地家屋ノ買入、貸付々、割引キ其他色々
 場合カアル筈ナリ、而シテ保險業法施行規則一六條ニモ貸付々不
 動産ノ取得、其他ノ事ノ財産利用ノ方法トシテ許シアル、然ルニ或
 時東京市ノ一稅務署長カ一保險会社ニ對シテ其会社カ保險事業ノ外
 ニ金錢貸付業ヲ兼営セルモノト認定セラ相方ノ事業ニ營業稅ヲ課シ
 シ事アリ、此ノ事ハモシ稅務署長、如キ見解シトレハ業法ノ兼業禁
 止ニ違反スルコトナリ、法律違反ノ營業ヲ稅務署カ公認スル如キハ
 抑、不當ナリ、況ンヤ保險会社ハ其財産ヲ適當ニ投資スヘキ事ハ事
 業ノ性質上当然ナルノミナラス、凡テ法律ニヨリテ許サレレ行爲
 ナルカ故ニ之ハ保險事業ノ内容ノ一部ヲナスモノナリ、從テ獨立ノ
 營業ト見ルヘキテナク、從テ彼ノ稅務署長カ程ナク、課稅ノ通知ヲ取
 消シシリ、之ト稍、似ト未事ハ保險会社カ財産利用ノ一方法トシ
 テ取得シタル不動産ヲ貸付ケルコトヲ營業トシ即債務事務所業ヲ營
 得ルヤ否ヤニツキ曾テ世間ノ問題トナレルコトアリ、之ハ遂ニ財産

ハハ

利用ノ一方法トシテ 黙認セラレ 独立ノ 一事業トハ認メラレテオラス
 其他ニ保險会社カ其保險事業ト密接ノ干係カアリ殊ニ其保險事業ニ
 對シテ有益ナル補助機關トナルベキ事業ヲ營ハ其質的ニ見
 レハ有益テアリ且許可セラレテ差支ナキ事ト思フカ業法ノ明文上カ
 ラ之ヲ否定シナケレハ例ハ生命保險会社カ病院ヲ經營シ火災保險
 会社カ住宅会社ヲ經營シ海上保險会社カ船舶検査ヲ行フカ如キ事ハ
 例ヲ禁止セラレル事ト思フ
 次ニ一ツノ保險会社カ生命保險ト損害保險トヲ兼営スルコトヲ禁
 止シテ、但レ生命保險会社カ生命保險ノ再保險ヲナス事文ケハ許
 サレテ、其理由ハ再保險ナルモノハ法律上ノ性質トシテハ損害保
 險ニ属スルモノテアルカ生命保險ノ再保險ニ下リテハ其技術上及ヒ
 經濟上ノ干係ニ於テハ生命保險ト異ルコトナキカ故ニ此ノ例外ガア
 ルナリ、尚之等ノ事ニ干レテハ前ニ保險事業ノ種類ニツキ述バレル
 所ヲ見ヨ、次ニ財産利用ノ方法ニ干シテハ施行規則一〇條ニ詳細ナ
 ル制限カ定メラレテ、之ハ *Properly* 合致主義ニ基ツキ安全ニ投資セ
 ハル

レメル為ニ定メラレタモノテ一方面ニシテ偏シテ投資ヲ禁止スルナ
リ、

外國ノ保險会社ニ于テハ特別ナル監督法アリ、抑モ外國人カ吾
國ニテ保險業ヲ初メシ年代ハ明ナラサレ共初メハ所謂開港場ニ於テ
主トシテ外國人ヲ相手トシテ行ヒシモノニシテ其勢力モ少ナカリシ
カ明治三十一年ノ頃ヨリ外國会社ノ事業カ甚ク大キリナリシカハ吾
政府ハ内閣ノ保險事業ニ監督ヲ加フルトシテ即チ明治三十二年ニ
保險業法ノ制定セラル、ヤ公法一五九ニ基キテ今年勅令三八〇号
外國保險会社ニ于スル件ヲ制定シ其施行規則トシテ農商務省令一九
号外國保險会社ニ于スル件ヲ同時ニ制定シタルナリ、后大正元年ニ
勅令五七号省令三〇号ヲ以テ之ノ二者ヲ改正シ今日ニ及ヒリ、其監
督規定中最モ重要ナルハ供託金ニ于スルモノナリ、凡ソ外國会社が
突然其業ヲヤメテ本國ニ引上ゲルカ又ハ戰爭等ノ為ニ通商禁止トナ
ルカ如キ場合ニ被保險者カ大イニ不利益ヲ蒙ル怖アリ、又吾國テハ
外國会社ニ對シテハ供託金ヲ提出センメ被保險者ハ其上ニ優先權ヲ

有スルモノト定メテル、其金額ハ損害保險会社ニ對シテハ責任準備
金ノ殆ント全額、生命保險会社ニ對シテハ其六〇%ト定メテアル、
實ハ其金額ヲ供託セシメルコトカ合理的テアルカ如クニ見エルガ併
シ生命保險ニ付テハ保險証券担保貸付ノ方法カ広シ行ハレ其額カ相
當ニ多額ニ上リ殊ニ外國会社ハ好メテ之ヲ營メルニヨリ此ノ部分ヲ
控除スルモノト考ヘテ大割ト定メタルナリ、

第二部 各論

第一編 生命保險

第一章 生命保險ノ沿革

生命保險ヲ最初ニ行ハルモノハ各種ノ共濟的団体ナル事ハ前述ノ

如シ、Rome 時代、Collegia 中世ノ guild = 続キテ今日テモ
共済組合カ存在シテ相互救済ノ精神ヲ以テ生命保険ノ実質ヲ有スル
事務ヲ行ヘリ、次ニ生命保険ノ基源トシテ述ブヘキ事ハ冒險的保險
事業ナリ、古代ニ於テ海上保險ノ性質ヲ有スル事業カ貿易業者ト金
貸業者トノ間ニ行ハレテキ事ハ前述ノ如シ、之ハ勿論船舶及ヒ積
荷ニ対シテ行ヘルモノナルカ之ヲ延長シテ人ノ生命身体ニ対スル危
險ニ対シテモ行ハレル事ニナレルナリ、即チ遠國ノ貿易ニ行ク商人
及ヒ船員及ヒ聖地ヘ行ク巡礼十字軍ニ加ハレルモノ等ハ屢々捕虜ト
ナリ其故免ノ為ニ償ヒ金ヲ必要トシタルナリ、又貿易商及ヒ船員ハ
船ノ沈没又ハ海賊トノ鬭争等ノ為ニ生命ニ危險ヲ感シテシカラ自分
ノ生命ニ保險ヲ付シテ家族ノ生活ニ具ヘル必要ヲ感シタルナリ、之
等ノ事情ノ為ニ人ノ身体又ハ生命ノ上ニ保險ヲ付ケル事カ海上保險
ノ副業トシテ自然ニ發達シ来レルナリ、一四世紀ニ發布サレシ Statute
ノ海商法中ニハ生命保険ニ干スル規定カ存在シタル、勿論之等
ハ特殊ノ人が特殊ノ場合ニ利用シメモノニシテ一被ノ人カ恒ニ

之ヲ利用セルニ非ス、又償ヒ金ノ保險ハ実ハ一種ノ旅行危險ノ保險
ニシテ生命保険ニハアラス、又船員等ノ生命保険ハ生命保険ヲハア
ルカ特殊ノ場合ニ限ラレテアルコトナリ、併シニ者共ニ人ノ生命又
ハ身体ニ対スル危險ヲ經濟的價値ヲ以テ評價シ之ヲ保險スルコトヲ
營利的ニ行ヘルモノナレハ今日一被ニ營利的ニ行ハレル生命保険ノ
思想的淵源トナレル事ハ明ナリ、此ノ海商保險事業ハ始メハ專ラ個
人企業トシテ行ハレテキ事カ其副業トシテ行ハル、生命保険モ自
ラ個人企業ナリキ、今ニハ海上保險カ全ク分離シテ生命保険文ケ
ヲ營利事業トシテ行フモノヲ生レ今日普通ニ行ハル、合本(資本)
組織ノモノヲ生スルニ至レリ、
次ニ述フヘキモノハ賭博保險ナリ、上記ノ金貸業者ノ生命保険ハ
時代ヲ經ルニツレテ海上保險カラ分離スルニ至レルカ次第ニ之レカ
賭博的ノ目的ヲ以テ行ハレルモノニ墮落セリ、即チ自分ト何等ノ利
害干係ナキ人ノ生命ニ付テ保險ヲ契約シ、國王、高僧、貴族、將軍
等ノ生死ニ賭ケテ金銭ノ授受ヲナシ、次第ニ弊害ヲ生スルニ至リシ

レバ各國ハ法律ヲ生命保険ヲ禁止スルニ至レリ。即チ *Germany* (*Sta-*
g) テハ一五八八年賭博保險ヲ禁止シ政府ノ許可ナシテハ有名
ナル人ノ生命保険ヲ契約スルヲ禁シタリ、一五七〇年 *Spain* 王ノ
勅令ハ絶対ニ生命保険契約ヲ禁シタリ、*Antwerp* アラス
タルダム等モ続イテ之ニナラエルトナリ、之等ノ禁止ハ程ナクノゾカ
レタカ *France* ハ最も長ク之ノ禁止ヲ継続シ一六八一年ニハ改メテ
之ノ禁止法ヲ撤布レタルナリ、
次ニ生命年金ノ賣買モ生命保険ノ先驅ノ一ナリ、*Rome* 時代ニ
ハ忠実ナル從者ニ年金ヲ与ヘレ又ハ長男以外ノ家族ニ年金ヲ与ヘル
コトカ屢々行ハレテサメ、又 *Rome* ノ法律家 *Ulpian* ハ三六四
年ニ生命年金ノ價ヒテ計算スル為ニ生命表ヲ作レリ、之ハ其材料ノ
不充分ナルニモ拘ハラヌ甚ク正確ナモノナリシト稱セラル、併シ不
幸ニシテ此ノ生命表ハ *Rome* 帝國ノ滅亡ト共ニ消滅セル故ニ其後
行ハレタ生命年金又ハ生命保險ハ久シイ間學術上ノ根據ナキモノナ
リキ、併シ *Rome* 時代ニハ此ノ生命年金事業ハ盛ニ行ハレテキタ

其著例ハ第八世紀ノ頃ニ *Rome* ノ寺院ヲ行ハト *Montes Pietatis*
(= *Mountain of Piety*) 敬神講ナリ、之ハ資本家ニ一定ノ金額
ヲ出サセテ若干年(通例八年)ノ右ニ元利共ニ返還スルノテアルガ
出資ノ際ニ其受取人トシテ指定サレタ人ノ中デ凡テ死シテキル人
ニハ全ク返還セス、其代リ其時ノ生存者ニハ數倍ノ金額ヲ与ヘル方
法ナリ、寺院ハソレニヨリテ集メタ金ノ資本ヲ要スル貧民ニ貸レテ
高利貸ノ貪慾カラ貧民ヲ救ヘルナリ、資本家ハ之ノ方法ヲ利用シテ
子供ノ結婚資金ニ当テルモノ多カリキ、從テ之ハ右世ノ生命保險殊
ニ結婚資金保險ト見ルヲ得、尚此ノ方法ハ一五世紀ノ頃ニ寺院及
ヒ法皇廳カ財政困難ニ陥レル時ニ之ヲ公債募集ノ政策ニ利用シタ事
モアリ、凡ソ中世ニハ *Italy* ノ諸都市ヤ歐洲各地ニ於テ公債募集ノ
方法トシテ年金事業ヲ政府自ラ行フヲ財政上ニ之ヲ利用スルコトガ
多カリキ、殊ニ一七世紀ニ *Italy* 人ノ *Tontin* ナル人が *France* 政
府ノ為ニ立テテ計劃シ、有名ナルカ故ニ此ノ種ノモノヲ *Tontin* 法ト
云フ、此ノ方法ハ若干人カラ若干ノ金額ヲ出サセテ其利子ヲ毎年ノ

生存者丈々ニ分配レ若干年后ニハ元金ヲモ悉ク其時ノ生存者ニ分配
スルノテアルカラ長命者ハ多額ノ分配ヲ受ケルナリ、此ノ方法モ、
Malthus De Haer 一六八九年カシ一七七〇年ニ至ル迄行ハレ又他ノ國
々ニ於テモ公債政策トシテ採用サレタルナリ、何故ニ中世ニ於テ生
命年金事業カ行ハレ而シテ生命保険事業カ行ハレナカッタカト云ハ
ハ当時ハ社会ノ秩序モ定マラス競争モ辱々行ハレ衛生設備モ悪ク從
テ人ノ生命ハ甚ク不安ナモノナリキ、從テ死ニ際シテ金ヲ支拂フ
種類ノ保險事業ハ甚ク危険テ到底十分ニ發達スル見込ナカリシナリ、
及之生命年金ハ其經營者カ最初ニ一定ノ金額ヲ受取り之ヲ定期ニ一
部分ツ、拂ヒモドスモノナレハ此ノ如キ不安定ナ社会状態ノ下ニ於
テモ之ヲ行ヒ得タカラナリ、中世ニ行ハレタ生命年金事業ハモトヨ
リ学問上ノ基礎ノナイ不完全ナモノナリシカ政府ノ公債政策ニ利用
サレタ為ニ相當ニ發達レソレヨリ次第ニ人ノ生死ニ干スル統計的研
究モ行ハレタカラ之ヲ現代ノ科学的保險ヲ生スル先驅トナレルナリ、
抑、生命保険数学ノ研究ハ人口統計ノ研究ト干聯スルモノナリ。

九六

前述ノ *Revue Ulpian* ノ生命表ハ比較的正確テアツタカ、後ニコ
レカ減ヒテシマツテ、後ニ至リ和蘭ノ国会ハ公債政策トシテ生命年
金事業ヲ行ハント欲シ、一六七一年ニ大臣ニシテ且ツ数学家タル
poter de Wit (*Eng. John de Witt*) シテ生命年金ノ計業表ヲ作ラセ
タノテアル。此レハ比較的正確ナモノテアツタカ、ソノ時ノ政府ハ
コノ事業ヲ行ハナカッタカタトニコノ表モ行方不明ニナツテ了リカ
後一五〇年余ヲ経テ發見セラレテ大ニ賞讃ヲ博シテ事實カアル、然
ルニ十七世紀ノ頃ニハ或人ノ生死ニ関スル記録カ完全ニ行ハル
ルコトニナリコレヲ材料トシテ人命ノ長サヲ研究スル学者カ次第ニ
生シタ、例ハ *London* テハ既ニ一五九二年、始メテ *London*
Bills of Mortality カ公表セラレタカ、一六〇三年以後ハ引續
キコレカ業表セラレテ居ル、ソノ目的ハ当時 *London* テハシハン
ハ毒疫カ流行シタカラ之ニヨリ人心ヲ沈メヨリト欲シタモノテ死亡
者カアレハ之ヲ復員ニ届ケ出テシタ、役人ハ死亡者ノ数及ヒソノ原
因ヲ記シタモノヲ集メテ公表シ、コノ材料ニ対シテ学者ハ注意ヲ

九七

ニ Anypion Table of Mortality ヲ作り会社ハコレニ基イテ保

険料ヲ決定シタ、コレニ於テ生命保険ハ真ニ學術ニ基イテモ、ニ
ツタ、コレヨリ英國テハ次第ニソノ學術的ノ研究力進ミ保險事業モ
次第ニ發達シソノ影響ハ佛、独、米、ソノ他ノ國々ニ及ヒコレニ依テ
今日ノ如キ學術的ノ生命保険カ各國ニ盛ンニ行ハル、コトニナツテ
但シラレテソノ詳細ハ各國ニ於ケル特種ノ歴史的事實ナル故コ、ニハ
思ス、英國ニ於ケル生命保険業ハ次第ニ發達シ、1900ニ入ツテ初メ
三十年間ハ黃金時代ヲ現シタカーハ三六年ニ West Incheless
会社ハ無謀ノ経営方法ノタメニ甚タ弊害ヲ流シタカラ政府ハ四年
ニ株式会社法ヲ作ツテコレヲ取締ラントシタカソノ效果カ少ナカツ
タ、而シテ泡沫会社ハ純出シ四年一六七年ノ間ニ三三〇何ノ会社
カ破産又ハ合併スルニ至ツタ、殊ニ一九〇九年ニハ有名ナル Albert
会社ノ破産カアツタカラ遂ニ七〇年ニ生命保險会社法ヲ作ツテ生命
保險事業ニ限リ嚴重ノ監督ヲスルトナツタ、コレハ當時ノ自由主
義ノ英國ニ取ツテハ著シイ例外的ノ現象テアルカ此ノ法律ハ一九〇

九年改正サレテ保險会社法トナリスヘテノ保險事業ヲ監督スルヲニ
ナツタ、此ノ初年ニハ同様ノ立法カ欧米各國ニ一流行ノ如クニ
作ラレタノチアル、我カ保險業法モソノ一例テアル

少額所有者ノタメニスル小額ノ保險ヲ簡易生命保險又ハ小口生命
保險又ハ産業生命保險ト名ツケルカコレハ英國ニ於テ一八四九年ニ
Industrial and General Assurance Co. 行ツタノカ始メテ次
イテ British Industry Assurance Co. カ出来タカニ若ハ程ナ

ク解散シタ、五四年ニ Prudential 会社カ從來行ハレテキテ普
通保險ニ合セテソノ事業ヲ營ミ今日盛ンニ行ツテイル、彼ツテコノ
事業ノ世界申ノ元祖ト稱セラレテ耳、此ノ事業ハ今日テハ此ノ外
ニ若干ノ会社及ヒ多クノ共済組合ヲ行ツテ居ル、英國政府ハコレヲ
国营トスルタメニ六四年ニ法律ヲ制定シテコレヲ郵便局ヲ行フコト
ニシタ、コレヲ郵便局生命保險ト稱シ今日モ民業トナリナイテ行ハ
レテイル、而シテ官私ノ保險共ニ改米諸國ニソノ影響ヲ及ボシ各國
テ盛ンニコレカ行ハレテイル、1900ノ後半ニ至リ社会政策ノ一端

此と遂ニ死亡者ヲ計算スルニ至ツタ、先ツ一六六二年ニハ *his Will*
Liam Pitly 及 *Political arithmetics* ト云フ著者シ始メ *London*
London ノ住民ノ死亡率ヲ論シタ次ニ *John Graunt* カ一六六四年ニ
 書ク著シテ人ノ壽命ニツイテノ價值ヲ計算スルコトヲ試シタ、又被乙
 人ノ *Kosmas Kemmann* カ一六八七年乃至九一年ニ至ル間ノ *Br-*
velan ノ町ノ死亡統計ヲ作ツタカコノ材料ヲ英人ノ *Dr. Halley*
 カ整理シテ一六九三年ニ一死亡表ヲ作り且ツコレニ基イテ年々計
 算スル公式ヲ明ニシタ、コレカ最初ノ死亡表テアツテ生命保険ノ学
 術的基礎ハコニ初メテ築カレタ、又一七四二年ニ *Simpon* ト
 云フ数学家カ *Theory of Probability* (確率論) 及生命年金ノ計算ニ
 応用シテ保険数学 (actuarial science) ニ一進歩ヲサシメタ、
 コレ等ノ事情ノタメニ従来ハタ、推測ヲ行ハレタイタ生命保険ヲ学
 問上ノ基礎ノ上ニ置クコトヲ可能ナラシメタ、サレトモ實際ニハ尚ホ
 或ハ推測ニヨリ或ハ全ク賭博的ニ保険ヲ行ツテ居タ
 近代ノ企業トシテ行ハレタル最初ノ生命保険会社ハ一六九八年

= *London* ニ設ケラレタ *The Mercers Company* 等
 年ニ *The Society for the Assurance of Widows of Orphans*
 カ創ラレタ、後者ノ方法ハ會員ヲ二〇〇〇人トシソノ保険料及ヒ保
 險金ハ全ク同一ニスルコトアル、次ニ一七〇六年ニ *London* ニ
The Quakers Society カシクラレタ、コレハ純然ソル相
 互保険ノ会社デアツタ、此ノ時代ニ作ラレタル会社カ甚ク多ク、サ
 レトモクハ何等ノ學術的知識ヲ利用シテイナカツタ、スヘテノ会社
 ハ年齢ニカ、ハラス同シ保険料ヲ課シタ、ソノ大部分ハ本組織ノ
 モノデアツタカ一七二〇年ニソノ絶頂ニ達シタル後概然即チ *South*
Sea Bubble ノ時代ニ於テ大敗ニ歸シタ、故リ *The Quakers*
As Society タイカコノ難関ヲ切抜ケタ、ソノ翌年一七二一年ニハ
The Royal Exchange Company 及 *The London Assurance Co* ノニツカ設
 ケラレタ、此ノニツハ今日存在シテイル世界中ヲ最モ古イモノデア
 後ニ至リ一七六二年ニ *London* ニ *The Equitable Society* カ設ケ
 ラレタカ数学家ノ *Price* カ七一年ニ此ノ会社ノタメニ *The North*

ニ *Campton Table of Mortality* を作り会社ハコレニ基イテ保
 険料ヲ決定シタ、コ、ニ於テ生命保険ハ真ニ學術ニ基イタモノニナ
 ヲタ、コレヨリ英國テハ次第ニソノ學術的ノ研究力進ミ保險事業モ
 次第ニ發達シソノ影響ハ佛、独、米、ソノ他ノ國々ニ及ヒコレニ依テ
 今日ノ如キ學術的ノ生命保険力各國ニ盛ンニ行ハル、コトニナツテ
 但シテラノ詳細ハ各國ニ於ケル特種ノ歴史的事實ナル故コ、ニハ
 思ス、英國ニ於ケル生命保険業ハ次第ニ發達シ、*19 C.*ニ入ツテ初メ
 三十年間ハ黄金時代ヲ現シタカ、一八三六年ニ *West Middlesex*
 会社ハ無謀ノ経営方法ノタメニ甚タ弊害ヲ流シタカラ政府ハ四四年
 ニ株式会社ヲ作ツテコレヲ取締ラントシタカソノ效果カ少ナカツ
 タ、而シテ泡沫会社ハ宛出シ四四年一六七年ノ間ニ三三〇社ノ会社
 カ破産又ハ合併スルニ至ツタ、殊ニ一八九年ニハ有名ナル *Albert*
 会社ノ破産カアツタカラ遂ニ七〇年ニ生命保険会社法ヲ作ツテ生命
 保險事業ニ限リ嚴重ノ監督ヲスルイトナツテ、コレハ當時ノ自由主
 義ノ英國ニ取ツテハ著シイ例外的ノ現象テアルカ此ノ法律ハ一八九〇

九年改正サレテ保險会社法トナリスヘテノ保險事業ヲ監督スルヲニ
 ナツタ、*1900*ノ初年ニハ同様ノ立法カ欧米各國ニ一流行ノ如クニ
 作ラレタノチアル、我カ保險業法モノ一例テアル
 少額所有者ノタメニスル小額ノ保險ヲ簡易生命保險又ハ小口生命
 保險又ハ産業生命保險ト名ツケルカコレハ英國ニ於テ一八四九年ニ
Industrial and General Assurance Co 行ツタノカ始メテ次
 イニ *British Indusitry Assurance Co* カ出来タカニ若ハ程ナ
 ク鮮敏シタ、五四年ニ *Prudential* 会社カ従来行ハレテキテ普
 通保險ニ合セテコノ事業ヲ営ミ今日盛ンニ行ツテイル、従ツテコノ
 事業ノ世界中ノ元祖ト稱セラレテイル、此ノ事業ハ今日テハ此ノ外
 ニ若干ノ会社及ヒ多クノ共済組合ヲ行ツテ居ル、英國政府ハコレヲ
 国营トスルタメニ六四年ニ法律ヲ制定シテコレヲ郵便局ヲ行フコト
 ニシタ、コレヲ郵便局生命保險ト稱シ今日モ民業トナラナイテ行ハ
 レテイル、而シテ官私ノ保險共ニ改米諸國ニソノ影響ヲ及ホシ各國
 テ盛ンニコレカ行ハレテイル、*19 C.*ノ後半ニ至リ社会政策ノ一端

トシテ色々ノ人事保險ヲ労働階級ノモノニ強制スルヤカ独乙ニ始ツ
 テ次第ニ他國モコレニ倣ツタ、今茲ニ生命保險ニ因スルモノヲケテ
 云フト被乙テハ一八八九年ニ老廢保險ヲ實施シ一九〇一年ニ至リコ
 レニ遺族保險乃チ死亡保險ヲモ併加シタ、此ノ種英ノモノハ佛、伊
 粵、Spain、Sweden、チエツコ、スロバキア、ソノ他若干ノ國ニ行
 ハレテイル、此外ニ老廢保險ヲ任意保險トシテ國營トシテイルモノ
 ハ一八五〇年ノ佛ヲ始メトシテ Italy、Spain、Belgium、ソノ他數
 ヲ國ニ存在スル、又高級ノ使用人ノタメニ恩給保險又ハ職員保險ト
 稱シテ老廢遺族保險ヲ強制シテイルモノニハ一八〇六年ノ澳大利ヲ
 始メトシテ、後 Czechoslovakia、カアル、此外ニ保險チハナイケ
 レトモ老廢者無償ニ養老年金ヲチヘル制度ハ一八九一年年 Denmark
 也、ヲ始メトシ佛、英、英領殖民地ソノ他若干ノ國テアル、我國
 ニ於テモ相互扶助並ニ共同貯蓄ノ思想即チ保險思想ト稱スヘキモノ
 ハ昔カラ色々ノ場合ニ現ハレテイルケレトモ人ノ生死ニ關シテ保險
 スルヲハ余リ慕違ンテイナカツタ、明治ニ至ツテ西洋文明ノ輸入ト

共ニ學術的ニ生命保險カ始メテ我國ニ輸入サレタ、即チ明治一四年
 創立ノ明治生命保險会社ハ英國十七会社表ヲ採用シテ營業シタカ次
 ニ二一年ニ英國生命カ設ケラレ同シ表ヲ採用シタ、翌ニ二年ニ大阪
 ニ日本生命カ設ケラレ藤沢表ト云フ我國ノ國民表ヲ採用シタ、此ノ
 三者ハ創立モ古ク事業モ堅實ニ且ツ最大タカラ裕ニコレヲ三会社ト
 云フ、コレヨリ次第ニ此ノ事業ハ繁達シタカ明治二十六年ヨリ三二
 年ニ至ル間ニ生命保險事業ニ對スル無理解ト曰者戰後ノ好景氣ト相
 俟ツテ四〇程ノ会社カ設ケラレタカソノ中一々ヲ除ク外ハ解散又ハ
 合併スルニ至ツタ、殊ニ地方ニ於テハ類似保險カ流行シテ數百ノモ
 ノカ悉ク起リ忽チ滅シテ世ニ害毒ヲ流シタ、カクノ如キ事情テアツ
 タカラ明治三一年ニハ農商務省令第五号ヲ以テ初メテ保險業法カ制
 定セラレテ保險業ハ嚴重ニ監督ノモノトニ立チ、コレ以來舊業ニ事業
 ヲ営ムモノニナツタ、從來行ハレテイタモノハ何レモ合本組織ノモ
 ノテアツタカ矢野恒太氏カ相互保險ノ必要ヲ唱ヘ明治二六年ニ非射
 利主義生命保險会社ノ設立ヲ望ムト云フ小冊子ヲ著シタカ未タ時期

一〇四
乃至ラナカツタ。然レニ三三年ノ保險業法ハ遂ニ保險業ニツイテ相
互会社ヲ認ムルニ至ツタカラ同氏ハ三五年ニ第一生命保險相互会社
ヲ設立シタ。コノ種ノモノハ今日教種(約七ツ)ニ及ブ。共済組合
ノ如キモノニツイテハソノ起源カ明テナイ。一三年ニ設立サレタ共
済五百名社ハ組合員五〇〇人ノ相互組合テアツテ此ノ種英ノモノハ
最初ノモノト思フ。但シ此ノ組合ハ二七年ニ設ケラレタ共済生命保
險会社ニ其事業ヲ引ツイゾ。後ニイタツテハ官業及ヒ民業ニ多クノ
共済組合カ出来テ労働者ノ幸福増進ノタメニカタツクシテイル。又
官吏ノ恩給、会社ノ恩給ノ如キモノハ割合ニ古クカラ設ケラレテイ
ルカソノ性質ハ生命保險ニ近イモノト見ル。カ出来ル。此ノ外ニ簡
易生命保險ハ大正五年カラ政府ノ独占事業トシテ郵便局ヲ行ツテイ
ル。

大正十年三月末ノ調査ニヨレハ内国ノ生命保險会社ハ四二アツテ
中株式会社カ三五、相互会社カセツアル。コレ等ノ会社中テ生命保
險ニ近イ事業ヲ兼ネテイルモノハ年金保險一社、徴兵保險ニ社テア
ル。又外国会社ハ四ツアツテ中三ツハ英國会社、一ツハ米國ノ会社テ
アル。英國会社ヲ細別スルト Canada ノ会社カニツ。上海ノ会社
カーツテアル。

第二章 生命表 Life (or mortality) Table

生命保險ト云フ事業ニハ三ツノ意味カアル。狭義ニ於テハ死亡ノ
場合タケヲ指ス。第二ノ意義ハ死亡及ヒ生存ノ場合ノ保險ヲ指ス。
狭カ商法四二七条ハコノ定義ヲ採用シテイル。最モ広義ニ於テハ人
事保險ノ意味ニ之ヲ用ヒ、單ニ生存又ハ死亡ノミナラス疾病、傷害
療疾、徴兵ソノ他色々ノ人事ニ関スル事故ヲモ併セテ保險スル。要
スルニ何レノ場合ニ於テモ人ノ生死カソノ中心問題テアルカラ生命
保險ノ學術的研究ニハ人ノ生命ニ関シテ先ツ研究スルヲ要スル。人
ノ生死ノ狀況ヲ統計的ニ研究シタル結果ハ生命表又ハ死亡表、又ハ

死亡生存表等ノ名称ヲ以テ察表セラレル。コノ生命表ハ保險料ノ計
算責任準備金ノ計算其他生命保險事業ノ經營上多クノ場合ニ必要ナ
基礎材料ナリ

國民全体又ハ一地方ノ住民ヲ材料ニシテ生命表ヲ作成スルニハ年
齡別ノ人口調査及ヒ年齡別ノ死亡調査ヲ材料トシテ次ノ如キ方法ヲ
依ラレル。例ヘハ、

年齢	現在人口	死亡者数	死亡率
0	664,315	96,533	0.14531
1	638,514	39,087	0.66122
2	614,396	18,558	0.03011

ノ材料ニ基イテ人口数ヲ以テ死亡者数ヲ除スレハ各年齢ニ於ケル死亡
率カ得ラレル。コレニ依リテ材料表ハ完成スル。而シテ今コレヲ整
理スルヲモシ、オオニ於ケル人口数ヲ一定ノ *Normal Number* 例
ヘハ一〇万人ト仮定シ、コレニソノ年齢ニ於ケル死亡率ヲ乗シ、
コレヲソノ年齢ニ於ケル死亡者トナシ最初ノ生存者ノ数カラコレヲ

引ヒリ残リ次ノ年齢ノ生存者ト考ヘ、次第ニ同一ノ方法ヲ続行スレ
ハ遂ニ左ノ如キ稍々整頓セラレタル粗製表又ハ未整表ヲ得ル

年齢	生存者数	死亡者数	死亡率
0	100,000	14,531	0.14531
1	85,469	5,232	0.06122
2	80,237	2,416	0.03011

100,000 - 14,531 = 85,469
85,469 - 5,232 = 80,237

然レニカクノ如クニシテ得テ結果ハソノ材料カ不完全ナルカソノ
他色々ノ理由ニ基イテ各國ノ年齢毎ニ死亡率ノ上ニ甚シイ差異ヲ示
シ凹凸ノ多イ不規則ナ線ヲ表スカラ、コレヲ補整 *Provision* シ
原数カラ遠サカラナイ範圍ニ於テ凹凸ヲ平ニシ極メテ滑ナル曲線ヲ
作ル必要ナル。コレニ依テ死亡表ハ完成スルノテアル、コレヲ補
整表又ハ修整表ト云フ、今ソノ結果ノ一例ヲ示セハ次ノ如シ、

年齢	死亡率 (粗整表)	死亡率 (補整表)
30	0.0082	0.00801
31	0.0078	0.00815
32	0.0087	0.00836
33	0.0086	0.00860
34	0.0095	0.00882
35	0.0098	0.00918
36	0.0095	0.00948



但シ實際ニ於テ粗整表ヲ作ラスンテ材料表カラ直チニソノ死亡率ニ補整ヲ如ヘテ直チニ補整表ヲ作ルノテアル。粗整表ヲ作ルノハ補整表ヲ作ラナイ場合ヲケテアル。補整表ヲ作ル場合ニハ粗整表ハソノ必要カトイカラテアル。

上ニ述ヘタ国民全体又ハ一地方ノ住民ヲ材料トシタモノ即チ国民表ヲ作ル方アル。コレニ反シテモシモ被保険者ヲ材料トスルモノ即チ経験表ヲ作ルタメニハ被保険者ノ数ヲ生存者ト看做シテ同シ方法ヲトレハヨイ。

生命表ニハ色々ノ種類カアル。国民表ト経験表ノ一ハ上ニ述ヘタ。此ノ外ニ注意スヘキモノハ保険期間ノ経過ニヨル區別ニ依ツテ経験表ヲ細別シ選取表 (Select Table) ト給合表 (Aggregate Table) ニ分テ更ニ後者ヲ全給合表 (Full Aggregate Table) ト及ヒ截断表 (Truncated Table) ニ分ケル。凡ソ被保険者ハ身体検査ヲ受ケル結果トシテ保険契約ノ初ノ頃ニハ悉ク健康者テアリ。従ツテソノ死亡率カ低イノヲ常トス。然ルニ身体検査ノ效力ハ永久ニ有效ナモノヲハ

ナクテ四年又ハ五年ヲ以テ消滅スルコトカ立証セラレテ居ル、選取
 表ハコノ理由ニ基イテ作ラレタモノデアツテ、保険契約締結後ニ經
 過シタル年數別ニ算シテ死亡率ヲ計算シタモノデアアル、コレニ反ソ
 テカクノ如キ區別ヲササシテ被保険者ヲ全体トシテ計算シテ
 7 給合表ト云フ、選取表ハ五年又ハ十年間ニワリツテソノ死亡率ヲ
 計算セラレル、カクノ如キ期間ヲ経過シタル後ノ被保険者ニツイテ
 作ラレタル給合表ヲ截断表ト云ヒ、ソノ期間ニ從ツテ五年截断表又
 ハ一年截断表等ト稱セラレル、而シテ全給合表トハカセウ十年限
 ノ制限ナク初カラ被保険者全体ニツイテ作ラレタモノデアアル。

年齢	0	1	2	3	4	5以上
20						0.00911
21					0.00964	
22			100692			
23						
24		100101				
25	100446					

(Xヨリハ選取表ナリ Xヨリハハ五年截断表ナリ)

生命表ノ記載事項ハ年齢、生込數、死亡數、死亡率、生存率等テ
 アル、此ノ生存率ハ一ヨラ死亡率ヲ減シタモノデアアル、此ノ外ニ尚
 ニ三ノ率カ記サレテアル、逆生者ト云クハ年末ニ於テ一人ノ生
 存者カ年毎々メニハ算始ニ於テ或人ノ生存者ヲ必要トスルカキ承
 取ヲ下ツテ即チ生存率ニ逆數キアル、即チ生存率ヲ以テキテ除キテ
 ルモノデアアル、例ハハ

生込數	100000	生存者數	100000
30	99213	死亡數	787
50	69288	死亡率	$\frac{787}{100000} = 0.00787$
		生存率	$\frac{99213}{100000} = 0.99213$
30	99213	死亡率	$\frac{787}{99213} = 0.00793$
50	69288	死亡率	$\frac{787}{69288} = 0.01136$

次ニ逆死亡率ト云フノハ一年間ニ或人ノ生存者ノ中カラ一人ノ死
 亡者ヲ出スハキカラヌモノデアツテ、死亡率ノ逆數即チ死亡率ヲ
 以テ一ヲ割ッタモノデアアル。

次ニ死力 (Force of mortality) カ起サレテイル₁カアル、凡ソ死亡率ハ一年内ノ死亡数ヲ年始ニ於ケル生存者ノ数テ除シテ商テアル、

サレヒ人ノ死亡率ハ詳シク云ハハ一年ヲ通シテ同一ノモノテハナイ、例ヘハニ〇才ノ死亡率カ 0.00830 テアツテニ一才ハ 0.00860 テアルトスレハ年ノ新タマルト共ニ 然ニ死亡率カカクノ如ク変化スルモノテハナイ、死亡率ハカクノ如ク一年ヲ單位トシテ改措ヲナスヘキモノテハナクシテ時々刻々変化シコレヲ圖ニ描ケハ一ノ滑力ナ曲線トナルヘキ性質ノモノテアル、故ニ微分算ニヨリ各満才ノ時ノ瞬間ニ於ケル死亡ノ傾向ヲ計算シタル数ヲソノ年齢ニ於ケル死力ト云フ、

次ニ生命表ニハ平均命数 e_x 平均壽命 *Expectation of life* ヲ掲ケテイル₁カアル、凡ソ何別觀察ニ依ツテハ人ノ壽命ヲ論スル₁ハ出来ナイカ大數觀察ニ依テ同年齡ノモノヲ団体トシテ觀察シテソノ平均ノ壽命ヲ論スルカ₁カ出来ル、例ヘハ同年齡ノ多數ノ人カラナ

ル一団体を₁リトセハソノ団体ノ全員ハ平均シテ今後尚何年生存シウ₁ルモノト余期セラレウ₁ルカ₁ヲ計算スル₁ハ出来ル、

例ヘハ茲ニ三〇才ノ人ハ万六三七七人ノ中カラ一年ノ中ニ六二〇人死₁ンテ三一才ニ達スルモノハ八五七五七アリソノ中又 六一七人カラ一年間ニ死₁ンテ三二才ニ達スルモノカ八五一四六ナリトスレハ最初ノ一年ニ於テ八五七五七人カ一年間生存シタイ₁タモノデア₁ルカラ、コレヲ延年數ヲ考ヘレハ八五七五七年生存シタ₁ニ当₁ル、同様ニ次ノ一年ニハ生存者ノ延年數ハ八五一四〇年トナル、今生存者ノ數ヲ₁テ表シ年齢ヲ₁テ表ハスナラハ₁ハ₁即チ₁ニ於ケル生存者ノ數₁人カ₁ニ於テ死₁ンテシマ₁フ延年數ヲ合計スレハ

$$e_x = \frac{lx_1 + lx_2 + lx_3 + \dots + lx_m}{lx_1}$$

然ルニ此ノ方法ニ於テハ単ニ毎年末ノ生存者ノミニツイテ計算シテ
 モノテアルカラ、ソノ年ノ中程ニ於ケル死亡者ハ悉ク年ノ始ニ死
 タモノト看做シテイル。例ハハ人カ Ex_{x-1} 人ニ減スルニハ減力
 者ハ恰モ Ex_{x-1} 初ニ於テ一時ニ死ンタモノト考ヘテノ計算テアルカ
 實際ニ死スルノハカマウニ一時ニ起ルノテハナクシテ一年ヲ通シテ
 純ニス生スルカラ死亡者ハ平均シテ年ノ半ハニ死ヌモノト考フル
 ヲウル。故ニ上掲ノ計算ニ外ヲ加ル即チ $Ex_{x-1} + Ex_{x-1}$ スルヲカ更ニ適
 当テアル。前ノモノ即チ Ex_{x-1} 不完全平均命数 *curtate expectat-*
ion of life ト云ヒ後者即チ Ex_{x-1} 完全平均命数 *Complete expe-*
ctation of life ト云フ。單ニ平均命数ト云ハハ後者ヲ指ス。コノ
 数字ハ色々ノ生命表ヲ比較スルヲメニ用ヒラレル。一例ヲアケレハ
 内閣統計局第二表ニ依レハ

年齢	男	女
20	40.35	41.06
25	37.02	39.02

30 33.44 34.84
 35 29.73 31.54

(今20才ノ男中ハ尚40.35年生キノベルトノ數)

以上カ生命表ノ詳シイモノニ掲ゲラレテイルモノテアル。此外ニ
 ツイテニ云フヘキコトカニツアル。

第一ハ折半命数 (*probable lifetime*) ト云フモノテアル。コレ
 ハ同年ノ人口次第ニ死ンテ半數ニナル年齢ヲ指スモノテイル。例ハ
 ハアル表ニ於テ三〇才ノ生存者カ $Ex_{30} = 24.44$ 人アツテ六八才ニハ $Ex_{68} = 13.3$
 人アリ。六九才ニハ $Ex_{69} = 9.90$ 人アリトスレハ三〇才一人ノ折半命数ハ
 三八年ト三九年トノ中間ニアリト云フカ如シ。

第二ハ *most probable lifetime* ト云フモノテアル。コレハア
 少年齢カラ起算シテソノ後ニ於テ最モ死亡數ノ大ナル年齢ヲ見出し
 コレト起算年齢トノ差ヲナスケルモノテアル。コレハ即チ死亡數ノ
 最大ナル年齢ニ於テ死亡スルカ最モ多ク期待セラレハ、イテアルカ
 ラ今後ソノ年齢マテ尚何年アルカヲ見ント欲スルノテアル。例ハハ

局第二表ニヨレハ男子三〇才ノモノニツイテ云フト七〇才ノ時ニ死
 亡者ノ数カ一ハニ五人テ最大ナルカテ *most probable lifetime*
 ハハ〇一〇〇〇リト云フ。然シコレハ学問上殆ント無意味
 ノトテアル。

我国ニ生命表ハ明治二二年(一八八九年)藤沢利喜太郎教授ニ依
 テ作ラレ生命保険論ト云フ小著ノ中ニ發表セラレタノカ始メテアル。
 コレハソノ材料ヲ日本帝國統計年鑑及ヒ内務省統計報告カラ取ラレ
 タ国民表テアル。コレ表ニ倣ツテ同様ノ材料ニヨリ造ラレタモノカ
 引ツ、イテ出タ

澤村表	明治	1879
野村表	明治	1890
野村表	明治	1894
澤村表	明治	1899

等コレナリ。コレ等ハ多クハ諸会社ノ私用ニ供スルカタメニ作ラレ

タモノテアツテ多クハ商業上ノ秘密屬英トセラレ世上ハ察表セラレ
 ナカッタ。然ルニ明治四十年ニ至リ我國テ最モ古イ三生命保険会社
 (明治、帝國、日本)カ決議シテソノ經驗ノ結果ヲ集メテ我國最初
 ノ經驗表ヲ作ラント欲シ、海老原公太郎氏ヲ主任トナシ三年余リヲ
 費シテ明治四十三年ニ完成シ翌年(一九一一年)コレヲ日本三合社
 生命表 (*Japanese Three Offices Life Tables 1910*) トシテ察
 表セラレタ。此ノ生命表ハ實ニ完全ナモノテアルカラ多數ノ会社ニ
 依ツテ直チニ採用セラレタ。コレニツイテ同年ニ内閣統計局第二表
 カ察表セラレタ。コレハ矢野恒太氏カ統計局囑託トシテ三一年カラ
 國民表ノ作成ニ従事シ、三五年(一九〇二)第一表ヲ作ツタカ。日
 本ハノ生命ニ関スル研究ト取シテ内閣統計局カラ發行セラレタ。
 コレヲ内閣統計局第二表ト云フ。第一表ハ公衆セラレナカッタケレ
 ト七第二表ヲ察表スルトキニ參考トシテ合セテ記サレテ居ルカラ、
 コレニ依テ知ルヲカ出来ル。コレ表カ公ニセラル、中直チニ多數ノ
 会社ニ於テ採用セラレタ。コレカタメニ從來作ラレタ不完全十國民

表ハ次第ニ実業界カラソノ脈ヲ絶ツニ至ツタ、尚第二表ハ第三六統計年鑑ニ於テ大正七年ニ察表セラレタガ、多少ノ誤リカマツヤカ、第三十七統計年鑑ニ訂正ヲ加ヘタモノカ察表セラレテイル、但シコレハ實際ニハ用ヒラレテ居ナイ、初メ我國ニハ内國表カナカツタ故ニ余儀ナク外國表ヲ用ヒテ事業ヲ始メ後ニ至ツテ蘇沃表等カ出来タカ広ク用ヒラル、ニハ至ラナカツタ、三合社表及ヒ局第二表ノ出ルニ及ンテコレヲ採用スルモノカ多クナツタケレトモ既ニ外國表ニ依テ事業ヲ始メタ会社ハ必スシモコレヲ内國表ニ改メル必要カナイカラ多クノ会社ハ今尚ホ外國表ニ依テ居ル、今ソノ状況ヲ示スト大正七年度ノ保險年鑑ニ依ルト

甲	内國表	2	7	1910	J M
乙	外國表	1	6	—	—
丙	内國表	2	7	1910	J M
丁	外國表	1	6	—	—

(表出年)

表出年

乙	外國表	2	4	1843	H M
1	英國十七年表	2	4	1843	H M
2	英國十七年表	6	4	1864	H M
3	英國十七年表	3	8	1868	H M
4	英國十七年表	1	9	1869	H M
5	英國十七年表	1	9	1895	A F
6	英國十七年表	1	9	1895	A F
7	英國十七年表	2	9	1869	H M
8	英國十七年表	1	8	1868	H M
9	英國十七年表	1	9	1869	H M
10	英國十七年表	1	9	1869	H M
11	英國十七年表	1	9	1869	H M
12	英國十七年表	1	9	1869	H M
13	英國十七年表	1	9	1869	H M
14	英國十七年表	1	9	1869	H M
15	英國十七年表	1	9	1869	H M
16	英國十七年表	1	9	1869	H M
17	英國十七年表	1	9	1869	H M
18	英國十七年表	1	9	1869	H M
19	英國十七年表	1	9	1869	H M
20	英國十七年表	1	9	1869	H M
21	英國十七年表	1	9	1869	H M
22	英國十七年表	1	9	1869	H M
23	英國十七年表	1	9	1869	H M
24	英國十七年表	1	9	1869	H M
25	英國十七年表	1	9	1869	H M
26	英國十七年表	1	9	1869	H M
27	英國十七年表	1	9	1869	H M
28	英國十七年表	1	9	1869	H M
29	英國十七年表	1	9	1869	H M
30	英國十七年表	1	9	1869	H M
31	英國十七年表	1	9	1869	H M
32	英國十七年表	1	9	1869	H M
33	英國十七年表	1	9	1869	H M
34	英國十七年表	1	9	1869	H M
35	英國十七年表	1	9	1869	H M
36	英國十七年表	1	9	1869	H M
37	英國十七年表	1	9	1869	H M
38	英國十七年表	1	9	1869	H M
39	英國十七年表	1	9	1869	H M
40	英國十七年表	1	9	1869	H M
41	英國十七年表	1	9	1869	H M
42	英國十七年表	1	9	1869	H M
43	英國十七年表	1	9	1869	H M
44	英國十七年表	1	9	1869	H M
45	英國十七年表	1	9	1869	H M
46	英國十七年表	1	9	1869	H M
47	英國十七年表	1	9	1869	H M
48	英國十七年表	1	9	1869	H M
49	英國十七年表	1	9	1869	H M
50	英國十七年表	1	9	1869	H M

今我國ヲ用ヒラレ外國表ノ說明ヲ簡單ニセム、
 1. *officers Table* 英國十七年表、一八四三年ニ作ラシタモノ
 テアルカ、英國テハ治ント用ヒラレヌニ極ツタ、コレニ反シテ米
 國テハコレカ大ニ用ヒラレ *Eligman Wright* ニ依テ此表ニ基テ作

ラレタ色々の計算表カーハ七一年ニ米國テ出版セラレコレヲ
Actuarial Tables 又ハ *Combined Experience Table* ト稱ハテ盛ニ
用ヒラレテ居ル我國テモコレハ用ヒラレテ居ルカ、ソノ理由ハ最
初我國ニ紹介セラレタト云フイト及ヒ死亡率カ高クテ丁度我國ノ
現状ニ適スルカラテアル。

2. *Fair's Table* 我國テフアール表ト云ツテイルノハ英ハ *English
Life Tables* ノ事テアツテ一八六四年ニ英國ノ統計局ニ於テ
William Farr ニ依テ作ラレタ、英國ニ於ケル此ノ種類ノ生
命表即チ國民表ハ一八四三年ノ第一表ヲ始メトシテ一九一四年ノ
第八表ニ至ルマテ屢々發表セラレタカソノ中第三表ハコレニ基イ
テ色々の計算表カ作ラレタカラ広ク用ヒラレテ居ル。

3. *American Experience Table* コレハ *Shoyard Homans*
ニ依テ作ラレ一八六八年ニ *New York* 州ノ法律ニヨツテ發行
セラレタ、ソノ材料ハ公表セラレナイカ *New York Mutual Life In-
surance Co* ノ經驗ニ基イタモノタリツト一般ニ想像セラレテイル、此

表ハ米國ニ於テハソノ被保險者ノ實情ヲミタ表シテイルモノダト
稱セラレテタクノ会社ニ用ヒラレテ居ル。

4. 英國ニ十会社表 (*Tenacity of Life Table*) ト我國テ稱セラレテ
居ルモノハ英國テハ *Institute of Actuaries Table* ト稱セラレ
London Institute of Actuaries ニ於テニイノ *England*
及ヒ *Southland* ノ会社ノ經驗ニ基イテ作ラレ一八六九年ニ發表
セラレタモノデアル、此ノ時四種類ノ生命表カ作ラレタカソノ中
表カ英國ニ於テハ標準的ノモノトシテ盛ニ用ヒラレテイル、米
國テハ此ノ表ヲ *Combined Offices' Experience Table* ト稱ハテ居
ル。

5. 我國テ英國六十会社ト云ツテイルモノハ *British Offices Table*
ノ事テ *London Institute of Actuaries* 及ヒ *Edinburgh's
Faculty of Actuaries* ノ協同ニ依テ英國ノ六十ノ会社ニ於テ
ル三十年間(一八六三—一九三三)ノ經驗ヲ材料トナシ一九三三年ニ
作ラレタカソノ中テ表カ次第ニ盛ニ用ヒラレテ表ニ代ラントス

ル傾向カアル

以上ノ於ニ世界ニハ無数ノ生命表カアルカ、我ニ關係ノアルノハ上記ノモノヲケテアルカラ他ハ省略スル

第三章 保険料ノ計算

純保険料ノ計算スルニ当リソノ計算ノ出際トナルモノハ一年ノ期限トスル保険契約ナル、一年満期ノ定期保険即チ一年内ニ死亡シタル場合ニ限り保険金ノ支払ハレルモノニアリテハ左ノ計算ニヨル

被保険料ノ年齢三十才、保険金十圓、 30 才ノ死亡率 0.005427 トスレバ $1000 \times 0.005427 = 5.427$ カソノ純保険料ナル、何トナレハ、モシカ、ル被保険者カ一方人アリト仮定スレバコレカタメニ保険者ノエル収入ハ 1000×0.005427 而シテ此ノ一年内ニ死亡スルテアラウト予想セラレル人数ハ $1000 \times 0.005427 = 5.427$ テアツテコレニ

対シ一人ニ附一〇〇〇圓ツ、ノ保険金ヲ年ヘルタメニハ 8.427 圓余リヲ必要トスル、カクノ如ク被保険者ハ収入シタル保険料ヲ以テ契約ニヨル保険金ヲ丁度支拂ヒツル、但シ此ノ計算ニ於テハ利子ヲ無視シタレトモ、モシ保険料ハ悉ク年ノ始メニ收入シ保険金ハ悉ク年未ニ支拂フモノト仮定スレバ相当ノ年利率、例ハ 4% ヲ以テ割引シタ、ケノ保険料チヨイカラ $8.427 \div (1+0.04) = 8.103$ トナルノテアル、コレヲ一般ノ公式テ表セハ

$$\frac{dx}{dx} \left(\frac{1}{1+i} \right) S + \dots$$

d_x x 才ノ死亡者数
 L_x x 才ノ初ニ於ケル生存者数
 $\frac{d_x}{L_x}$ x 才ニ於ケル死亡率
 i 年利率、 S 保険金額

長期ニワタル死亡保険即チ長期ノ定期保険ニテリテハ上ノ計算ヲソノ年限タケ施行シテ毎年ノ保険料ヲ定メ次ニコレ等ノ金額ニソレソレ一定ノ利率及ヒ期限ニ從テ割引スルナラハソノ総テノモノ、現在ノ價ヲ求メルコトカ出来ル、コレヲ合計スレハ即チ一時納ノ保険料

カエラレルノテアル、然シ一時拂ノ保険料ト云フハ普通行ハレル
コトヲハナイ、故ニコレヲ毎年一回拂トスルタメニハ別ニ生命年金
ノ現便ヲ計算シコレヲ以テ一時拂ノモノヲ除スレハ毎年払ノモノカ
得ラレル、但シコレ等ノ詳細ハ別ニ生命保険数学ノ研究ニ屬スルコ
トテアルカラコニハ述ヘナイ

然ルニカクノ如キ方法ハ繁雜テアルカラコレヲ代数式ノ代リニ基数
式ヲ用ヒテ表ハス時ハソノ計算カ甚タ簡単ニナル、而シテ生命表ニ
ハ普通ノ生命表即チ原表 (Elementary Table) ノ外ニ基数表

(Commutation Table) ヲ於テイテゴ、ニハ普通ニ生命保
險数字ノ計算ノ上テ表シテイル色々ノ場合ノ便ヲ計算シテ掲ケテイ
ルカラコレヲ用ヒルノニ依テ極メテ簡單ニ計算カ出来ル、例ヘハ上
ノ計算ニ於テコレヲ代数式ニ依テ原表ヲ用ヒテ計算スレハ

$$v^x + v^2 dx + \dots + v^2 dx + x - 1$$

ニナルカ基数式ニ依レハ

$$\frac{Mx - Mx+n}{Nx - Nx+n-1} \quad \text{トナル}$$

上ニ述ヘタノハ長期ノ死亡保険テイルカ、終身保険ニツイテ計算
スルナラハ上ニ述ヘタ方法ヲ生命表ノ最后ノ年マテ続行スルコトニ
依テ一時拂ノ保険料ヲ求メウル、コレヲ年払ニスルタメニハ一定ノ
生命年金ノ現便ヲコレヲ除スレハヨイ、此ノ場合ニ於ケル基数式ハ
 $\frac{Mx}{Nx-1}$ ニナル、今コレヲ上ニ表シテ%ヲ計算スレハ三〇才ノ終身保
料ハ

$$M_{30} = 8344.01 \quad \text{而シテ } N_{30} = 501999$$

但シコレハ保険金ノ一ニ對
スルモノテアルカラ、モシ保険金一〇〇〇圓ナラハ

$$0.0164 \times 1000 = 16.4 \text{ トナル}$$

次ニ年滿期ノ生存保險即チ一年ノ終リニ生存シタモノノ保險金ヲ夫
以フヘキ保險ニツイテハ次ノ計算ニヨル、例ヘハ一生命ニ於テ、三
〇才ノ生存者カハ六三七七人アツテ中三一才マテ生存スルモノカハ

五七五七人テアルトシテ一人ニツキ一〇〇〇円ツ、年ハルモイトス
 レハ $85757 \times 1000 = 85757000$ (円) ヲ要スル、而シテコレヲ三〇キノ
 生存者ノ数テ割レハ一人ノ負担ハ $85757000 \div 86399 = 992.8$ (円) トナ
 ル、コレニ対シテ年利四分テ割引スレハ $992.8 \times (1+0.04) = 1034.6$ トナ
 ル、コレカ求ムル所ノ保険料テアル

次ニ長期ノ生存保険ニツイテ一時払ノ保険料ヲ求ムルハ甚タ簡
 単テアル、例ハ八生命表ニ於テニ〇才ノ人九三六九〇人アリテ三〇
 才ニ至リテ八三三七七人ニ減ルモノト計算セテ居リ、而シテ保
 険金ヲ一〇〇〇円トスレハ、保険者カ支出スヘキ金額ハ $86399 \times$
 $1000 = 86399000$ 円テアル、而シテ今カテ一〇年後ニコレヲケノ金額
 ヲ支拂フタメニハソノ現價ハ $86399000 \times \left(\frac{1}{1+0.04}\right)^{10}$ テアル、而シテコ
 レヲニ〇才ノ生存者ノ数テ除スレハ $86399000 \div 93190 = 927.1$ 一人ノ負担スハキ一
 時払ノ保険料カエラレル、而シテコレヲ毎年拂ノ保険料ニ換算スル
 タメニハアル生命年金ノ現價、詳シク云ハハ一〇年満期ノ即時拂ノ
 生命年金ノ現價ヲ以テ除スレハヨイ、而シテコレヲ計算スルタメニ

ハ甚数式ヲ用ヒルナラハ毎年一回払ノ保険料ハ上例ニツイテ云ハ

$$\frac{D_{x+n}}{N_x - N_{x+n-1}} = \frac{D_{30}}{N_{29} - N_{28}} \quad x+1$$

生存混合保険、通俗ニ養老保険ト称スルモノハ一定ノ期間生存ス
 レハ保険金ヲ受ケル、且ツソノ期間内ニ死亡シタルトモ亦保険金ヲ
 受ケルモノテアル、従テコレハ一定期間ノ生存保険ト同期間ノ死亡
 保険ト同一契約ニ結ビツケタモノニスキナイカラ保険料モニツテ別
 別ニ計算シテコレヲ合計スレハヨイノテアル

以上ハ色々ノ生命保険ニツイテソノ最モ純粹ナル場合ヲ述ヘタモ
 ノニ過キナイ、實際ニハ此外ニ色々ノ技巧カ加ヘテレテイル、例ハ
 ハ生存保険ニ於テ満期前ニ死ンタ人ニ対シテハ拂込フテ保険料ノ全
 部又ハ一部ヲ返スカ如キ、又例ハ養老保険ニ於テ満期前ニ死スハ
 約束ノ金額ヲ受ケルカモシ満期マテ生キテ居レハソノニ割テ受ケル
 ト云フカ如キ又例ハ終身保険ニ於テ保険料ノ拂上期間ヲ短期間ニ

限定スルカ如キ包マノモノカアル。サレトモ保険料計算ノ原理ハ前
述ノモノト同様テアル。

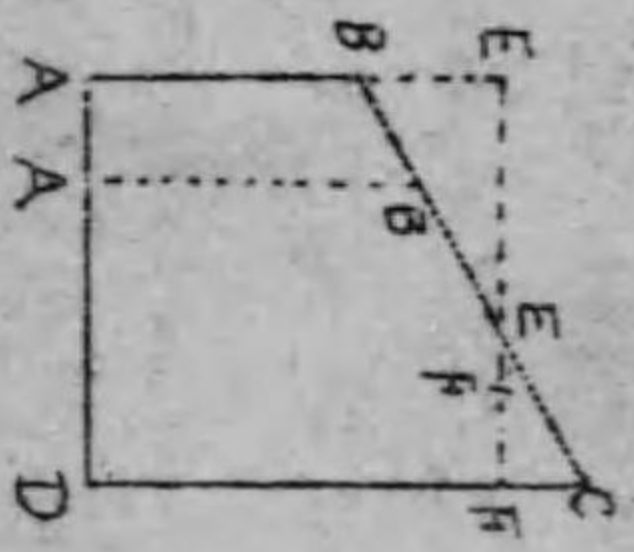
以上ハ純粹保険料ニツイテ述ヘタ所テアルカ。此外ニ附加保険料
(Loading)ヲ加算スルコトヲ要スル。通例ハ純保險料ニ何割カ
ヲ附加セラレテ居ル。次ニ近來ハ生命保險契約ニ附加ハ利益配当附
ノ契約ト称シテ一定ノ金額ヲ契約者ニ拂込メテカ行ハレテイルカ。
コレニ当ルタメニハ相当ニ保險料ヲ高メテオク必要カアルカコレモ
附加保險料ノ中ニ加ヘラレテアル。

唯ソノ配当額カ特別増加額ニ比ヘテ多イカ少イカハソノ保險者
ノ營業成績ニ依テ決セラレル。此ノ利益配当ノ方法ハ現金ヲ以テ払
戻スノカ普通テアルカ。或ハコレヲ以テ次期ノ保險料ニ振替ヘル
モアル。或ハコレヲ一時払ノ保險料ト考ヘテソレダケ保險金額ヲ増
加スル事モアル。

第四章 保險料積立金

生存保險ハ前章ニ於テ計算シタ如ク毎年掛止ンタ保險料ヲ蓄積シ
テ満期マテニコレヲ一定ノ金額トシ、コレヲ保險金トシテ支拂フモ
ノテアルカラ云ハ、一種ノ貯蓄ト考ヘラレル。従テ年々收入スル保
險料ハ会社ノ所得ト見ルヘキモノニアラス。恰モ銀行ノ預金ト同
ク保險者ノ積蓄ニ属スルモノテアルカラソノ利息ト共ニ悉クコレヲ
積立テ、オカナケレハナラナイ。決シテコレヲ会社ノ營業利益ト考
ヘテ株主ノ配当等ニ宛ル下ハ出来ナイ。コレカ生存保險ニ於ケル保
險料積立金テアル。然ルニ生存保險ハ広ク行ハレナイカラ、且ツソ
ノ計算カ簡單テアルカラ保險料積立金ニ関シテ説明スル下ハ之、
ヲ省略シテ、タ、次ニ述ヘル死ニ保險ノ場合ダケヲ説明シテイルカ
普通テアル。コノ下ハ外ノ原物ヲ流ム時ニ予メ念頭ニオイテ置テ
要スル。

死亡保険ニ於テモシモ自然保険料ノ方法ヲトル時ハ毎年ソノ危険ニ対スル実費ヲ徴收スルノテアルカラ、少シモ保険料積立金ハ出来ナイ、然シ今日ノ實際界ニ於テハ此ノ方法ヲトルモノハナク、又ハテ平準保険料ノ方法ヲトツテイルカラコ、ニ保険料積立金ノ向取カ生スル、既述ノ如ク平準保険料ハ左ノ如キ性質ノモノテアル



DABCD 自然保険料
DAEFD 平準

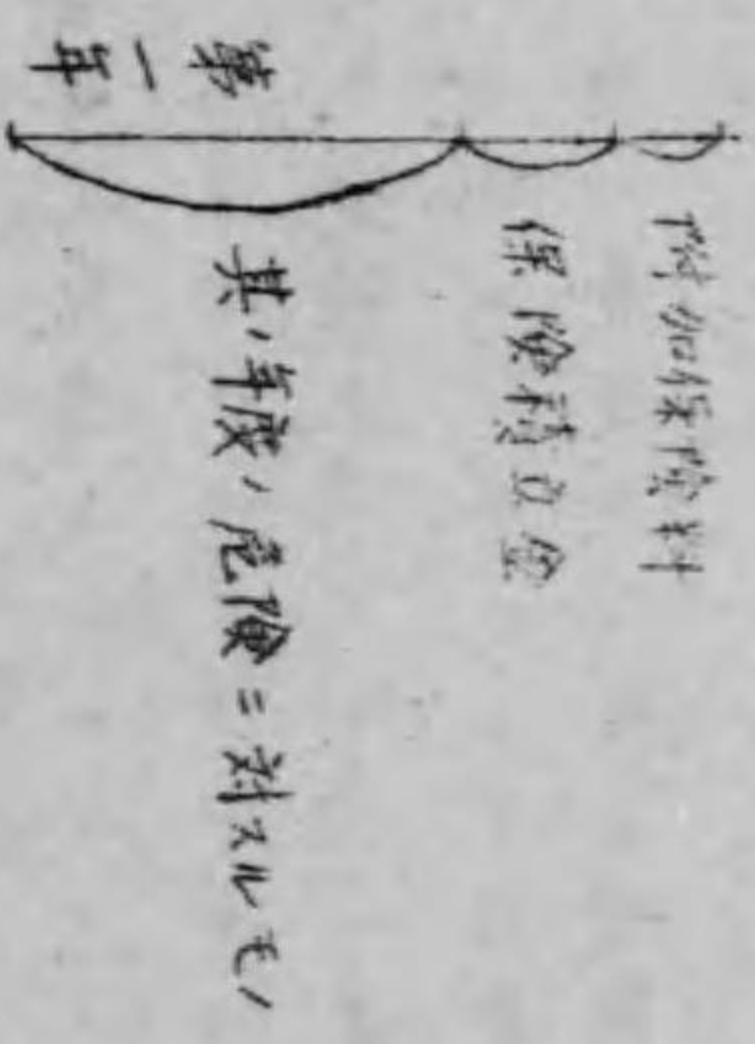
此ノ場合ニACD又ハABDノハソノ年度ニ於ケル危険ニ対スル保険料テアルカラ、コレハ保険者ノ所得トナスコトヲウレシトモ、又ハC、Dノハ将来ニ於ケル保険料ノ不足即チE、C又ハF、Dヲ補フメニ保険者カ一時保管スルニスキナイモノテアルカラ、云ハ、銀行ノ預金ト同シクソノ保険者ノ債務ニ属スルモノテアリ、次シテコレ

ヲ会社ノ所得トシテ自由ニ所分シエナイモノテアル、従ツテコレハ保険料積立金ト名ツケテ積立テ、オクコトヲ要スル、保険料積立金ハカクノ如ク保険者ノ所得トナルモノニアラズンテ単ニ被保険者ノ財産ヲ保険スルニスキナイモノテアル、故ニ商法ハコレヲ被保険者ノタメニ積立テタル金額トナツケテ一定ノ場合ニ之ヲ契約者ニ返還スヘキモノト定メテ居ル、今ソレヲ列挙スレハ

- 一、第四三一条一項一号及七二号ノ規定ニヨリ保険金額ヲ支払フ責ニ任セサル時
- 二、三九五条ノ規定ニ依リ保険金額支払ノ責ニ任セサル時
- 三、四〇五条ニ依テ保険者又ハ保険契約者カ契約ヲ解除シタル時
- 四、四〇七条ニ依リ保険契約者カ解約シタル時
- 五、四一〇条ニヨリ保険契約カ效力ヲ失シタル時
- 六、四一一條ニヨリ保険者カ解約シ又ハ保険契約カ失効シタルモノト看做シタル時

保険料積立金ヲ計算スル方法ハ色々アルカ通例ハ上述ノ通り純保険

料タケヲ見テ、コレヲニツノ部分ニ分極シ將來ノ保険料支払ヒノ準備トナルヘキ部分ヲ計算スルノテアル、コレヲ純保険料式計算方法ト稱シ最モ適當ナ方法テアル、然ルニ我國ニ於テハ此外ニ *allowance* 式ノ計算方法ヲ採ル会社カアリ、政府ニ於テモコレヲ許シテイル、コレハ生命保険契約ハソノ第一年度ニ於テ診察料、代理店ノ手数料等ニ多クノ費用ヲ要シ到底第一年度タケノ附加保険料タケテハ経費ヲ支弁シエナイニ依テ



第一年度ノ保険料積立金ヲモコレヲ宛テルノテアル、ソノ代リニ第一年度以後ニ保険料積立金ヲ計算スルニ當ツテハ第一年度ノ積立金

ヲ補充スルタメニ成分カ多ク積立テ、相当ノ年限ノ中ニコレヲ補充シヤルヨクニ計算スルノテアル、コレヲ察明者ノ名ニヨリ *plluen* 式ト云フ

上述ノ如ク生命保険契約ニハ積立金カ出来ルカヲ契約者カ有スル保険証券ハ一定ノ保険契約ノ存在ヲ示スモノテアルト同時ニ一定ノ金銭價格ヲ要スルモノテアル、コレヲ保険証券ノ價格又ハ保険價格 *Policy Value* ト云フ、コレハ即チ保険料積立金ト同一ノモノテアル、コレハ被保険者カ保険者ニ対シ有スル債権テアルカラ、コレヲ担保トシテ保険者ハ被保険者ニ金銭ヲ貸付ケルヲカアル、コレヲ保険証券担保貸付 *Policy Loan* ト云フ、即チ契約締結時年数ヲ経ルニ從ヒテ保険價格ハ進スルカコレニ対シテソノ七割又ハ八割マテヲ貸付ケルヲハ決シテ不當ニ非ス、保険者ハコレニ依テ確實ナル担保ノモノニ有利ナル貸付ヲナシウヘク、且ツコレニ依テ契約者ヲ誘フヲモ出来ル、又該被保険者ハ一方ニハ保険契約ヲ継続シツ、一時金融ノ便宜ヲ得ラレル、要スルニ於テハ此ノ貸付金ハ保険價格ヲ標準トセ

スシテ次ニ記ス所ノ鮮約價格ヲ標準トナシソノ一定ノ割合以下ヲ貸付ケルモノトシテ居ル

保險契約ノ解除・失効又ハソノ他ノ場合ニ保險者カ保險金支拂ノ責ニ任シナイ時ハ保險者ハ前述ノ如ク被保險者ノタメニ積立テタル金額ヲ返サナケレハナラナイ。コノ金額ヲ鮮約價格 (Surrender Value) ト云フ。ソノ金額ハ少クトモソノ當時ノ保險料積立金ヲ含ミ且ツソノ外ニ特ニ契約ニヨリテ利益配當ヲ約束シタ場合ニハコレヲ含ミ且ツ後ニ述ベル所ノ未経過保險料ヲ含ムモノト考ヘル。カ理論上正当ナルカ實際ニハ普通保險約款ヲ以テ適當ト受メマナシ或カ力減額シテ行クノカ普通テアル。例ハ簡易保險ニテリテハ鮮約返戻金ハ被保險者ノタメニ積立テタル金額ノ 80% - 90% ノ範圍ニ於テ通信大臣ノ定ムル所ニヨルト受ム。コノ減額ヲナス理由ハ新契約費ヲ數年ニ割當テ、回收セント欲シヨイタノニコレヲ回收スル機會ヲ失ツタト及ヒ將來得クヘキ當然ノ希望利益ヲ失ヒタルニ對スル補償ノ意味テアル。此ノ理由ニ依テ契約後ニ三年ノ間ハタト

ニ保險料積立金ハアルニモセヨ鮮約返戻金ヲナサハルカ普通テアル。保險契約ノ失効又ハ鮮約ニ當リ鮮約返戻金ヲナス代リニコレヲ一時拂、保險料ニ當テ、拂濟証券 (Profit-up Policy) ヲ發行スルカアル。例ハアル契約ニ於テ次ノ鮮約返戻金ニ對シテ左ノ如キ拂濟証券ヲ交付スルカ如シ。

鮮約返戻金		拂濟証券ノ保險金額	
契約締結時ニ於テハ被保險者ノ年齢	契約締結時ニ於テハ被保險者ノ年齢	契約締結時ニ於テハ被保險者ノ年齢	契約締結時ニ於テハ被保險者ノ年齢
30才	40才	30	40
17,029	11,088	134	137
10	128,46	10	318

鮮約返戻金ノ一定形トシテ自動的保險料拂上 (Automatic payment of premium) 又ハ保險料振替ト云フ方法カアル。凡ソ保險料ハ一定ノ期日ニ拂返ムヘキモノテアツテ、コレヲ拂上マナケレハ契約ハ失効スルモノテアルカ、保險延滞ノタメ直チニ失効セシメル

ハ、過酷ニ失スルガヲ通例ニ。日又ハ六〇日ノ猶予期間ヲ与ヘコノ
 期間ヲ過キテモ尚拂込マサルモノニ對シテハ契約ノ效力ヲ失ハシメ
 ルトシテイル。此ノ場合ニ解約返戻金ノ一部ヲ以テ保険料ニ振替
 ヘ自動的ニ契約ヲ継続セシメ、若干ノスキテ解約戻格カツキ時ニ倍
 メテ保険契約ヲ消滅セシメル方法カコトニ述ヘタ所ノモノヲアル
 共済組合ノ如キモノニ於テ生命保険ヲ行ツテ居ル時ハソノ組合員
 カ途中ヲ組合ヲ脱シタ場合ニ上述ノ理由ニ依テ解約返戻金ニ相当ス
 ルモノヲ拂渡スヘキ旨ヲアル。通例ハコレヲ退職手当金又ハ退職慰
 勞金等ト称シテ居ル。

第五章 生命保險会社ノ會計

保險者ハソノ決算期ニ於テソノ期間内ノ收入カラ支出ヲ控除シタ
 金額ヲ利益金ト若ヘルコトハ出来ナイ。此ノ残金中カラ數額ノ項目ヲ
 保險者ノ債務トシテ控除シタル上ニ於テ始メテ利益金又ハ剰余金ヲ

見ル今之弊ノ控除項目ヲ説明ス。之以外ハ生命保險會社ノ會計
 銀行信託會社等ノ如キ金融機關ノ會計ト異ナルコトナリ。
 保險業法九五條ハ保險者カ各事業年度ノ終リニ於テ現存スル契
 約ニ就キ責任準備金ヲ積立ツルコトヲ要スト定ム。云フマテモナク
 益ニ積立ツルト云フハ現金ヲ保有スル意ニ非スニテ貸借対照表ノ作
 成ニ當リ之スケノ金額ヲ控除シテ算出スルコトヲ命セタル
 一スヤサレナリ。此ノ責任準備金トハ保險者カ被保險者ニ對シテ保
 險契約上ノ債務ヲ果たスカ爲メニ必要トセラレ、金額ナリ。之責任
 準備金ヲ別ケテ生命保險會社ニ於テハ保險行積立金ト未返還保險料
 ノ一種トス。右述スル損害保險會社ノ責任準備金ハ未返還保險料ノ
 ミナリ。
 保險料積立金ノコトハ既述ノ如シ。未返還保險料トハ一事業年度
 ニ於テ受ケ取リタル保險料中、翌ノ年度以後ニ跨リタル保險期間ニ對
 スル保險料ニ當ルモノヲ云フ。例ハ本年九月一日ヨリ翌年八月末
 一五ノ一年分ノ保險料ヲ受取リタル時ニ其ノ會社カ同年ノ末ニ計算

ヲ行フトテハ之ノ保険料ノ中四ヶ月分丈々ハ既ニ保險者ニ於テ危險
ヲ引受ケタルモノ故ソレ丈々ハ会社ノ収入ト見ルコトヲ至出トス
サレト茂リハヶ月分即チ保險料ノ十分ノ八ハ翌年度ニ引受ケタル
危險ニ對スル保險料ナル故之レ丈々ハ会社ノ實際ノ収入ト見ルコト
ヲ得ス 之ヲ債務ト考ヘテ償付請求ノ負債ノ部ニ計上シテ控除ス
ルコトヲ要ス 之未経過保險料ハ個々ノ契約ニ就チ計算スルハ煩シ
キ故平均ノ方法ニヨリ一年一回払ヒノ保險料ハ全体ノ十分ノ一 半
年払ヒノ保險料ハ全体ノ四分ノ一ニ充ツルヲ可トス
保險業法ニ三條 保險会社ノ事業年度ノ終リニ於テ支那準備金ヲ
積立ツルコトヲ要ス 之ハ事業年度中ニ於テ支那ヒノ事由発生セタ
ルカ又ハ発生セタル時レアル保險契約上ノ債務ノ支払ヒニ充テルタメ
ニ必要トスラシメ金積ナリ 例ハハ保險金ヲ支拂フヘキ事故ハ既ニ
発生セタル長之ニ関スル請求書未タ会社ニ到着セサルカ或ハ既ニ
到着セタルト調査中ニ居ニテ未タ保險金支払ヒラ爲ササルモノ又ハ保
險金ニ付シテ訴訟中ノモノ、如キ種々ノ場合之レニ當ル

次ニ業法ニ三三條 保險契約の配当準備金ノ積立ヲ法律之ヲ命ス
之ハ所謂利益配当附キノ保險契約ヲナシタル場合ニ之ニ充ツルカ爲
メノ金積ヲ積立ツルコトニ義務ニ言ハソレヌケノ金積ヲ会社ノ債務
トシテ控除スルコトヲ要スルハ当然ナリ

以上ニ着ハ生命保險会社ニ持有ナルモノトシテ *Reserve* / 命スル折
タリ 之ノ他商法一九四條I及IIノ積立金ヲ受スルコトハ勿論ナリ
尚更他ニ特別積立金又ハ別命積立金等ト稱シテ臨時ノ支出ニ長ハレ
為メニ相当ノ積立金ヲ準備セテ置クコトハ著實ナル會社トシテ必要
ナルコトナリ 生命保險会社ニ於テハ流行病又ハ *Plague* / *Pest* 等ニ
備ヘル時メニ之ノ必要アリ 但シ生命保險事業ハ火災又ハ海上ノ如
ク偶然事件ニ出逢フコト少キモノ故之ノ積立金ハ前者ニ於テハ絶対
的ニ必要物ナレト前者ニ於テハ長ノ必要ノ程少シ

第六章 生命保險會社ノ財政

生命保險會社ノ利益ノ源ハ三アリ

1. 死差益 2. 事業費ノ節約 3. 利差益
1. 死差益 則ノ会社ノ採用セル生命表一層ヤテ何程ノ死亡者カ(又ハ生存者)アルヘキカヲ豫定ニシテ井ルニ當リ實際ノ死亡者カ之ニリ少ヤ時ニ保ノ差カ保險者ノ利益トナルナリ 一ノ会社ニ各ヲ死差益ノ多キコト即チ實際死亡者カ豫定死亡者ヨリモ甚ク低キ場合ニハ保ノ原因ハ色々アレ故程ニ保ナルコトハ保ノ会社ノ營業上ニ一モテ身休検査充分ニ行ハレ *actuarial* 一事業ヲ擴張シテナイ事ヲ証明立ラレモトス 吾國ニ各ヲハ政米一益ケル程身休検査充分ナラサル故テ死亡ト實際死亡トノ差カ甚大ニハ少シ此ノコトヲ研究スルニ當リワハ單ニ死亡者數即チ契約件數ノミヲ見ルコトハ不適當ナリ 件數ト金時一更ノ金額ヲモ調査セサレハカラス 何トナレハ件數ハ少ナク其保ノ夫共ヒタル金額亦死火上一及ハル時一ハ結句會社ノ不利益トシ故ナリ
- 又 事業費ノ節約 事業費ハ所加保險料トシテ徴収スルニ之ヲ節約

ニ得テフン一ハソレ文ケ利益ニ得ラレ之ノ問題一干ニテ最

重大ナルハ代理店及ヒ外交員 診査医ノ制度トス

3. 利差益 保險料計算一當リ相當ノ利率ヲ豫定シテ之ヲ割引シテ居ルコト前述ノ如ク 實際會社一益テ收入シタル保險料ヲ初ノトシテ凡テノ資産ヲ適用スルニ當リ豫定以上有利ニ利用スレハ一利シテ大ケ会社ノ利益多シ 實際ニ各ヲハ會社ノ儲蓄貯一ト之ノ一取一カハルナリ 而テ保險會社一ハ資本金各種預立金等非常ニ多額ノ資産アリ 殊ニ生命保險會社ハ長期ノ契約ナル故保險料積立金一相當スル金額ノ如キハ非常ナル巨額トナル故金融機關トシテ重要ナル地位ヲ賦與一白ム 此ノ莫ヨリ見テ保險會社ハ保ノ反面ハ保險會社其他面ハ銀行ナリト云フヲ得

第七章 身体検査

生命保險ニ各ノ反對選擇ヲ施レルニトナケレハ身体検査ヲ行ハ

ハス死亡保険ニ於テモ統一上ノ人等実上ノ強制保険ニアル場合ニハ
又之ニ同一ニサレ共任意主義ノ死亡保険ニ於テハ務休者ヲ排斥スル
爲メ又ハ之ニ對シテ特別ノ取扱ヲスルモノニ身體検査ヲスル必否ア
リ身體検査ハ医者ヲシテ所謂医的診査ヲ行ハルモノニ医者ハ被保險
者ノ現在ノ健康状態ノミナラス既往症遺傳等居者ノ健康状態
職業ノ種類住居地ノ状態飲酒喫煙ノ性癖并育メ死亡率ニ関
係アル事柄ハ皆調査ニナケレハナラス診査医ヲ調ヘテ平極ハ診査
報状ニ記サレテ保險契約ノ申込書ト共一本社ニ送ラレ本社ニ於テ
ハ医長々之ヲ診査シテ契約ヲ締結スヘキヤ否ヤ又如何ナル条件ニ
テ契約スヘキヤヲ決スル此ノ医的診査ノ外ニ尚被保險者ノ良心ニ訴
ヘテ契約締結ノ際ニ被保險者ニ告知義務ヲ負ハシメ過去及現在ノ
健康状態更他凡テ死亡ノ危険ニ干渉ヲ及ボスヘキ事柄ヲ皆告知セ
シメル此ノ義務ニ違反シテ重要ナル事柄ヲ告ケヌ又ハ虚言ヲ言ヘ
ル片ハ保險者ハ解約スルコトヲ得(商法四九条)之レハ生命
保險契約ニトリテ重要ナコトヲアリ又現ニ生命保險ニ干スル裁判ハ

治ニト全部追之ニ関スルコトナリ此告知義務違反ノ制裁ハ保險者
ノ爲メハ大切ナ事ナレカ被保險者ノ地位ヲ安全ナラシムルタメ
ハ保險者ノ解約權ノ行使期間ヲ制限スル必要アリ從テ商法四九条
ハ契約ノ片ヨリ五年又ハ保險者カ解約ノ原因ヲ知りタル片ヨリ一
月ヲ至レハ消滅スルモノトシラル實際ハ普通保險の款ヲ以テ之
ヲ三年ニ短縮スル例多シ之ヲ不可抗爭條項ト云フ (Unilateral
ity clause)
死亡保險ニ於テモ無診査保險ト称シテ医的診査ヲ行ハサレモノア
リ下付之ニ能計ニ被保險者ハ健康状態ニ注意ヲ払ハサレニアラヌ
非医的診査即チ普通人ノ常識ニ感シ検査ヲ行フナリ即チ診査ト称
シテ更ハテ接見スルコトニヨリテ使否ヲ見分ケル且被保險者ヲシ
テ健康ヲ管ヘシメ之ニヨリテ契約スヘキヤ否ヤヲ決スルナリ若
易生命保險ハ之ノ方法ヲトレルカ統計ニヨルト毎年若干數ノ人ハ契
約締結ヲ拒サレ居ル尚無診査保險ニアリテハ前記ノ如ク反対
選取ニ備ハル爲メ一定ノ不担保期間ヲ設ケ居ル

身体検査の結果トシテ一定ノ標準ニ適合シテハ一年ニテハ普通ノ
 条件ヲ以テ契約スルガ、ソレ以下ノ弱体者 (under-average
 life, or sub-standard life or diseased life)
 一対ニテハ通例ハ契約ヲ拒絶スルカ、或ハ特別ナル条件ヲ付ケ加ハ
 テ契約ストコトアリ、或ハ最モ普通ナルモノハ年令概シテノ方法ヲ
 リ、例ハ八三〇歳ノ人一三〇歳ノ人ノ保険料ヲ支払ハシムルカ如シ
 或ハ外幣一用ヒラレ、方法トシテハ保険ノ種類ヲ変更セシムルコト
 例ハハ終身保険ノ甲込ニテ養老保険ニ変更セシムルカ如キコトアリ
 或ハ期間ヲ短縮セテ契約ストコト、例ハハ三〇年定期ノ養老保険ノ
 甲込ニテ二十年定期ニ変更セシムルカ如シ、此ノ方法ハ例ハハ五
 年中ノ如キ老年者ヲ養フ病氣ニ対シテソレカ示タ至セサレ、固一契約
 ヲ終了セシムル終メナリ
 養老保険即チ生死混合保険ハ取扱ニテハ死亡保険ニ準ス

第八章 特別危険

生命保険ハ普通ノ場合ニ於ケル普通人ノ生命ヲ保険スルモノナリ
 サレトモ此ノ外ニ被保険者ノ需用ニ充テテ特別ノ場合ノ危険ヲ担保
 スルコトアリ、其ノ最ナルモノハ前述ノ弱体保険ノ外ニ戦争 *war risk*
 旅行 *travel risk* 職業 *occupation risk* ナリ
 軍人ニ対シテハ普通ノ保険ノ外ニ戦争 *war risk* 一対スル特別ノ保険
 料ヲトリテ戦争 *war risk* ラモ担保スルコトアリ、(普通ハ *war risk*
 ラ担保セス) 或ハ徴収ノ方法ノ中テ戦争ノ為メ出タスルニ際シテ
 船中ノ保険料ヲ取ルノカ普通ナリ、此ノ方法ハ合理的テハアトルカ、將
 一出征セトスルニ当リテ比較的一多額ノ保険料ヲ一時ニ支出スル
 一費用スル不便アリ、故ニ會社ハ平素カラ保険料ヲ幾分増額ニ戰時
 一ニ至リテモ特別保険料ヲトラスニテ、戰爭危険ヲ担保スルコトモ
 一アリ、或ハ方法甲ヲ最モ便宜ナクハ利益配当付キ、契約ヲ締結シテ服

役中ハ利益配出ヲ為サス兵役義務ナキ一至リテ初メテ利益配出ヲ初
 ノル方法ナリ 換言スレハ利益配出有キ契約ト利益配出ナキノ契約
 トノ保険料ノ差額大ク保険料ヲ増加セルモノナリ 軍人中一若クモ
 飛行併校一対シテハ保険ヲ拒絶スルヲ普通ナリ 潜水艦ノ乗組員一
 ハ特ニ一歳ヲ契約スル(最近ノ欧州大戦ニ由リ米國政府ハ特ニ出征
 軍人ノ為メ一生命保険ヲ恒管ヲ行ヘリ 其大要ハ最近ノ経済學論集一
 照会セリ)

普通ノ戦争其他ノ変乱ニ由リ死亡ニ付テハ保険金ヲ支払ハテ
 イノカ普通ナルカ(商法四三三條及四三九條)實際一ハ普通保險
 約款ヲ以テ此ノ場合一モ保險金支払ノ責ニ任スルコトヲ約束セテ
 ノカ普通ナリ

旅行 *travel* ハ今日一旅ヲハ特別ノ地方ニ旅行スル場合ニ
 氣候風土ノ干係カヲ特別保險料ヲ請求スルニ止マリ文明國ノ各地ヲ
 旅行スル場合一ハ之レヲ無視スルカ普通ナリ 此ノ点一干テ注意
 スヘキコトハ温帯地方ト虽モ例ヘハ支那内地ノ如ク一衛生及ヒ秩序

ノ立ツテ居ラス所テハ特別保險料ヲ請求セラル 又一熱帯地方ハ概
 シテ風土病カ多イカラ特別保險料ヲ徴収セラル 而シテ統計ノ示ス所
 ニモルト熱帯地方一數年同居住ニシタ人ハ帰國后一旅ヲモ死亡率甚シ
 高ト云ハル

職業ノ種類一ヨリテ死亡率一遠ヒアルコトハ統計ノ上カヲ明カナ
 ルカ保險事業ノ實際一旅ヲハ職業ハ甚シト無視サレテ居ル 又酒ヲ
 販賣スルモノ一対ニテハ *Europe* = 於テハ特別保險料ヲトルコト
 トナツラレ 尚木反対ノ場合トモテ禁酒者一対ニテハ特別保險料ヲ
 減スル例 *Europe* = アリ

第二部 社會保險

第一章 序論

社會保險トハ労働者階級ヲ初メ一般ニ少額所得者ノ生活ヲ安

一〇八
此七三ノ目録トスル保險ナリ。社會保險ハ初メハ労働者ヲ
被保險者トスルモノナリキ。然ルニ小商人、手工業者、少休人等ノ
如キ人トヒ理論上一ハ企業家ヲアルニモセヨ。所得ノ派カ主
トシテ労働ヲアリ。労働所得ニヨリテ家計ヲ営ムル氣一ヲハ労働
者トシテ一ト異ナル所ナシ。又手務員及ヒ技師ノ如キ職業階級ノ
モノ宗敎牧師 *pastor* 等ノ如キ自由職業者モ其生計ニテハ労働
者トシテ一ト異ナル所ナク主トシテ労働所得ニ依テテ被保險者ノ
故ニ労働者ノタメニ起レル所謂労働保險次第ニ至テ被保險者ノ
範圍ヲ広メテ一ト凡テノ少額所得者ヲ包含スルマデニ至レリ。故ニ
労働保險ト云フニイ名殊ハ何時トナク廃止セラレテ今ヤ一般ニ此ノ
種ノモノヲ社會保險ト云フコトニナツテ。要スルニ中流以下ノモ
ノ、猶モ一スル保險換言スルニ社會政策ノ手段トシテ行ハレル保險
ヲ云フナリ。其詳細ノ中心ハ労働者ナルカ故ニ労働保險ト云フモ
社會保險ト云フモ精神一ヲハ變リナシ。殊ニ之ヲ研究スルニ事ナ
ラハ労働者ニ主トシテ言明セテ論スルカ便宜ナリ。

労働保險テハ労働者ノ生活ノ安堵ヲ目的トスルモノナリ。然ルニ
更ノ主眼ノ安定ヲ妨グル事故ハ少クトモ救護アリ。疾病 傷 災
ノ數一尠スル又々ノ保險ノ種類カアルヘキ筈ナリ。即チ社會保險ト
ハ只一總ノ保險ヲハナクモ之ヲ各種ノ保險ヲ總稱シテ云フナリ
尙之ヲ歐洲ノ實例ニ就テ見ルトキハ公積又ハ年俵ノ近キ事故ハ之ヲ
一ツノ保險制度中ニ包含スルコト、ナツテ。例ハハ疾病、受傷、
出生ノ如キハ疾病又ヒ休業中ノ手当金ヲ受スル氣一ヲ共通ナレハ
之ヲ健康保險又ハ疾病保險ト添シテ一括シテ居ル。次ニ死亡保險ト
老衰保險トハ前述ノ如ク生命保險アリ。而シテ老衰ト疾病トハ長病
ニ涉ル休業中ノ生活費ニ當テレタメニ手当金即チ年金ヲ受スル氣一
ヲ共通ナリ。又死亡保險ノ中ニ若シテ葬式費用ニ當テレタメハハ
シロ健康保險中ニ包含セシメテ傷病者ノ手当金ノ延長トシテ取扱フ
コトカ却ツテ便宜ナリ。死亡保險ノ他ノ一面ハ遺族救済アリ。之ヲ
理由ニヨリテ他ニハ老衰 遺族保險ト称スルニ制度ヲ有ス。之

一 対してハ英國一法アハ産業ヲ以テ傷病ノ延長ト考ヘ健康保險ノ中
一 産業ト云フ事故ヲ包含マセテ居ル 而シテ英國テハ老衰者ニ對シ
テハ無償養老年金制度アリ 又葬式費ニ當テハ格メニハ高層保險カ
保險會社及友誼組合 (Friendly Society) 一法ヲ盛一行ツテ
居ルカ健康保險甲ニハ葬式費用ノ給付ヲ含マス 又各國一法ヲ失業
保險ハ一種特別ナルモノトシテ 特別ノ制度ト視同トモリ
テ行ツテ居ル 此等特別ニ注意スヘキハ傷病者死亡并ノ事故カ特ニ
業務生起セル場合ニハ産業主ヲシテ特一本ハ又ハ更遺族ヲ扶助ス
ヘシ義務ヲ負ハシメテ居ル 工場法施行令第四條以下及ニ鐵大労働
扶助規則第七條以下並ニ傭人扶助令ヲ見ヨ 從テ此ノ場合ニ扶助
ヲ賦ハルコトハ法律上規定スレ居ル産業主ノ義務ナルカ故ニ之カ格
メニ取スル費用ヲ労働者カ負担スル理由ナシ 今此ノ産業主ノ義務
ヲ内容トスル保險ヲ依レル場合ニ是ハ産業主ノ格メノ保險ニシテ労働
者ハ更受役者タルニ止マル 而シテ各國ノ例ニヨルトシテ災害保
險又ハ産業主扶助義務ノ保險トシテ保險ノ形式ヲトレル例モアリ 政

ハ我國ノ如クシテ産業主ノ義務トスレニ止メテ未ダ保險ノ形式ヲト
ツテ居ラスモノアリ 何レニシテモ業務上ノ事故ニ對スル扶助ハ之
ヲ一法特別ノモノトシテカテ前記ノ各種ノ保險事故ハ業務外ノモノ
ノ一法テ存在スルコトヲ原則トシテ又時トシテ便宜上カテ業務上ノ事
故ヲモ衷中ニ包含セシメルコトカアルニ止マレ 此ノ事ハ社會保險
ノ研究ノ初メニ特ニ注意スルヲ要ス 之レニヨリテ見レハ社會
保險ノ定義ニテ労働者ノ為メノ保險ト云フナフハ幾分カテ語弊カア
ルカフムニシテ社會問題ノ解決手段トシテノ保險ト考ヘルコトカ最モ
直當ト信ス

社會保險ハ普通ノ保險ニ比スレハ多少ノ特色ヲ有ス
一 強制保險トスルコト

凡テノ社會保險カ強制保險ナト一アラス 通例ハ之レヲ強制ニ且
之ヲ強制保險トスル趨勢ニ 之ノ事ハ多數ノ國民ニシテ普及
セシムル目的ヲ以テ從來ハ多少ノ保護ヲ加ハルニ止マリ居タリニ
モ到底目的ヲ達セ得アルコトヲ信リ己ムヲ得ス保險ノ義務ヲ課

三ツルナリ

又、外部ヨリ補助ヲ受ヘルコト

普通ノ保険ハ其保險者ヲ叙保險者之ヲ負担スルヲ原則トス 併シ
社会保険ハ被保險者カ少額所得ナル故其ノ負担ヲ輕クスル爲メ一
國家並ニ市町村及ヒ補正カ多少ノ負担ヲシラ居ルナリ 其ノ理由
トスレバ新ハ保險ノ種類ニヨリテ要リ又補助ノ割合モ因ニヨリ保險
ノ種類ニヨリ一様ナラサレ故ニ各論ノ説明ニ譲ル 併シ少クハ
國家即チ社会全体カ其ノ構成分子ニ對シテ其ノ生活ヲ保障スルノ
義務之ヲ及對制ヨリ見レハ國民ノ生存及チ其ノ實現スルニ至
リシコトハ注目スヘキ点ナリ

3. 保險料ヲ算クスルコト

之亦少額所得者ニ對シテ強ニ之ヲ強訓スルカ故ニ保險料ヲ算價ナラ
シムルノメニ種々ノ方法ヲ算スルコト必要ナリ 然レ保險機關ハ
之ヲ非營利的ノ組織トナシ他種租(登録税、所得税)ヲ免除ス
ルヲ例トス 前述ノ如ク之ヲ海關保險トスルコトハ普及ト云フ事

ノ外ニ費用ヲ安クスルコトニ大イニ精敏ナリ 一例ヲ算クレト英
國ノ健康保險法制定以前一ハ公積ノ手段ヲ支那社會ヲ行ツテ其
(Friendly Society) 健康費(附加保險料)ハ純保險料
ニ對シテ50——100%ヲ受セシカ公法ノ下ニ於テハ10%ヲ
以テ定ルト計算ナレバ居ル

々 一ハ事故ノ予防及ヒ事後ニ基ケル能力回復等ノ如キ新種予防的
抽款一カラ及スコトナリ

前述ノ通り保險ノ維持ノ目的ハ事後ニ基ケル損害ノ填補ナレカ保
險ヲシテ其ノ真ノ目的ヲ達セシメシムル爲メ一人種極的ニ予防的施設
一カラ注クコトカ必要ナリ 社会保険ノ如キハ今日之レヲ國家ノ
重要ナル政務ト考ヘテ通例ハ之ヲ海關保險ニテサレ仕ナレハ特ニ
予防的方面一カラソ、イテ一級行政事務ト連シテ保メシメレコト
カ必要ナリ 例ハ人疾病保險ト共ニ衛生及ヒ医療設備ノ改善一勞
カニ失業保險ト同時ニ職業紹介所ノ活動一カラソ、ク、産業保險
ト共ニ再教育 (re-education) ニカラ注クカ如キナリ 之

ハ普通ノ保險一就イテモ必要ナルカ未タ資カモ乏ク又多敷ノ保
險会社ノ國籍モ困難ナレハ余リカラ注カレテオフ又 然ルニ社会
保險ハ之ヲ國家ノ公務ト考ヘテ居ルカラ現今ハ益々之ノ方面ニ力
カソ、カレテアルナリ

第二章 業務上ノ災害保險(事業主ノ扶助義務ノ保險)

此来ニ至リテ産業界一大変化カアリテ大規模ノ機械ヲ用ニ運カノ
有ル機械ヲ用ヒ或ハ有害危險ナル藥品ヲ用フルコト等モ多イカ
ニ労働者ノ忠實ニ業務ニ従事セラオムニ當リテハ災害ノ被患トナル
コトカ頗ル多クアレリ 之ニ對スル救済手段トシテ被害者ノ損害賠
償請求取ハモ之ヲ従来ノ如ク民法ノ不法行為ニ干スル原則ニ支配
セラル、モノ、トスレハ只雇主ニ一應失ノアリニ場合ニ限ラレテ
オレカラ其救済ハ甚タ不充分ナリ 不法行為ニ干スル民法ノ原則ハ
日昨代即チ農業時代及乎工業ノ時代ニハ適當ナリシヤモ知レス 今

日ノ如キ機械工業時代ニ至テハ何人ノ過失ニモ蓋カ又事故即チ産業
危険 (Industrial Risk) カ時々生スル 之ハ今日ノ學問ノ
至理ノ程度ニ至テハ如何トモスヘカラサレコトナリ 或ハ労働者ノ
輕イ過失ヲモ長ノ側ヲ一大ナル機械又ハ強イ動力カ存在スル爲メニ
變ル大ナル accident ヲ惹起スルコト多シ 之等ノ場合ニ雇主
ニ過失ナキコトヲ理由トシテ被害者ニ救済ヲ与ヘナイノハ不齒ナリ
要スルニ社会ノ變化ニテ居ルノニ法律ハ固定ニテテテテテテテテテテ
サレモノトナツテオレ 故ニ十九世紀ノ中頃以來 法律ノ改正運動
カ西洋ニ至テ次第ニ成功シ業務上ノ accident 一対ニテハ過失
ノ有無ヲ問ハズ雇主カ恒ニ之ヲ救済スル義務ヲ負フコトニナレナリ
即チ過失責任カ無過失責任 (結果責任) ニ移レシメナリ 其最初ノ
法律ハ一八七一年(明治四年)ニ於テ乙ヲ制定セラレ次ニ英國
一八八〇年ニ出テ夕ソレヨリ次第ニ凡テノ文明國カ之ヲ採用スル
一五レレナリ 德國ニ至テハ一九一五年(大正五年)ニ至リ工場法
施行令第四條以下鉦大労働扶助規則一七條以下並ヒニ傭人扶助令ヲ

以テ公債ノ立派カ行ハレタレナリ

業務上ノ災害ノ結果ヘシテ死亡ト永久的ノ公卸労働不能、永久的
一部労働不能及ヒ一時的労働不能ノ四ニ分ケタ 之一対スル扶助費
ノ程度ハ同ニヨリ異ナル

(甲)

業務上ノ死亡一対ニテハ遺族ノ扶助及葬式費用ヲ與ヘルコトヲ
受ス 遺族扶助ノ給メ一人賃金ノ三分又ハ五年分ヲ一時公ト
テ與ヘル例モアル 或ハ年金ヲ與ヘル同モアル 此ノ場合ニハ傷
病ノ場合ニハ同ノ給身同又具再婚スル返戻死セル大ノ賃金ノ五分
ノ一又ハ三分ノ一ニ相当スル年金ヲ與ヘルコト多シ 又子供ノタメ
一ハ十五又ハ大歳ニ達スル迄一人毎ニ死セル父ノ賃金ノ五分ノ一
ニ相当スル年金ヲ與ヘルコト多シ 此ノ外葬式費トニテハ別ニ多
少ノ金額ヲ与ヘルカ普通ナリ

(乙)

永久的全卸不能トハ労働能力ノ大部分例ヘハ八十パーセント以
上又ハ全卸火ヘルモノニテ永久的ニ能力ノ回復セザルモノ即チ
麻痺者ヲ指スナリ 之一対ニテハ医療ハ必要ナ限リ与ヘ目ツ主者

費トニテ年金スハ一時金ヲ與ヘル 年金ナラハ賃金ノ三分ノ一
相当スル年金ヲ給身同與ヘルカ普通ナリ 一時金トテハ賃金ノ
六年分ノ一ニ年分ヲ與ヘル例アリ

(丙)

永久的一部労働不能トハ幾分カハ労働ニ得ルカ従来ノ賃金ニ比
ヘテ所得ノ減少スル場合ヲ云フ 此ノ場合ニモ必要アルハ医療ヲ
與ヘルカ生業費ヲ補助スル給メ一年金又ハ一時金ヲ與ヘル 但シ
全卸不能者ニ比シテ幾分減額スレナリ

(丁)

一時的労働不能者一対ニテハ医療ヲ與ヘテ速カニ治愈セシメ且
ツ生業費トニテ賃金ノ $\frac{5}{10}$ —— $\frac{80}{100}$ ヲ與ヘルカ普通ナリ 此ノ原
一トニテ注意スヘキハ業務上ノ災害ハ大部分ハ短期間ニ全快スレ
モノナレムニテ疾病保険ト連結セシムルト取扱ヒカ簡單ニナル
即チ雇主ハ疾病保険ノ費用ノ中ニ相当ノ支出ヲナシテ而シテ業務上
ノ一時的労働不能一対スル救済ノ義務ヲ盡シカラ表而上ハ取除
カレ雇主ノ扶助義務ハ更レ以外ノ場合大テ即チ疾病扶助及ヒ遺
族扶助大テニナルナリ

上ニセル所ハ西洋ノ状態ナリ 吾工場法施行令等ノ定メテ居ル扶
助ノ程度ハ既タ概イテノナリ
第一一職工ノ業務上ノ 出 産 ノ時ノ一死亡スレハ賃金百
七十日分以上ノ遺族扶助料ヲ與ヘ尚十日以上ノ葬費料ヲ與ヘレ
第二一 療養中ノ場合トモテハ医療ノ手当ヲ施ス 且ツ療養ノ時
休業中ハ生活費トモテ賃金ノ 1/3ヲ收ムル 若シ三月以上一
歩レレ時ハ既右ハ賃金ノ 1/3以上ヲ收ムル 又三年ヲ経テ治
癒シナイト賃金百七十日分以上ノ扶助料ヲ與ヘテ其右ノ扶助ヲ
絶ツコトヲ得
第三一 治癒後ノ扶助トモテハ終身自用ヲ使スレト能ハサルモ
ノハ八賃金百七十日分以上ノ 終身労働一復スルコト能ハサルモ
ノハ百五十日分以上ノ 従来ノ労働一服スルコト能ハサルモノ
便服一復スル能ハサルモノ又ハ女子ノ外観ニ醜形ヲ殘シタル
モノハ百日分以上ノ身休ヲ傷害シ一復スルコト能ハスト區
引後ニ従来ノ労働一復スルコトヲ得ルモノハ三十日分以上ヲ

英ハレトコトニナツアル 但シ之ハ現在ノ規定ナリ 去年四月カ
フハ健康保険カ実施ナレトコトニナレハ上ニ述レ如ク健康保険ト
重復スル部分ハ之ノ規定カラ取除カレトコトハ勿論ナリ
如斯様主ノ扶助義務ハ雇主ノ單独ノ負擔ノ區ニ於任スルカ可ナ
リヤ 或ハ之ヲ保險ノ形式ニ移スカ可ナルカハ一問腹ナリ 但
シ保險ノ方カ色々ノ氣カラ見テ有益ナリ 雇主ノ制カラ免レハ
其負擔ノ最大限ノ保險料ヲ限度トスルカ故ニ大 accidentノ
出ニタル場合一モ其負擔ハ保險者一轉嫁セラレト 其保險者タ
ル業主ハ無關係ナリ 而シテ業主ハ此ノ保險料ヲ其事業經營
ノ豫算中一初メカラ計上セテ置ク事ヲ得 次ニ之ヲ労働者ノ方
面カラ見ルト確實ニ支払ヲ受ケル利益アリ Europeノ如ク
數十年ニ涉リテ賃金ヲ與ヘラレム如キ場合一ハ事業主ノ破産又
ハ業務ノ廃止ヲ考ヘサレハカラス 然レニ保險ノ方カ採ラ用セ
テ而カモ保險者ノ組織カ確實ナレハ此ノ氣ハ金ク安心ナリ 次
ニ之ヲ社会問題ノ解決策トモテ考ヘテモ保險ノ方カ有益ナリ

モ此ノ負擔ヲ事業主専独ノ負擔ニシテ居ケハ産業ハ少ク夫出
 セト欲セ被傷労働者ハ可及的多ク得ト欲シテ其利益カ直接
 衝突ス 然ルニ保險ノ方法ヲ採用スレハ其衝突ハ保險者ト労働
 者トノ間ニ起ル大クニシテ産業ニ干渉ナシ労働ノ衝突ヲサケル
 ヲ得 但シ我因ノ現在ノ如クニ産業ノ負擔カ輕ケレハ之等ノ間
 題ハ余リ重大ナラサレモ知リス 併シ西洋ノ如クニ或ハ自身
 年金或ハ多額ノ一時金ヲ受ヘル場合ニハ之ニ一保險ヲ利用スルニ
 トカ必要トナル

保險ヲ利用スルニ當リテハ三ツノ方法カアル

- (1) ハ英國ノ在國ノ如キ方法ニシテ労働者賠償 (workmen's
 Compensation Act) ヲ制定シテ産業ノ扶助義務大クヲ
 定メ保險ヲ利用スルカ否カハ任意トシテ置クナリ 此ノ場合ニ
 多クノ同一被傷者ハ民間ノ保險会社カ盛ニ此ノ種ノ保險事業ヲ營
 ミテ居ル 但シ我因ヲハ殆ント行ハレテ居ラス
- (2) ハ独逸等一行ハレテ居ルモノナリ 独乙ヲハ一八八四年(明

(3)

一七七年(英國) 英國マハ一八七七年ニ災害保險法ヲ制定シ産業マ
 ン損害分担ノ目的ヲ以テ災害保險組合ヲ作ラセシメ而シテ被傷勞
 働者一ハ之ノ組合カマ保險組合ヲナスコトニシテアル
 一 方法ハ政府自ラ保險局ヲ設ケテ更ノ事業ヲ営ムモノナリ
 取ノ經營ノ方法一ハ色々ノモノアリ (甲) ハ之ヲ政府ノ独占トシ
 且ツ強制保險トスルモノ例ハ人詭或 英國 Chairo 州 Oregon
 州ノ如シ (乙) ハ政府保險局カ民間ノ保險会社及ヒ産業ノ相互
 保險組合ト併立ニシテアルモノナリ 例ハ人 Staly, France
 米國 New York 州等ノ如シ 但シ之(乙)ノ中ニモ又種々
 ナリ Staly ノ如キ人何レカノ機關ニ保險ヲツケルコトヲ命令セ
 ンアルカ France ノ如キ人全ク任意ナリ

此ノ保險ハ教育上ハ産業扶助 義務ノ保險ナレハ産業カ被保
 險者アリ 保險者ハ産業カ負担スヘキモノナリ 労働者ハ只
 利益者トシテキス 併シ其業ヲ見ルト業務上ノ災害ヲ保險事
 故トスルモノナリ 被保險者ヲ労働者ト考ヘテ只保險料支払

ノ義務ヲ著シ一義ハセタルモノト見ルヲ得、何レモテモ労働者
又ハ其ノ遺族ヲ保護シ、其ノ由若ク安全ナラザルモノハ依テ有スレモ
ノナリ、而シテ吾國ノ如クハ僱主賠償責任ト云フ思想カ未ダ幼稚
ナル所メ、其ノ内容ノ不備ナルモノナラス、其適用ノ範圍モ極ク狭
ク、民ニ場取工、鉱山工式及官業職工ニ限ラレタル。工場第一義
テモ職場賠償一適用ナキノミナラス、交通業、土木業等ノ如ク危
険ノ程度ハ工場ヨリ高ヤモノニモ適用ナキノミナラス、家族労働者
商業労働者等一人全ク適用ナシ、政府ノ進歩ニタリ、其第一義ヲハ
凡テ之等ヲ包含シテ居ル。此ノ所ハ情実改正ヲ要スルト思フ
災害ノ結果一対シテ保障其他ノ方法ニ依テ被害者及遺族ノ生計
ヲ保証スルニ止ラス、更ニ災害ノ原因ニ溯ツテ其ノ発生ヲ防止ス
ルコト一努メサルヘカラス、即チ一方ハ Safety 予防装置ヲ完全
ニシ、又一方ハ労働者ヲ教育シテ Safety 予防ニテスル知識及訓練
ヲ与フルコトヲ大切ナリ、獨乙ノ事業主カ組織ニテ居ル災害保険
相互組合ニ派ラハ、或ハ技術師ヲシテ此等装置ヲ考察セ、又ハ組合ノ

一六二

改修ニヨリテ一定ノ装置ヲ採用スルコトヲ事業主ノ義務ト
スルコトモアル。米國一私テ近年盛ニ行ハレテ、安全第一義
動モ主トシテ此ノ考ヨリ起リモノナリ、而シテ僱主賠償法ノ
制定ニヨリテ、罰則ヲ受ケル結果ナリ、尚被害者一対シテハ、医療
ニヨリテ能力ノ恢復ヲ速カナラザルノミナラス、災害ノタメ
ニ労働能力ヲ減少シタル者ニ対シテハ、再教育即チ適当ナル職業
教育ヲ授ケテ、其取得能力ノ恢復ニ努メ、ムコトカ必要ナリ、之ニ
ヨリ労働者ノ幸福ヲ増進スルノミナラス、保險ノ立場ヨリ云ハ、
其ノ支出ヲ著シク減少セシメ、併
業務上ノ災害ト云フ事ハ、初メハ受傷及ヒ死亡ノ意味ニ考ヘラレ
テ、其タカ、其白次等ニ所謂業務上ノ疾病ヲモ、其中ニ包含セシメ、ラ
備主ノ義務、其ノ範圍ヲ廣クスルコトナリ、例ハハ、燐中毒、水
銀中毒、砒素中毒、鉛中毒等ノ如ク、或ハ種々ノ職業ニ關係的ニ
從事シテ起ル者カ、必ず犯カレ、ホハナラ、又、疫氣ナリ、或工場施設
行々等ハ、之ヲ業務上ノ災害ノ中ニ數ヘラ、ナリ

一六三

前述ノ如ク短時間ハ半年ヲ通例トス。ノ傷又ハ疾病一併ス
 ル傭主ノ扶助義 務ヲ独塊及日本并ニテハ疾病保險ト巧ニ
 辨認セシメテキル 然ルトヤハ其後ニ殘ル傭主ノ義務ハ疾病狀
 態ト置換扶助ノモナリ 故ニ独塊并ニテハ業務上ノ災害保險ト
 称スルモノハ軍ニシテラ内寇トスルモノナリ 然レ一后匿
 スル如ク社会保險ノ中ニハ疾病保險及置換保險カアル 故ニ若
 ニ其間ノ辨認ヲ巧ミニトスルナラハ業務災害保險ナルモノハ独立
 セテ存在ニ得サルモノトナレ

但ニ今日 *Compulsory* = 存在スル疾病及置換政府ノ保險ハ其
 内容カ極ク貧弱ナルモノナリ 及之業務災害保險ハ其内容カ比
 較的一ヨク充実セテアル 之ハ労働者能力ノ喪失又ハ減少ニ并
 スル損害賠償ヲ考フルガ故ナリ 故ニ業務上ノモノト業務外ノ
 モノトヲ余儀ナク分離セテキルニスヤス 併ニ業務外ノモノ
 ト至モ結局ハ業上ノモノトシテ且程度追給付ノ内容ヲ充實セセル
 必要カアルカラ實際一ハ兩者カ一体トナリテ業務上ノ災害保險

ハ其ノ存在ヲ支フニ至ル 尚傭主ノ賠償責任ノ問題一併テハ辨
 認ナル統計的ノ研究ヲ労働保險ノ研究ニ記セシカハ辨ニ参照ス
 ハ一

第二章 健康保險

健康保險ハ傷病及ヒ出産ニ至ル 上ノ苦痛ヲ緩和セハ休業ノ途ニ
 賃金ヲ得フレヤルニ至ル困難ニ及ヒ適當ノ医療ヲ与フルコトニヨリ
 テ労働能力ノ恢復ヲ速カナラニ且ツ一般ニ健康及能率ヲ高ムルコ
 トヲ目的トスルモノナリ 凡ソ傷病一併ニ此等ノ救済ヲ目的トス
 ルモノトシテハ其濟組合カ近代ニ至リテ自然ニ発達セリ 而テ其程
 度マテハ相當ニ其ノ目的ヲ達セテヤダノテアルカ更ニ之ヲ改善セテ
 凡テノ労働者ヲ包含セシメ且ツ更給付ヲ相當ノ程度迄高メシメ其他
 一般ニ健康保險トシテ必要ナル標準ヲ夫フルガ倫メニ近年一至リテ
 強制的ノ健康保險法ヲ制定セラル、ニ至レリ 之ハ一八八三年(明

明治十六年ノ独乙ニ制定セラレタル疾病保険法カ初ノニシテ今日一基
 テハ殆ト全部ノ文明國ニ同様ノ法律ヲ有シテ并ニ 吾國ニ於テ
 ハ官業ニ于テハ明治四十年八一九〇七〇ニ敎道省天清組合カ初メテ
 設ケラレ莫他ノ官業ニモ同様ノ内容ヲ有スル勸令ヲ以テ労働者ニ対
 スル業務上ノ災害保険及ヒ健康保険ヲ実施セテ并ニ 民業ノ工場及
 鑛山等ニテハ早クヨリ立派ナル共済組合ヲ設ケテ并ニ多數アルカ未
 タ一般ニ普及セズ 且ツ更ノ給付ノ程度カ概シテ不十分ナリ 故ニ
 昨年ノ四月ニ至リニハ一便業保險法カ公布セラレテ乃ク明年四月一日
 ヨリ実施セラルルニ望トナレリ 今更ニ大段ラ成ラレハ 被保險者ニ三
 種アリ

第一ハ労働者加入者ニテ工場法ノ適用ヲ受クル工場スハ鉱業法ノ適
 用ヲ受クル事業場、若シクハ工場ニ依用ナルモノハ之ニ属ス 後
 テ此労働者ノ外ニ職員ヲモ含ム 但シ臨時雇及年收一、二〇〇円ヲ
 超ユル職員ハ此ノ限リニ非ス
 第二ハ任意包括加入者ニシテ交通業、土木業、電氣業等ノ従業者

一千ニテ一ノ事業ノ従業者ヲ一団体トナシ其中通年数ノ合意アル
 代ハ主務大臣ノ認可ニヨリテ或ノ事業ニ従事スルモノ全体ヲ包括
 シテ被保險者トナスモノナリ 包括加入ニ限ルコト、シテ個人的
 ノ任意加入ヲ許カ、レハ所謂及対送次ヲ避クル極メナリ

第三ハ任意締結加入者ニテ被保險者タル資格ヲ喪失セタル后直
 チ一申込ヲナス片ハ其後百八十日以内ニ締結シテ被保險者トナル
 ヲ得ルナリ 之ハ主トシテ新業ノ際ノ便宜ヲ其フルヲ目的トス
 保險者ハ政府及便業保險組合ナリ *Europe* ノ例ニ基テハ自
 的ノ組合ニシテ被保險者タルニシテ *Europe* ノ例ニ基テハ自
 井ル 之ハ各組合員ヲシテ此ノ事業ニ直接ノ利害干渉ヲ感セ
 ルコトカ此事業經營上色々ノ便宜ヲ多イコト、及ヒ従来ヨリ既ニ
 共有組合カヨク發達シテ并ニカシメ盛々ニ之ヲ解散セシメ
 トカ事業上困難ニアツタ事業カ原因ナリ 但シ之等ノ組合ニ於テ
 モ各員ニハ厂的ノ事情カ限アルニヨリテ夫レ々々ノ特色ヲ具ヘ
 テ并ニ 英國ノ友誼組合ハ全ク任意的ノ有志者ニヨリテ組織セラ

レヲサレ組合ナリ 従テ海關通關以前ハ一時加入ニテモ程ナ
 ク脱会スレモ多ク組合ノ財政上ノ基礎モ鞏固ヲナクハサナ組合
 カ或ハ起リ或ハ解散スル如キコト多カリキ 此ノ英國式ノ組合ハ
 他ノ國々ニ於テモ英國ノ影響ヲ受ケテ盛一行ハレニ因カ
 多イ 故ニ至ツテハ此ノ事業ヲ保護スル術メニ政府ヨリ補助金ヲ
 與ハ且ツ組合ノ事業ヲ政府ヨリ監督ニ監督スル政策ヲ採用セシ例
 カ *Europe* ニ多シ 次ニ独乙ノ疾病組合 *Hranken Kasse* ノ
 特色ハ地方的ノ区劃ニヨリテ組織サレテ居ルコトナリ 之ハ独乙
 ニ於テ十九世紀ノ初ヨリ或ハ市町村カ其地域内ノ労働者ヲ強制
 シテ組合ヲ組織セシメ或ハ市町村自ラ事業ヲ営ニテ強制的一加入
 セシメテ沿革ニ基クテ
 次ニ我國ニ見例ノ最モ多キ共済組合ナルモノハ洋同上事業組合
 ト稱セラレ (*Co-Operative movement fund*) 一事業即チ一工場 一
 商店 一会社ノ中ニモノヲ單位トシテ其従業員一対ニテハ中
 實上強制的ニ組合員タラシムルモノナリ 従テ其事業ト組合トカ

殆ト一體ヲナシテ一事業主カ其事業ノ至當ニ課キ干渉ヲ有セ
 用ノ一部ヲモ預担ニテサレコトカ其ノ特色ナリ 併ニ吾國ニ於テ
 ハ未ダ其亦組合ノ發達カ不十分ニテ且國民一故ニ自治的ノ訓練
 一全シヤコトヲ考慮ニテ一故ノ有ノタメニ政府自ラ保險者トナ
 リ 而シテ比較的多數ノ被保險者(一〇〇人以上)ヲ有スル事業
 一故ヲ入事業ヲ單位トスル健康保險組合ヲ組織セシメ之ヲ以テ
 健康保險ノ便業保險ヲ稱スニ義一思フ行ハニハルコトナリ
 従テ實際ニ於テハ從來ヨリ大工場業一存在ニテ其共済組合カ其
 ノ規約ヲ改メテ健康保險組合トナルモノト考ヘラル 健康保險ノ
 数ヲ一〇〇人以上ト限リニ理由ハ凡ソ保險カ大數ノ法則ノ運用ニ
 基クモノナルカアル 従テ組合員ノ數カ多クシテハ多クイ程
 更ニ事業ノ基礎カ鞏固トナルカ多數ノ事業ヲ合セラニ組合ヲ作レ
 加テハ長ニ適當ナ方法ヲアリ法待ニシテ認メテサレ 併ニ吾國
 ノ沿革及ニ國民性ヲ考慮スル時ハ此分ノ中ハ殆ト不能ト思ハレ
 保險者ハ第一ニ傷病ニテモ健康ノ給付ヲナス 即チ無病ニ

ヲ診察ヲナシ無料ニテ藥品及他ノ治療費ヲ供給スル必要ノ場合ニ
 ハ無料ニテ入院ヲナサシムルコトナリ
 第一ニ疾病ノタメニ労働一服スルコト能ハサル時ハ之ヲ補メ
 賃金ヲ得サレハ傷病手当金トシテ賃金ノ六〇%ヲ与ヘテ以テ
 生活費ニ当ラシムル之ノ手当金ハ業務上ノ傷病ニ付テハ即日
 ヲリテ之ヲ與ヘ其勞介ノモノハ第四日ヨリ之ヲ與フ之ノ三日
 間ノ待期 (Waiting period) ヲ設ケル理由ハ主トシテ彼病ヲ
 防クオタメナリ 療養ノ期間及傷病手当金ノ給付ハ継続セシムル
 ノ傷病ニ付テハ六ヶ月ヲ以テ明限トシ之ヲ超ユルモノニ付
 之ハ給付ヲ止メス其理由ハ大部分ノ傷病ハ六ヶ月以内ニ全快スル
 モノニシテソレ以上ノモノハ例ハ肺病等ノ如クムニ全快ニ届
 ズレモノナレハ他日却定スルノ必要有ルニ付保費ニ之ヲ課セテ
 解雇ニ付テモ凡テ此ノ方策ニ由リ 第一ニ保費者力死七スレハ
 埋葬料トシテ賃金ノ二十日分ヲ與ヘ 第二ニ分給ノ場合ハ分給
 費トシテ二十日ヲ與ヘ且ツ此產手当金トシテ分給ノ前後ハ命令ヲ

以テ與ヘシムルハ一賃金ノ六〇%ヲ與ヘ之ヨリ産前産后ノ休養
 ヲ得ルシムルヲ折減母性保護ノ一部ヲ實現スル事ナリ 現ノ
 費用ハ政府カ凡ソ¹⁰ノ負担ニ與テ減額ヲ主トシ保費者トカ担手
 スレトシテ折減トスル 而シテ保費者ノ負担スル部分ハ産主カ
 先ツ之ヲ納メ後ニ保給ノ中ヨリ控除スルコトナレリ
 此ノ労働折減主裁ハ前ニ述ヘタル事業主扶助義務一部ヲ健康保
 険ノ負担ニ移シモコトカ第一ノ理由ナリ
 第二ノ理由ハ職業上ノ疾病トシテ同一人相繼ニ密接ノ干渉ヲ有スル
 モノナルカ只中積一業務上ノ負傷及疾病トシテ指摘セラレモ
 ハ事業主ノ扶助義務トナツテ非レカ此ノ外ニ多クノ疾病カ職業ニ
 起因スルコト多シ 故テ之ハ業務上ノ疾病ニ準スルモノトシテ只
 扶助費用ヲ事業主ノ負担ニ移サシムルコトカ第一ノ理由ナリ
 又他一般ニ保費者ノ幸福増進ヲ計ルコトハ事業主ノ当然ノ義務ナ
 ルノミナラス 之ヨリテ保費者ノ健康増進ノ結果ハ事業主モ亦
 之ヲ補メテ利益スルモノナレトカ第一ノ理由ナリ 又健康保

一六三
險組合ノ事務ノ施行機手及該次機關ノ組織等ニテモ採東林ト
Costノ負担トノ間ニハ平衡ヲ保テセムコトカ当然ナルハ之ノ意
ヲモ巧慮セテ労働折半ト定メタルナラバ以上ハ皆同ノ健康保険
法ニテスル大要ナリ 其詳細ハ健康保険法解説ニ見ルベシ此ノ
法律ハ二百人以上ノ被保険者ニ適用シテ見ルニシテ此ノ
ス次第ニ其ノ範圍ヲ擴張セテ其細則ニ見ルカ如クモ中産階級
以下ノモノハ皆之ヲ包含セムハ千代命ヲ有スルモノアリ殊ニ
折半制ニテラレトスル產養老及遺族扶助ニテスル社会保険法ハ
之ノ基礎ノ上ニ建設サレモノナレハ斯ニ研究ヲ要スル同級ト
信ス

第四章 老衰及遺族保険

疾病ニテナリテ取得能力ヲ喪失スル者ハ其少シモノ又老衰ノ始一版
得能力減少セシモノ、 一家ノ生計ノ中心トナツテ其労働者ノ死

七ノ夕メニ因難ニ陥入レト遺族之養ノモノニ対シテ生活ヲ保証ス
ルコト人皇大ナル社会問題ナリ 若シモ之養ノ事故ヲ業務上ニシ
タルトナハ(老衰ヲ除ク)ノ業務上ノ扶助義務トナスコトハ既述セ
通りナレハ其ノ部分ニテモハ既ニ同級ニ解決サレテオレ道理ナリ
但シ我國ノ如ク扶助ノ程度ノ低キモノニ就テハ勿論改良ノ余地充分
アリ 又付業務上ノ事故ニ依ルモノハ其少ナリ 更ニ其ノ大部分ノ老
ニ就テハ社会保険ノ方法ニヨリテ之ヲ救済スルカ然ラサレハ扶養法
ニヨルノ外ナクナリ 而シテ今日ニ於テハ社会保険ノ制度カ此ノ同
級ノ解決一環モ適当ナレトカ一環ニ認メラレマ居ルナリ
養老者ト長期ノ傷病ノ夕メニ 遺族ニ養手ニ保サルモノ及ヒ傷病
ノ治療ニ於テ労働能力ヲ命却又ハ一却欠ハレモノヲ言フ 右者ハ
従来ヨリ普通ニ養老者ト称セラレタレモノナレカ前者ハ健康保険法
トノ下ニ依リ若シ養老ト定規セラレタレモノアリ 傷病ハ普通ニハ定期
間ニ適用ハズケ月以内ニ給一ト治療スルモノニテソレ以上ニ長引
クモノハ極ク稀ナリ 其代リニ或レ種類ノ疾病ニ肺結核ノ如キモ

ノニアリテハ長期ノ療養ノタメニ重キ負担ヲ要スル 故ニ各国民ノ社
會保險制度ニ於テハ短期ノモノニ對スル健康保險ト長期ノモノニ對
スル疾病保險トヲ區別シ其ノ費用ノ負擔者及ヒ割合保險機關ノ
組織等ニテモ之ヲ異ナレム 歐羅パ諸國ニ於テハ適當ト認メテオムナリ
疾病ノタメニスト保險ハ從來ハ殆ト免免ニテオラナカッタノヲア
ツテ之ヲ救済法ニ委ヌレカ普通ナリ 今年一ニ至リ共済組合ノ成立給
付ヲナスモノカ多少オコリニカ財政ノ貧窮ナル端々ニ未タ免免スル
ニ至ラザリニカ故ニ遂ニ國家的ノ立法ヲ以テ此制度ヲ強制スルニ至
レルナリ
近年ニ至ルハ労働能力カ減少スルハ喪失スルコトハ自然ノ道理ナリ
之ニ對スル保險ハ即チ生命保險ノ一種ナルカ故ニ歐洲ニ於テハ古ク
カラ相當ニ発達シテアル 其併從來ノ生命保險ノ方法ハ例ハハ保險
料ヲ毎年一回私ヒトスル等ノ理由ノ端々ニ労働者階級ニハ不適当ナ
リナリ 又保險者ハ主トシテ協利会社ヲアツタカ給メニ單利ノ目的ノ
端々ニハ少額ノ保險契約ヲ取扱フコトヲ善ハス 従テ國家的カ中流

以上ノ人ニヨリテ主トシテ利用セラルテオタルナリ 此欠取ラ神
ヲタメニ免免ニシテモノニツアリ 一ハ共済組合他ハ簡易生命ナ
リ 欠取共済組合ハ其賦税ノ負擔ナルカ端々ニ單式費用ニ供ス
ル位ニ止マリテ之ヲ以テ老後ノ休養ニ資スルカ如キ人全ク絶望ナ
リナリ 簡易生命保險ハ少額所得者ノ端々ニ便宜ヲ計レコトヲ目的
トシテ普通保險ニ比テ色々ノ改良カ加ヘラレテ居レ 例ハハ保
險料ヲ毎月払ヒ又ハ毎週払ヒトシテ細分スルカ故ニ食ヒキモノモ
之ヲ納メ易キコト 經費ノ節的ヲ計レ補メニ医療的診査ヲ行ハナレ
コト 事故又ハ解約ヲ防クタメニ保金人ヲ派遣スルコト等カ更ノ
改良ノ主ナル点ナリ
端々ニ此ノ保險モ民ハ保險金額ノ余リニ少キ端々ニ更目的通
リノ結果ヲオサメルコトハ殆ト不能ナラト思ハレ ツイテ一
老弱者ニテモ之ヲ以テハ夕キ草ハ更取締方法ニテモ之ヲ以テシテ
ヒアル点ナリ 例ハハ街乙ニ於テハ高クモ労働能力カ相當ノ程度
ニ近減少セシモノハ之ヲ療養高ト考ヘテオレカラ老弱者トスル言

一七六
業ハ比較的便宜ナル老人ニシテ能力減少ノ程度ノ少ナキモノヲ指
ス 此種ニシテ其分カシテ補助ニ其慰安ヲ授ケル事カ老年
者ニ対スル給与ノ方針ナリ 反之例ハ英國ニ於テハ一定ノ年令
例ハ七八七〇歳ニ達セタル者ハ悉クシテ老弱者ト見做シテ其生計ノ
困難ナル者ニ対スル救済ヲ講スルコトニ努ム 彼等其甲ニ包含セ
ラレ、モ、モ、範圍カ廣キナリ 此ノ事ハ政米ノ研究ヲ研究スルニ
出リ厥初ニ注意ヲ受ス 而シテ養老ノ物メニスル保險ノ制度ハ
多クノ国ニ於テハ未ダ簡易生命保險及ヒ普通生命保險ニ委ネラオ
ルカ今年ニ至リテハ細乙并ニ格ニ一定ノ資格ノモノニ法律ヲ以
テ強制スルコト、ナレトナリ 拙乙ニハ一方ニ労働者ナルモノ
アリテ此労働者及ヒ地位ノ低キ職員階級ニ対スルモノアリ 且ト
相並ニテ職員保險ト称セテ高級従用ノモノニハ不バ全額ノ内給ヲ
有スル保險ヲ強制スルコトニツラト台者ハ云ハ、茲國ノ官吏ノ
恩給制度又ハ会社員ノ恩給制度ニ對シテモ、ニモ之ヲ普及ケル
ルメニ法律ヲ以テ強制スルニ至レトモノト考ヘラレトナリ

一七五
遺族ニ対スル生涯ノ保証ヲ目的トスル保險ハ古クヨリ行ハレテ
アル所ノ普通ノ生命保險ナルカ之モ前述ノ養老問題ト全理由ニヨ
リテ一方ニハ簡易生命保險カ行ハレ更ニ一步ヲ進メテ強制的ノ保
險トナルニ至レトモノナリ
労働者ノクニニ強制的ノ老衰保險ヲ作ルヘハ一八九九年(明治
三十二年)ニ獨乙カ初メテ行ハレトモノニ至リ今日ヲハ
Austria, Italy 等凡テ、一々國ニ存在スル 獨乙テハ労働
者ニ対シテハ所給ノ大小ヲ問ハスニテ強制スル、従用ノ(一職員)
階級ノ者ノ年令ノ一〇〇以下ノ者モ亦合セ
次ニ任意ニ被保險者トナリ得ルモノハ、五〇以下ノ職員小卒
業主等ナリ 強制的被保險者ハ一六歳ニ至レハ之ニ当然加入スル
コトナレ、任意被保險者ハ四十歳未満ノ中一名入スルヲ受ス、
被保險者ハ報酬ノ多少ニ從テ五割ニ區別シ各事取一從ツテ保險料
及保險金額ヲ區別スル 保險料ハ労働者半スル 被保險者カ六五
歳ニ達スレハ其ノ死亡又ハ疾病ニ至ル迄各ノ半額ニ從テ一從ノ

養老年金ヲ受ケル 政府ハ之ノ養老年金一一定ノ補助金ヲ附加シ
 テ給與スル 次ニ被保險者ノ命令ノ如何ニテ不拍疾病者トナレル
 ハ疾病ノ継続スル限リ疾病年金ヲ受ケル 其金額ハ各ノ等級ニ依テ差
 ル一定額ト一定ノ政府ノ補助金ト保險料ハ期間ノ長短ニ依テ差
 異ノアル増減トラ加算セルモノナリ 此ノ制度ハ疾病年金ヲ主
 トスルモノ一シテ養老年金ハ只老人ニ付スル一種ノ優待方法タル
 ニスナス 其ノ年金ノ額ニ養老年金ハ極メテ少額ニシテ疾病年金
 ハ總分カ多イナリ 年金受給者ノ數ヲ見テモ一ト九トノ割合ニシ
 テ疾病年金ノ方カ多イナリ

保險機關ハ公債ヲ若干ノ區域ニ分ケ各區ニ保險所ヲ設ケ其事務
 ハ官吏及ニ公吏並ニ側ノ代表者 被保險者側ノ代表者ヨリナリ 理
 事會テ之ヲ經營セラオム 此ノ保險ハ疾病保險ト當然聯絡スヘテ
 モノナリトハ治療所ヲ設ケテ長期ノ疾病ニカハレルモノヲ收容スル
 コトモアル 或ハ之ニ收容セズニテ只療養ヲ受ヘルコトモアリ
 尚之ハ疾病保險ノ延長ナルヲ故一タトヒ短期間ニ治療セタモノト

星洲政府トナレモ一対ニテ救済スルコトハ此ノ制度ノ當然ノ
 任務ナリ 此 *Insurance* ハ獨ニ一法ヲハ一九一一年一月四
 日耳一改正セラ遺族ノ救済ヲ所カセルナリ 抑モ遺族ノタメニ
 スル強制的ノ保險ハ一九一〇年ノ *Finance* ノ法律カ最初メ
 リ 而シテ今日ハ佛 獨 *Switzerland, Italy* 四ヶ國カ此
 制度ヲ有ス 獨ニ一例ニ就テ云フト被保險者 保險者、保險料等
 ニ干スル氣ハ上ニ述ノ老疾保險ト全ニナリ

(1) 老疾タル男婦 即チ其夫タル被保險者カ死亡セル時ニ承之人
 自身カ老疾者ナル場合ハ遺族年金ヲ受ヘル 之ハ疾病ノ継続ス
 ル限リ与ヘラレ、ノラアツテ其金額ハ普通ノ疾病年金ノ三〇%
 一政府ノ補助金ヲ加ヘタモノナリ 若シ夫婦ノ遺族上ノ地位カ反
 對ナル片ニハ遺族年金ヲ受ヘル
 (2) 被保險者ノ死ニテ場合一一定額未滿ノ子供カアルハ遺族年金
 ヲ受ヘル

(C)

一八〇
保険者所へ疾病一カレレル男婦ニ対シテ療養ヲ賦ヘル時ト
シテ人病院一モ收容スレトナリ。此等ノ病カラ見ルト年金ヲ
賦ヘルノハ通例ノ遺児ニ対スル場合大ケテ現金額モ未ダ極少額
ナリ

職員階級ノ特ニ老免保険及遺族保険ヲ強制セルハ一九〇六年
(一九九年) *Chastice* ノ恩給保法カ初ノ一ニテ独乙ハ一九一
一年一職員保険ト名付ケテ公設ノ法律ヲ制定セリ。独乙ノ
法律ニヨルト年金ニ、五〇。以下ノモノヲ職員、教師、船員
等ノ強制的被保険者トナツラ居ル。前記ノ労働者ノ老免遺族保
険ニ於テ一五〇。以下ノ職員ハ任意ニ一、〇〇。以下ノ夫ハ
強制的ニ被保険者トナレテオタカラ之ノ範圍内ノモノハ一連一
保険セラル、賦ナリ。保険料ハ労働打半、保険給付モ大体一給
テ前記ノモノト全額ナルカ又寡婦年金ハ凡テノ男婦ニ主ラ賦ヘ
ルコトニナツテ開テ流産者トモ未亡人ニ限ラスコトナリ。此ノ度
ニナリ

英國ニハ老免者ノ給メ一養老年金制度アリテ七十歳以上ノ貧困
者ハ政府一担ツテ年金ヲ請求スル権利ヲ認メラレテオレシムルハ固
家ノ一方的給賦ナリ。保険者ノ夫私ヲ必要トセサレモノナリ
斯クノ如ク国民一対ニテ生存権ヲ承認スルコトハ一九一九年(一
明治二四年) *Seminale* ヲ始メテモ一モテ今日テハ地球
France 英國、英領植民地ノ多數ハ此ノ制度ヲ有ス
近年一至リテ子供ヲ持ツ夕食モ母親ノ生活ヲ保証スル給メ一
育児院ノ制度一付ハテ母親一年金ヲ賦ヘル方カ *Europe*
救々圖及 *America* ノ多數ノ州ニ採用サレテオレ、之ハ人倫
的精神及上ノ行政 策カフ似タモノナルカ全所一育児院ナル
モノナレタ。莫ナルニ病ハラス其子供ノ死亡率ノ高下等々カ
明ニナレテ結果幾分カ不信ヲ表明サレタ事ニモナル。然レ一
此ノ母親年金ナルモノモ国民ノ生存権ノ一ツノ視ハレナリ

失業ト云フハ労働能力及ニ労働意思ヲ有セナカラシムルコトヲ指シ職業ヲ得
 ラレヌコトヲ云フ今日ノ世界ハ失業ノ発生ハ免レヌコトナリ
 之ヲ一個人ノ問題トシテ見レハ其生活ヲ困難ナラセムルモノナリ
 之ヲ社会的見地カラ見レハ生産力ノ浪費ヲアリ引イテハ社会ノ不安
 ラ惹起スル故ニ失業ヲ免テ後和スル論メニハ職業無クテ所ヲ適
 当ニ組織セテ社会的ニ進マシメテハ國際的ニモ労働ノ需要供給ヲ調節
 スルコトカ大切ナリ而シテ凡ニ進マシメタル失業ヲ救済スルタメニ
 ハ公益事業例ハハ彼所ノ新築又ハ修繕土木業團體又ハ種林業ノ事業
 ヲ起スコトカ屬アリ併シ之ハ政府別ナル事情ノ論メニ一時一多教
 ノ失業ヲ止メタル如キ場合一行ハレル方法ニシテ平素タヘ生ス
 ル失業者ヲ救済スル方法ヲハナイ而シテ又臨時ノ救済策トシテモ
 凡テノ人ニ満足ヲ與ヘルコトハ國家ノ財政ヲ許サナイコトナリ故
 ニ新設業一対スル所求ノ準備トシテ失業保險ヲ行フトシテ之ヲ失業一統

シテモ失業保險カ必設ナリ

之ノ必要ニセマラレテ自然ニ全通セルモノカ労働組合ノ行ハレ失
 業保險ナリ労働組合ハ労働者ノ團結ニヨリ其地位ヲ改善スルコト
 ヲ目的トストモノナルカ失業ノ救済ニトシテ最モ大ナル敵ナルカ故
 ニ之ニ備ヘル論メニ平素カラ多少ノ積立金ヲナシ即チ一連ノ保險ヲ
 行ヒ末レムナリ近年ニ至リテ失業問題ノ解決ノ論メニ之ノ組合ヲ
 補助スルコトカ有益ナルコトカ認めラレ、一ニ至レリ之ハ一九〇〇
 年(明治三三年)ニハルギノ *ghent* 市 (*ghent* 市) *ghent* 市初メ採用
 セラレ且タ好成績ヲアリ他ノ多クノ都市ニ於テモ採用セラレ、一ニ至
 リモカハ通例ニシテ *ghent system* ト称セラル、但シ此ノ方法ノ
 一ツノ欠点ハ労働組合ニ属セサルモノ、論メニ失業保險ヲ行ヒ得ヤ
 ルコトナリ

一 一般労働者ニ失業保險ノ便宜ヲ與ヘル論メニ地方自治体又ハ私立
 團體ニヨリテ保險局カ設ケラレ任意加入ノ方法ヲトシテモアリ之
 ハ一八九三年(明治二十六年) *Switzerland* ノハルン市ヲ行ヘル

モノカ初ノナリ 要旨此方決ヲ採用セル所カ又澤山アリ 之ハ天災
 者ニ付スル救助ト云フ意味モ加ツテカ地方自治体并カラ多額ノ
 補助金ヲ支出シテオレ 併ニ任意保険ノ方法ニ付ハ多クノ欠陥カ強
 ク現ハレテ何レノ公営保險局モ概シテ失敗ニ終リヲオレ 即チ被保
 險者ノ少数ナルコト天災等ノ高イモノ大ケク多ク被保險者トナルコ
 ト 從テ費用過多ノタメニ財政困難ニ陥ハルコト等ノ欠陥カ理ヘレ
 ラオレナリ 之ヲ除ク爲メニ強制保險ノ方法ニヨラホナラヌ
 一般ノ労働者ニ対スル強制的失業保險ハ一八九四年(一七年
) *Switzerland* *St. Gallen* 市(一 *St. Gallen*) 行ハレタ
 カ 強制ノ方法宜キヲ得スミラ一年ノ始止セラレタリ 一九一
 年(一四年)ニ至リ英國ハ全國ノ労働者ノタメニ強制保險法ヲ
 制定セリ 一九一九年(一八年)ニ至リ *Italy* 一九二〇年一八
Austria 二法ヲ公採ノ法律ヲ制定セリ 此外一良他ノ政體巴
 拿馬一法ヲ *Spent system* ヲ採用コト居ル都市甚々多シ
 今茲ニ英國ノ状態ヲ思ハスル 一九一一年ニ *National insurance*

act ヲ制定シタ 其ノ第一部ハ *Health insurance act* 第二部
 リ 第二部ハ *unemployment insurance act* ナリ 后者ハ翌
 年ノ七月十五日ヨリ實施セラレタリ 被保險者ノ範圍ハ建築 土木
 造船 機械 製鉄 車輛製造 製材 ノ七職業ニ從事スル十六才以
 上ノ肉体的労働者ニ限ラレテ居ル 其ノ保險料及ヒ保險
 金額ハ均一ナリ 此ノ均一主義ハ英國ノ特徴ニシテ恐ラク生活ノ最
 少限度ヲ保証スル考ヘカラ出タモノト思フ 保險料ハ労働者ト雇主
 ガ折半シ之レニ政府ノ補助金ヲ加ヘル 被保險者ハ失業保險帳ガ渡
 カレテ居ル 就職中ハ雇主ガ之ヲ保管シ保險料トシテ失業保險印紙
 ヲ雇主ガ之レニハリツケル 而シテ保險料納付ノ方法トナシ 而シ
 テ労働者ノ負担部分ハ雇主ガ賃金中ヨリ除ク 失業者ハ保險料ヲ職
 業紹介所ニ提出シ職業ヲ与ヘラレタラバ之レニ從事シ 職業ナク
 バ保險金ヲモラウ 保險金ハ失業ノ初メ一週間ハ与ヘラレヌ 労働
 者ハ適當ノ職業ガ与ヘラレタラバコバムコトヲ得ズ 然シ労働争
 議ノ爲ニ生シタル空席ヲ満スコト及ヒ從來ヨリモ惡條件ノ職業ハ拒

ムコトヲ得、失業保険金ヲ与ヘナイ場合ハ、

- 1. 労働争議ノ為ニ職ヲハナレタルモノハ争議ノ継続中、
- 2. 不行跡ニヨリ又ハ正当ノ理由ナクシテ職ヲ去ツタモノハ六週
間ハ与ヘヌ、

3. 刑務所又ハ救養院ニ收容サレタ時、

4. 国外ニ(本国ニ)去リシトキ、

5. 疾病保険金又ハ養老金ヲ受ケテキルモノ、等ナリ、

此ノ制度ニツイテ注意スベキハ、(第二)ニハ spent system
 公営保険制度ト併合シタルコトナリ、即チ労働組合デ保険ヲヤツ
 テ居ルナラバ其組合ヲシテ之レヲ継続セシメテ政府ハ之レヲ補助金
 ヲ与ヘル、其他ノ者ノ為ニハ政府自ラ保険事業ヲ営ミ其ノ事務ヲ職
 業紹介所ニ取扱ハシメテ居ル、(第三)ニハ恒ニ職業紹介所ト密接ナ
 ル聯絡ヲ保チ之ニヨリテ失業ヲ予防シ又ハ保険詐欺ヲ防グ、(第三)
 ニハ上述ノ強制保険ノ外ニ任意保険ヲ奨励スル為ニ一般ニ失業保険
 ラ行ツテ居ル、労働者ノ団体ニ補助金ヲ与ヘルコトナリ、(第四)

ニハ法定以上ノ給付ヲナスコトハ各組合、意トシタコトナリ、

戦争中ニ軍需品工業が盛ニ行ハレシガ戦后ニハ之レガ為メニ多ク
 ノ失業者ヲ生スルコトヲ慮リ一九一六年(五年)ニハ其ノ従業者ニ
 モ失業保険ヲ強制セリ、之レガ為メニ被保険者ハ凡ソ一五〇万人ヲ
 突破セリ、一九一八年(七年)ノ末ニ休戦条約ノ締結サレタルキ軍
 隊ノ復員、経済界ノ動搖等ノ為メニ多数ノ失業者ヲ生ゼシタメ一時
 ハ失業保険法ヲ停止シ其代リニ臨時処分トシテ政府ハ無償デ失業シ
 当金ヲ与ヘルコトニセリ、

一九二〇年ニ新ニ失業保険法ガ制定サレ全年十一月ヨリ実施サレ
 タ、其ノ被保険者ノ範圍、保険概算、保険料及ヒ保険金額ハ大イニ
 変更ヲ加ヘラレタ、然シ其他ノ一般ニ保険ノ根本原理ト云フベキモ
 ノハ旧法ト全様ナリ、其ノ被保険者ハ肉体的労働ト精神的労働タル
 トヲ同ハズ十六才以上ノ被傭者ハ悉ク被保険者ナリ、例外トシテ農
 業労働者、家庭労働者、軍人、教員、官公吏、鉄道其他ノ公益事業
 ノ従業者、年收ニ五〇〇円ヲ超ヘル職員、一時的ノ傭人、等ハ保険